

目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 回答者の属性.....	3
2 学習意欲などの変化.....	4
2. 1 学習意欲の変化.....	4
2. 2 出席コマ数の変化.....	5
2. 3 授業外学習時間の変化.....	5
3 成績評価への納得度.....	6
3. 1 成績評価全体への納得度.....	6
3. 2 成績評価に納得できない理由.....	7
3. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容.....	9
4 「満足した科目」「不満だった科目」.....	10
4. 1 「満足した科目」とその理由.....	10
4. 2 「不満だった科目」とその理由.....	19
5 全学共通科目への期待.....	27
5. 1 全学共通科目に期待する内容.....	27
5. 2 期待は実現されたか.....	29
6 今後の全学共通教育への要望.....	31
6. 1 項目別集計.....	31
6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容.....	33
7 自由記述.....	35
7. 1 総合人間学部.....	35
7. 2 文学部.....	38
7. 3 教育学部.....	40
7. 4 法学部.....	42
7. 5 経済学部.....	46
7. 6 理学部.....	47
7. 7 医学部.....	54
7. 8 薬学部.....	57
7. 9 工学部.....	58
7. 10 農学部.....	74
8 まとめ.....	79
8. 1 統計的結果について.....	79
8. 2 自由記述について.....	79
【資料】平成 17 年度 2 回生進級時アンケート用紙.....	82

はじめに——調査の趣旨と概要

高等教育研究開発推進機構で学部新2回生全員を対象として実施している「2回生進級時アンケート」は、今回、平成18年度（平成17年入学生対象）で第3回目となる。この調査の目的は、学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための重要な資料とすることにある。

この調査の前提には、平成15年度より実施している「新入生アンケート」がある。これは、学部新入生にガイダンスの際、入学にあたっての抱負とこれからの期待などを自由に記してもらうものである。「2回生進級時アンケート」では、この1年前の「新入生アンケート」の回答を学生に返却し、自分の入学当時の抱負・期待を読み返しつつ、1年間の全学共通教育を中心とした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

アンケート用紙の配布は、平成18年4月、各学部新2回生への1回生後期成績表交付時におこなった¹。記入後のアンケート用紙は、同封の返信用封筒に厳封のうえ、4月21日（金）までに、共通教育教務掛前のレポートボックス、または各学部（学科）の教務掛に設置の回収箱に投函、もしくは郵送（料金受取人払い）にて送付してもらうよう依頼した。回収状況は表0-1に示したとおりであり、提出者数は776名、提出率は26.5%であった。

表0-1 アンケート回収状況

学部	在籍者数			提出者数	提出率
	計	男	女		
総合人間学部	124	83	41	38	30.6%
文学部	215	112	103	55	25.6%
教育学部	65	38	27	19	29.2%
法学部	346	272	74	58	16.8%
経済学部	255	208	47	33	12.9%
理学部	311	283	28	93	29.9%
医学部	241	143	98	62	25.7%
薬学部	89	60	29	17	19.1%
工学部	969	904	65	327	33.7%
農学部	311	225	86	74	23.8%
合計	2,926	2,328	598	776	26.5%

¹ アンケート用紙全文は本報告書の末尾に資料として添付した。

以下、本報告書では、原則としてアンケートの設問順に回答の集計結果および自由記述の内容を示しつつ、簡単なコメントを添えていきたい。ただし、結果の解釈は本文中では最小限にとどめ、もっぱら客観的なデータを提示することを主眼とし、「まとめ」で若干の全体的な考察を行うこととした。

なお、前回の平成17年度「2回生進級時アンケート」調査報告書（<http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/pdf/link/link0241.pdf>）では統計的な分析に重点を置いたため、自由記述の内容については抄録にとどめざるを得なかった。今回は、統計的結果については前回と比べて顕著な差がみられないのではなるべく簡潔な報告にとどめ、それに代えて、いわば学生の「生の声」を最大限に伝えるという意味で、自由記述の内容を原則としてすべて掲載することにした²。このため、今回の報告書ではアンケート最後の問9の自由記述の収録（7章）が全ページ数の過半を占めることとなった。以上の点をご了解の上、できれば前回の報告書と見比べながらご一読いただければ幸いである。

なお、今回のアンケートの質問項目を作成するうえで、高等教育研究開発推進センター（高等教育教授システム研究開発部門）の大塚雄作教授からは、多くの貴重なご示唆をいただいた。この場を借りて御礼を申し上げたい。

そして最後に、新学期の大変忙しい中アンケートに回答してくれた学生の皆さんに謝意を表したい。

² ただし教員個人名および一部の科目名は伏せ字などを用いて匿名化した。また、回答者自身の希望により掲載しなかった部分がある。

1 回答者の属性

問1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男 2 女

問2 あなたの所属学部をお答えください（総合人間学部は、人間科学系・国際文明学系・文化環境学系の方は「文系」、認知情報学系・自然科学系の方は「理系」を選んでください）。

- 1 総合人間学部（文系） 2 総合人間学部（理系） 3 文学部
4 教育学部 5 法学部 6 経済学部 7 理学部
8 医学部 9 薬学部 10 工学部 11 農学部

回答者の属性（性別および所属学部）の人数・構成比は下記図1-1および図1-2に示したとおりである³。

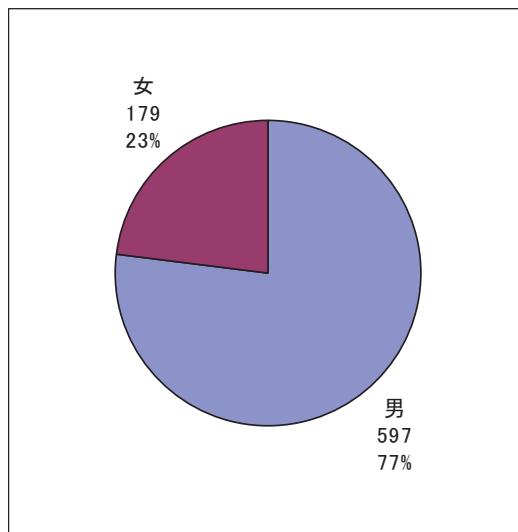


図1-1 性別人数・構成比

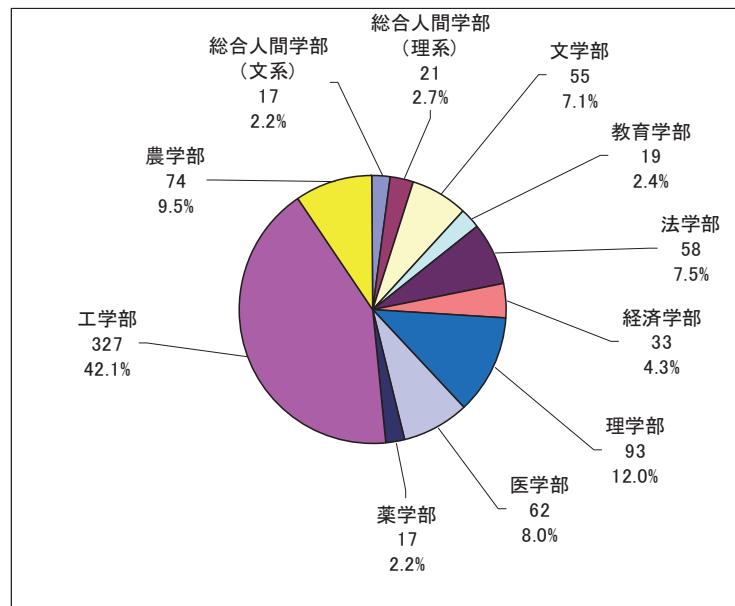


図1-2 学部別人数・構成比

³ 以下、いくつかの設問については集計を回答学生の「文系」「理系」別にもおこなっている。「文系」は回答者の所属学部が総合人間（文系）、文、教育、法、経済の各学部のケース、「理系」は総合人間（理系）、理、医、薬、工、農の各学部のケースをそれぞれ抽出して集計したものである。

2 学習意欲などの変化

問3 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在までに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

- | | | | |
|--------|------------|-------------|--------------|
| (学習意欲) | 1. 非常に意欲あり | 2. まあまあ意欲あり | 3. どちらともいえない |
| | 4. あまり意欲なし | 5. まったく意欲なし | |

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数／週	授業外学習時間／日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数／週	授業外学習時間／日
入学当初	5	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4 コマ	3 時間
後期半ば	4	〃	〃
現在	1	12 コマ	

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

2. 1 学習意欲の変化

5つの時期を通しての学生の学習意欲の変化を全学部、文系、理系の別に平均値でみると、図2-1のようになった。全体として、入学当初にはかなり高かった学習意欲が、時期が進むにつれて少しづつ低下し、2回生に進級した現在では再び高まるという推移がみられる⁴。

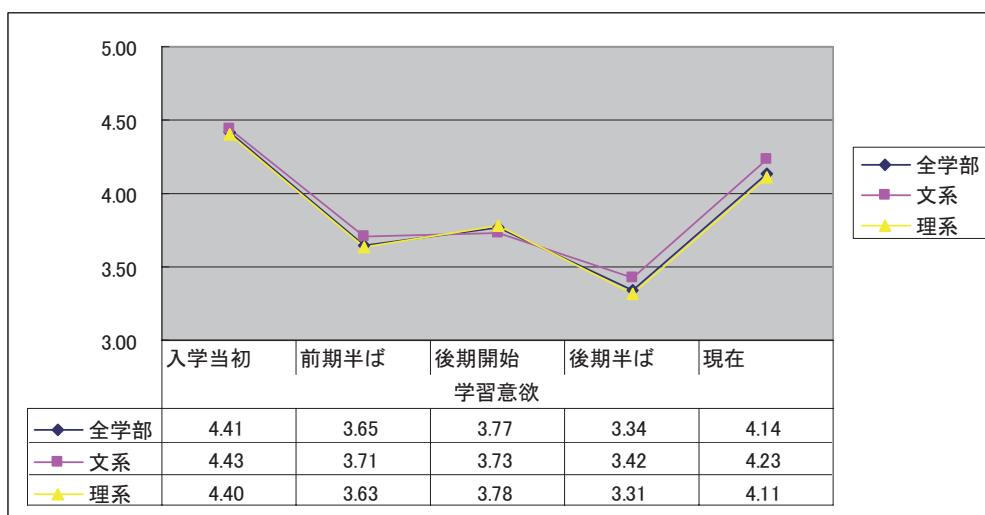


図2-1 学習意欲の変化

⁴ 「非常に意欲あり」 5点～「まったく意欲なし」 1点として集計した。

2. 2 出席コマ数の変化

同様に、出席コマ数の変化は図 2-2 のようになった。入学当初は平均 17~18 コマ出席していたが、徐々に減少し、後期半ばには平均 12~14 コマ、2 回生初めの現在は 14~15 コマとなっている。1 回生の 4 つの時期では、いずれも理系学生のほうが文系学生より若干出席コマ数が多い。

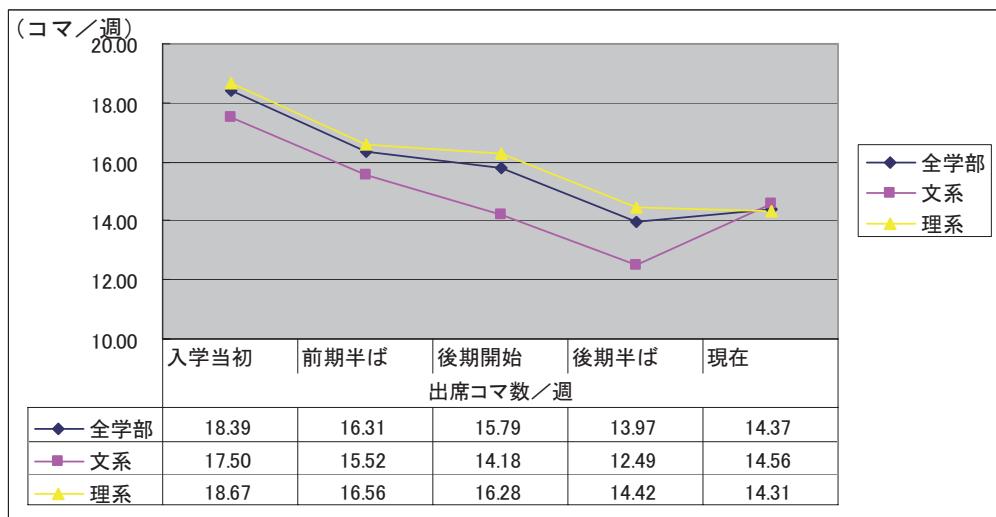


図 2-2 出席コマ数の変化

2. 3 授業外学習時間の変化

同様に、授業外学習時間の変化は図 2-3 のようになった。出席コマ数が徐々に減少しているのに対し、授業外学習時間は、理系学生の場合はあまり変化がなく、文系学生の場合は（とくに 2 回生進級時点で）増加していることがわかる。

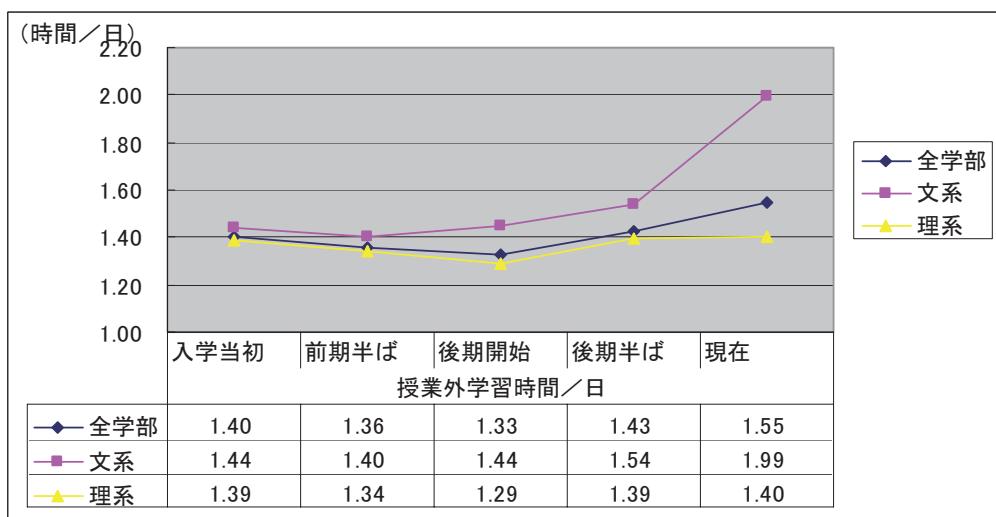


図 2-3 授業外学習時間の変化

3 成績評価への納得度

問4 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している 2 どちらかといえば納得している
3 どちらかといえば納得できない 4 納得できない

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問5に進んでください）。成績評価に納得できなかつた理由は何ですか。あてはまるすべての番号に○を（最も重要なものの1つには◎を）付けてください。

- 1 成績評価が厳しすぎる
2 成績評価が甘すぎる
3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
4 成績評価の基準・方法が不公正である
5 その他（
）

3. 1 成績評価全体への納得度

1回生時の全学共通科目の成績評価への全体としての満足度は、図3-1-1のとおりであり、「納得している」「どちらかといえば納得している」をあわせると約85%となる。この数字を見る限り、全学共通科目の成績評価全体に対しては、大半の学生がほぼ納得しているといってよい。

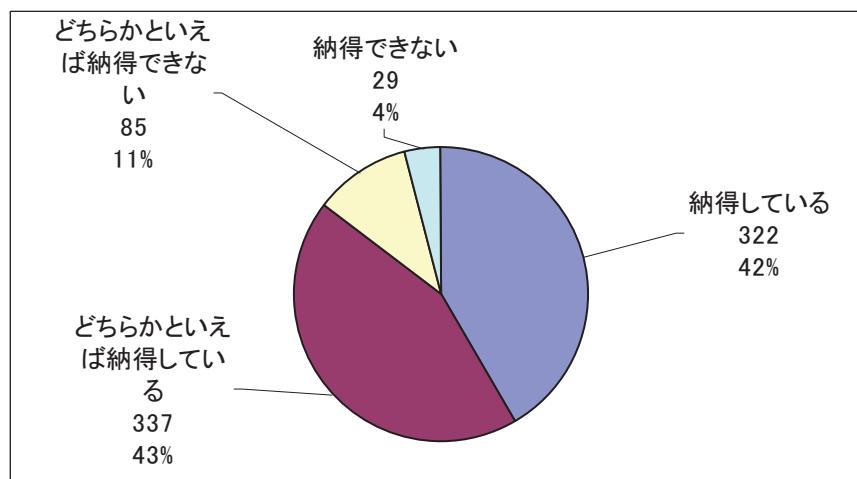


図3-1-1 成績評価全体への納得度（全体）

回答学生の文系・理系別に集計すると図3-1-2のようになり、「納得している」が文系学生では46%に対し理系学生では40%と、若干理系のほうが少なくなっている。ただし「どちらかといえば納得している」を加えると、文系学生は87%、理系学生は85%と差が縮まる。

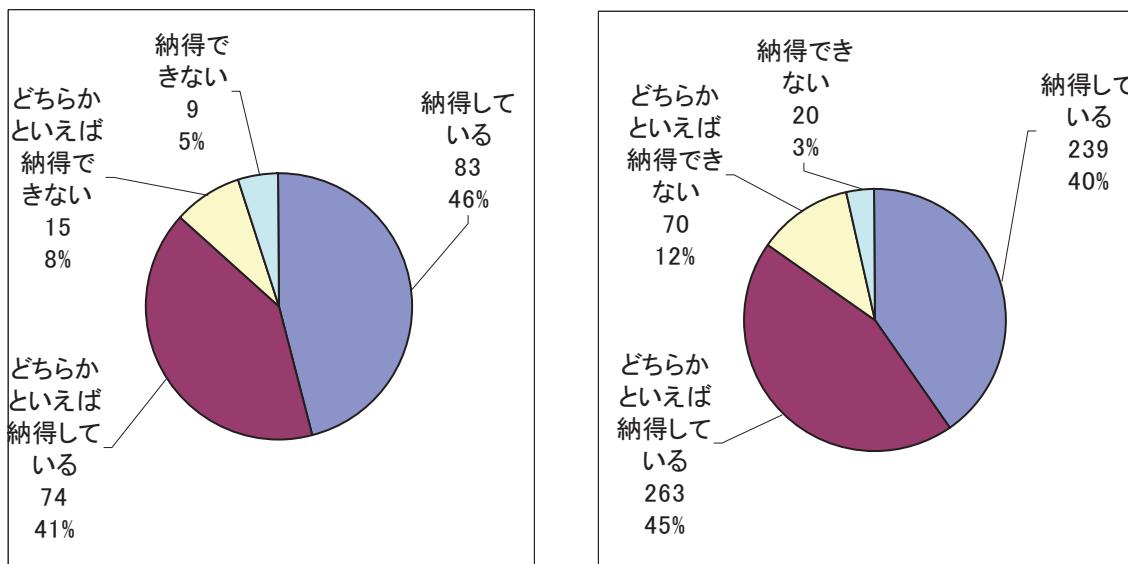


図3－1－2 成績評価全体への納得度（左：文系、右：理系）

3. 2 成績評価に納得できない理由

全体として、自分の成績評価に「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と回答した学生に、その理由を尋ねた結果が、図3－2－1である。最重要項目（1つだけ選択）においても任意選択項目（複数選択）においても、「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかつた」が最も多く（73名、全回答者の9%）、ついで「成績評価の基準・方法が不公正である」（37名、同5%）となっている。

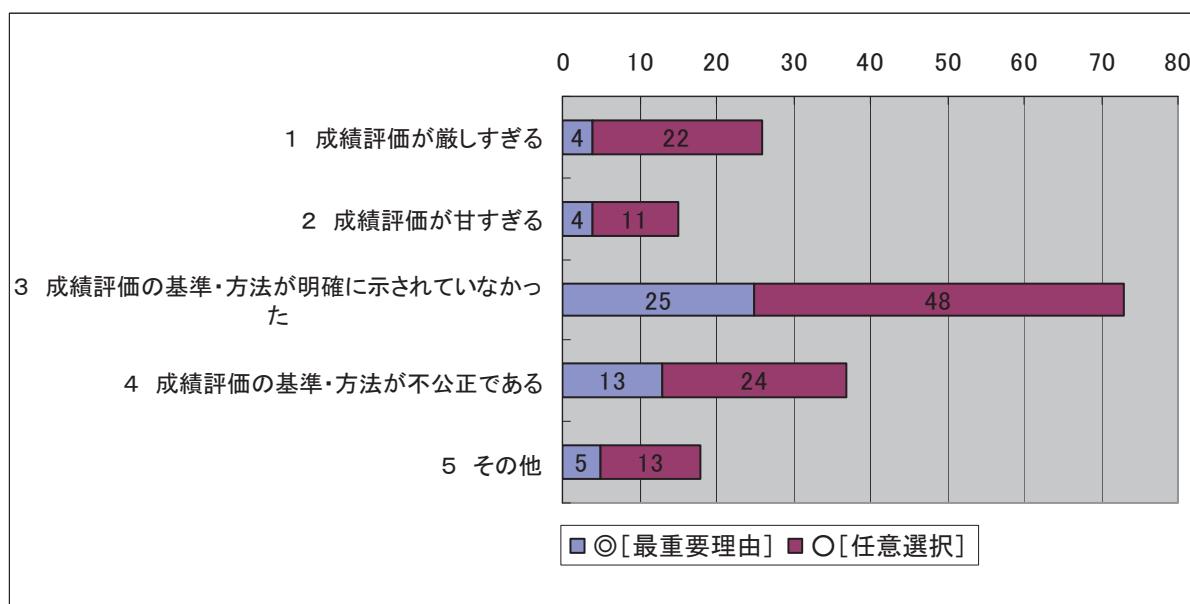


図3－2－1 成績評価に納得できなかつた理由・項目別集計（全體）

回答学生の文系・理系別にみると図3-2-2のようになり、「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかった」が最多である点は変わらないが、文系学生よりも理系学生のほうがより多く「成績評価の基準・方法が不公正である」「成績評価が厳しすぎる」を挙げていることが分かる。

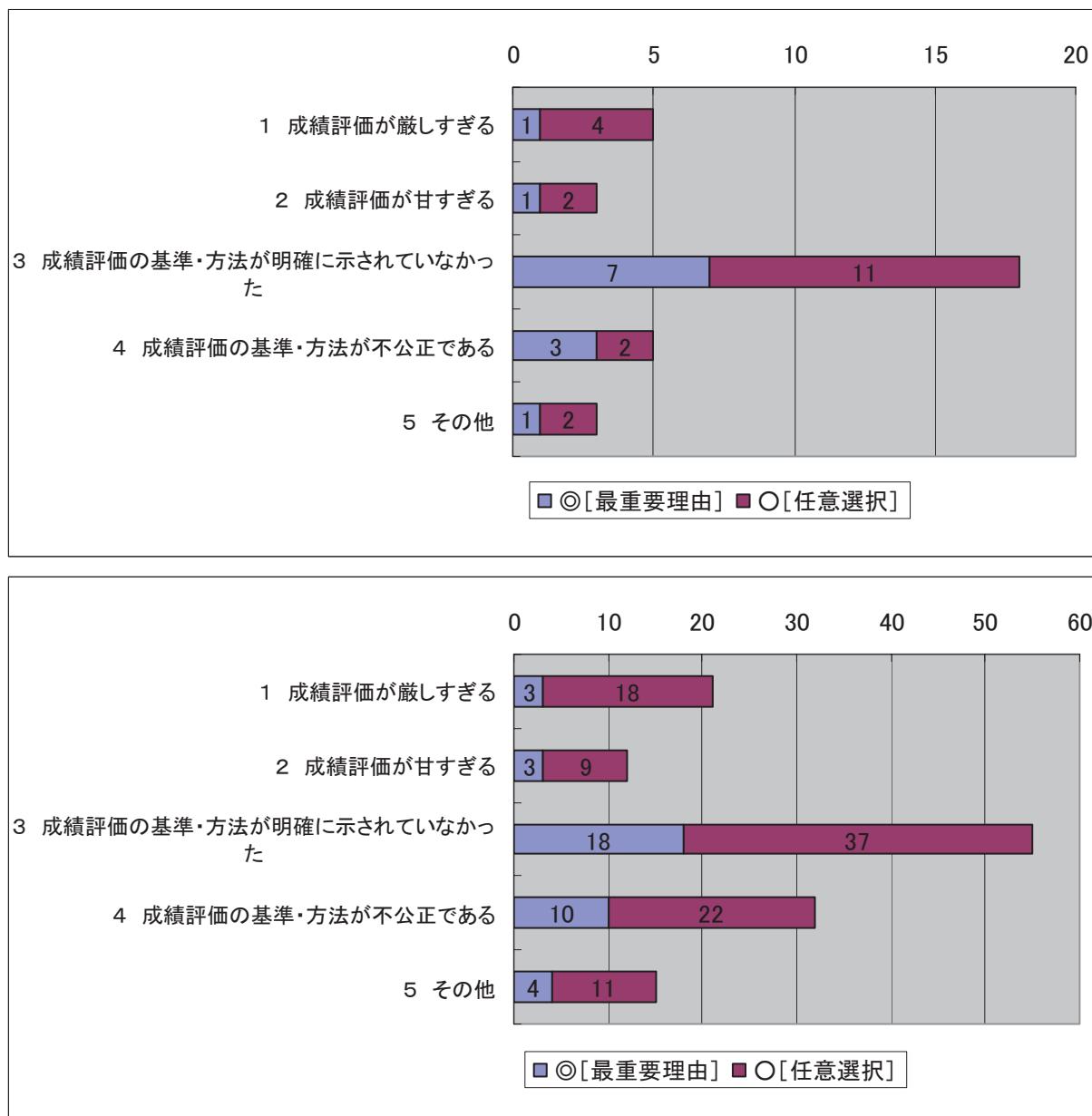


図3-2-2 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計（上：文系、下：理系）

3. 3 「納得できない理由：その他」の記述内容

「成績評価に納得できない理由」の「その他」としては、下記のように、成績評価の基準・方法への疑念や成績のフィードバックへの要求を述べた回答が比較的多かった。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【】内に学部名・性別を記載した。

- ◎学生が、定期試験の採点結果を確かめることができない。【経済・男】
- ◎なぜそのような成績がついたのかわからない。答案を返却してくれれば明確になるのだが。

【理・男】

- ◎レポートといわれレポートを出したら「良」だった。レポート（データを集め結論を出す）なのか小論文（自分の理論中心）を書けばよいのかわかりにくい【工・男】
- 自信のあった科目が“可”だったり、自信のなかった科目が“優”だったりした。【工・男】
- 点数が発表されない。【工・男】
- 実際の点数が分からぬ。【工・男】
- 成績評価の基準・方法が謎。何点だったか知りたい。【工・男】
- 何点だったか教えて欲しい。【工・男】
- テストの答案が返却されない【工・女】
- よくわからないが不合格になっている。【工・男】

4 「満足した科目」「不満だった科目」

4. 1 「満足した科目」とその理由

問5 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。科目群は、A, B, C, Dのうちの1つを○で囲んでください（AB群など複合科目の場合は、たとえばA群として履修登録した場合はAだけを○で囲んでください）。また、それぞれの科目に満足した理由について、あてはまるすべてのものに○を（最も重要な理由一つには○を）ご記入ください。

	科目①				科目②				科目③				
開講期	前期・後期・通年				前期・後期・通年				前期・後期・通年				
曜日・時限	曜限				曜限				曜限				
科目名													
科目群	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
満足した理由	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった		2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた		3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた		
	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた		5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた		6 その他	6 その他	6 その他		

4. 1. 1 科目群別の集計

「満足した科目」としてあげられた科目（総数延べ1447科目）を、科目群別（および回答者の文系・理系別）に集計すると図4-1-1のようになった。全体としては、A群科目が5割弱、B群科目が4割弱と、この二つの科目群で計8割強を占めている。文系学生ではA群科目が約7割と圧倒的に多くを占め、B群科目は約2割にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が4割強と最多であり、A群科目はやや少なく4割弱である。この数字を見る限り、文系学生はA群科目に満足している比率が高く、理系学生はB群科目に満足している比率が高いという常識

的の予想を裏づける結果となっている。ただ、理系学生がA群科目に満足している比率に対し、文系学生がB群科目に満足している比率がとくに低いことは注目される。

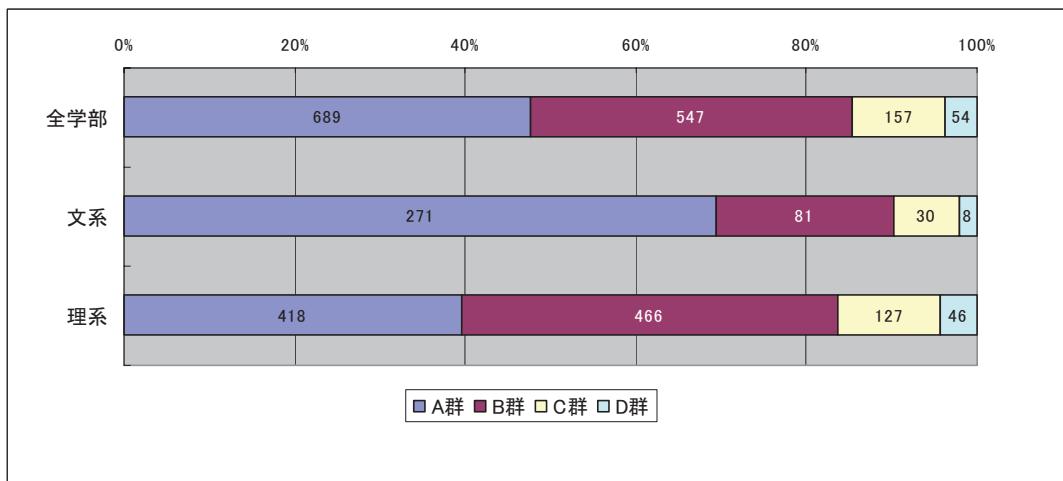


図 4－1－1 「満足した科目」科目群別科目数（構成比）

4. 1. 2 「満足した理由」の分析

次に、「満足した理由」の各項目別の集計結果を図4－1－2に示した。最重要項目（1つだけ選択）においても、任意選択項目（複数選択）においても、「授業の内容が興味深かった」が最も多く（延べ1197科目）、ついで「担当教員の熱意を感じた」（延べ752科目）となっている。この結果は、第一に授業の内容そのものに対する興味・関心が、第二に教員の熱意が、学生の「満足」感を大きく規定する要因となっていることをよく示しているといえよう。

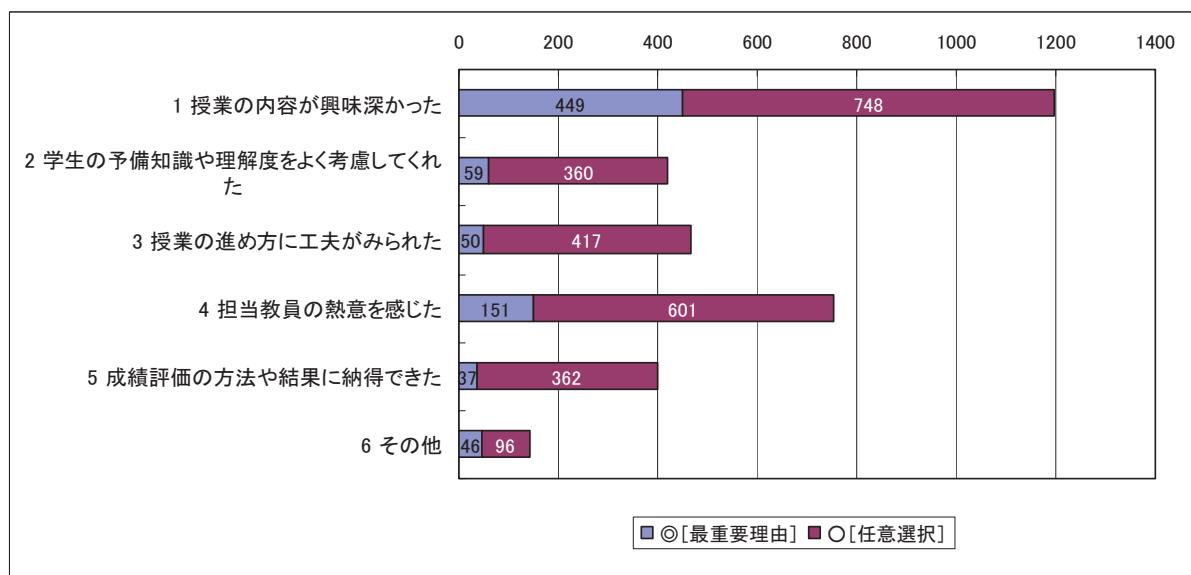


図 4－1－2 「満足した理由」項目別集計（全体）

回答学生の文系・理系別に集計すると図4-1-3のようになり、回答傾向にあまり顕著な差はみられなかった。

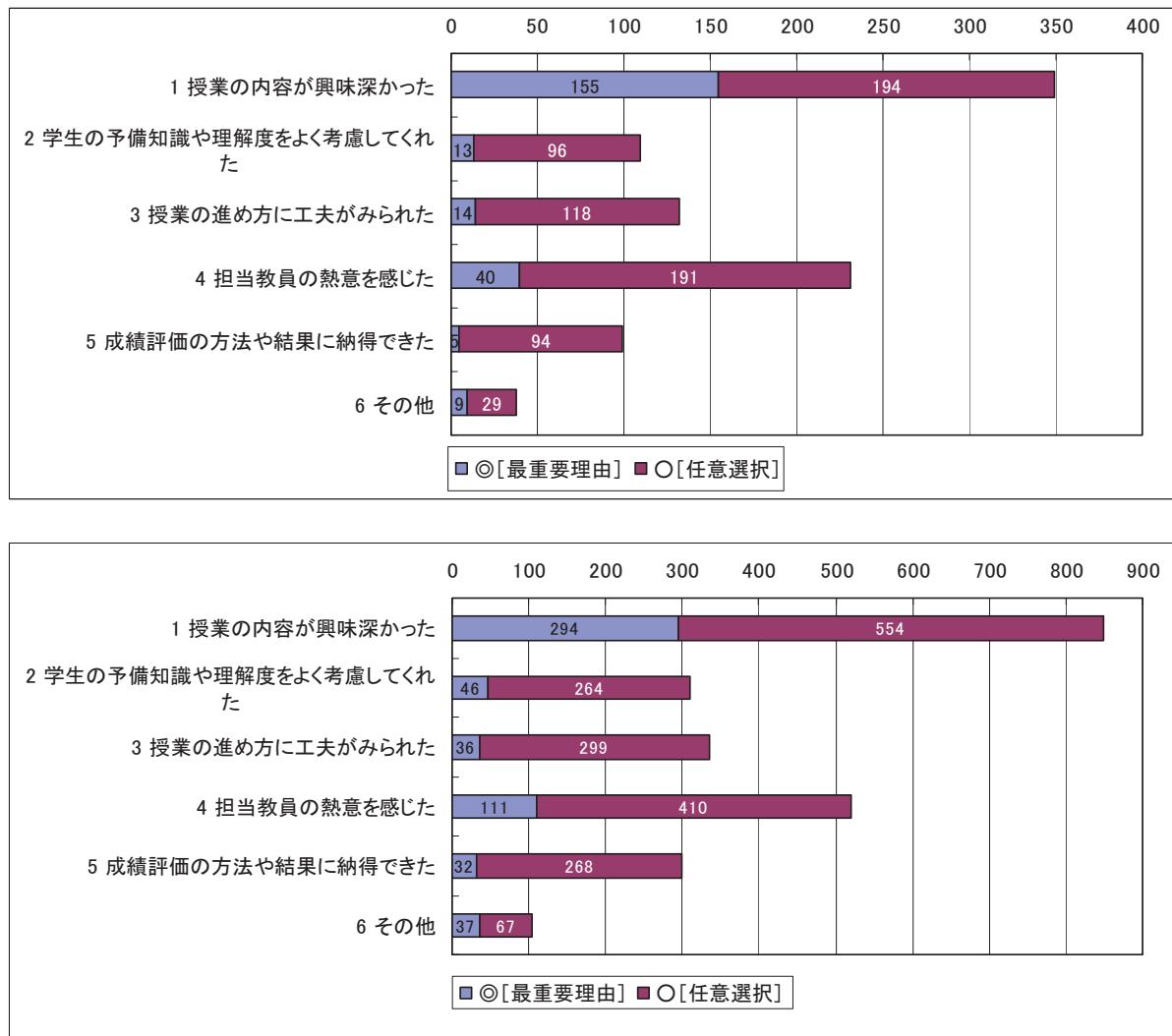


図4-1-3 「満足した理由」項目別集計（上：文系、下：理系）

4. 1. 3 「満足した理由：その他」の記述内容

「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容は次のように多様であるが、教員の人間的魅力や、(とくに少人数形式の授業での)教員との、あるいは学生間の交流を評価する記述が比較的多くみられた。以下、A、B、C、Dの各群科目別に、記述内容を掲載する。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎アシスタントの人がとても親切だった【総人・男】
- ◎企業や民間団体で働く人の講演が毎回聴けて、とても興味深かった。【総人・女】
- ◎大変だがその分やりがいがあった。【文・男】
- ◎板書がとても読みやすく、解説もわかりやすかった。【文・女】
- ◎予習・復習の成果が目に見えてわかる。【文・男】
- ◎＊＊先生の情趣に心を打たれた。【文・男】
- ◎色々な人の話を聞けた。【法・男】
- ◎おおざっぱな教員が多い中で、この教員はとても丁寧でまじめだった。【理・男】
- ◎内容もさることながら、それに対する教官の解釈の鋭さに毎回目からウロコが落ちる思いだつた。【医・男】
- ◎優が取れたから。ギリシャ哲学に触れることもでき、大変良かった。【工・男】
- ◎試験ではなくレポートだったから、毎回楽しく授業を受けられた。【工・男】
- ◎素晴らしい仲間ができ、共に様々な経験ができた。【工・男】
- ◎先生がおもしろい。【工・女】
- ◎いろんな人の話が聞けてよかったです。【工・男】
- ◎優が取れた上に外国人の人々と交流できたから。【工・男】
- ◎留学生と知り合うことができた。【工・男】
- ◎日本語がきれい。【工・男】
- 先生がとても好感を持てる人柄だった。【総人・女】
- 上回生、他学部生、院生、聴講生と、多彩な受講生がいた。【総人・女】
- 教員の考え方方が明確で特徴的であり、かつそれがよく伝わってきたような気がしました。【総人・男】
- とにかく授業のレベルが高く、濃かったです。【総人・女】
- 教員の考え方方が明確で特徴的であり、かつそれがよく伝わってきたような気がしました。【総人・男】
- 一人一人の教員の考え方や、精神病理の理解の仕方に感動したためです。【総人・男】
- 担当教員の頭の良さを感じた【総人・男】
- 何より楽しかった。【文・男】
- ＊＊教授の人柄が好き。【文・女】
- 板書がしっかりしていた。【文・男】
- テストの返却があり、それについてしっかりしたコメントがついていて、やる気が出た。【文・男】
- ポケゼミっていいと思うよ。【文・男】
- 教官の知識がすごかったしおもしろかった。【文・男】

- わからない所を根気強く教えてくれた。【文・女】
- 教授とのメールのやり取りができ、興味が湧いた。【文・男】
- リレー形式で色々な教官が色々な授業をしてくれてよかったです。【文・男】
- 珍しい映像がたくさん見れて、初めてそれらを解釈してとても新鮮でしたのしかった。【文・女】
- 先生が面白い【文・女】
- 毒舌の効いた雑談が面白かったし、中国でFWした際の話はとても興味深かったです。【文・男】
- 少人数で個人的な人間関係を築け、学びあえたこと。【教育・女】
- 民博での補講が興味深かったです。【教育・女】
- 寝る、喋る等の生徒に非常に厳しく、講義の空間を大切にする先生の姿勢が好きでした。【教育・女】
- 好き勝手できた。【法・男】
- 時事問題にも触れながら刑事訴訟法の一端を学べた。改めてロースクールに魅力を感じた。
- 【法・男】
- ポケゼミは少人数で楽しかったです。【法・女】
- 略字が板書を取るのに役立った。【法・男】
- 自分で内容について調べ、報告するという作業がおもしろかったです。【法・男】
- 憲法についてかなり深く学べたと思う。2回からの専門科目が楽しみになった。【法・男】
- とにかく板書がよくまとまっていて、勉強しやすかったです。【法・男】
- 学生との相互理解【法・男】
- 教科書もコンパクトながら勉強になるものだった。【法・男】
- 課題が多く苦しかったがその分充実感があり、役にも立った。【経済・男】
- 内容も面白く、ためになる話が多かったです。【経済・男】
- 経済学への教授の思い入れが伝わってくる内容だった。【経済・男】
- 総合大学に入ったメリットをいかせたと思う。【経済・女】
- とてもいい経験ができたと思う。【経済・女】
- 楽しかった。【理・男】
- 本の紹介が多かった。【理・男】
- 留学生との授業が刺激的であった。【理・男】
- 先生がリレー形式で、多様な内容に触れられ、いろいろな視点から考えられた。【理・男】
- 先生の人間性が意外だった。【理・男】
- 週一人のリレー講義であった点。様々な視点を知った。【理・男】
- 学生間、学生と教員の交流が充分であった。【医・男】
- 「あたり前」を深くつきつめると、とても生きてく上で重要なことがあることに気付かされた。【医・女】
- 学生と教員の交流が充分であった。【医・男】

- ＊＊先生の話が興味深い。【医・男】
- 先生がおもしろい【薬・女】
- 楽勝だった【工・男】
- 芸術・建築に触れることができた。【工・男】
- 人生について考えさせられた。【工・男】
- 単位をくれた。【工・男】
- 身近な例をあげた。【工・男】
- 楽しかった【工・男】
- 1分で単位がとれた【工・男】
- 好きな内容だから。【工・女】
- 将来役に立ちそうな内容だった。【工・男】
- ＊＊先生の講義が印象的だった。【工・男】
- 将来役に立ちそうな内容だった。【工・男】
- 学生と教授の双方向の授業。知識にとどまらず学問への取り組み方など様々なものの考え方
が変わった。【農・女】
- 資料が豊富【農・女】
- 専門の内容に応用できそうだったので。【農・女】
- 感想メールを毎日とり、双方向的な授業【農・女】
- 英語だけに限らず様々な世界情勢も解説してくれて非常に有意義だった【農・女】
- リレーで色々な話を聞ける。【農・女】
- 英語での授業に触れることができたこと。新たな興味を発見できたこと。【農・女】

■B群科目

- ◎現地実習っていうのが楽しいから【総人・男】
- ◎毎回生徒のコメント・質問を読み上げて話を広げていくという授業形式がおもしろかった。
【文・女】
- ◎ゼミって面白いなと、思えた。／先生の人柄もよくて、授業も理解しやすかった。【文・女】
- ◎非常に丁寧であり理解しやすかった。【理・男】
- ◎学習意欲が高まるような指導をして下さいました。【理・女】
- ◎フィールドワークに連れて行ってもらったから。(授業外で)【理・男】
- ◎最先端の実験施設を見学でき、良い経験になった。【理・男】
- ◎友人が増えた。【理・男】
- ◎マレーシアまで行った。【理・男】
- ◎教員の人柄【工・女】
- ◎教科書が分かりやすい。教え方がうまい。【工・男】

- ◎授業の前にする＊＊先生の話がとてもおもしろかった。【工・女】
- ◎教員が愉快。【工・男】
- ◎とにかく説明が丁寧で分かりやすい。【工・男】
- ◎わかりやすかった上、授業外でも勉強がしやすかった。【工・男】
- ◎多くの人のおかげでとても豊かで貴重な経験ができた。【工・男】
- ◎担当教員の植物に対する深い愛情を感じました。【農・女】
- ◎質問をメールで受け付け、P Cに疎い私にとってとても役立ちました。【農・女】
- コンピュータを実用的に扱えるようになった【総人・男】
- 楽しかった。いい経験ができた。【総人・男】
- ＊＊先生がとても好きでした。オフィスアワーも毎週行きました。【教育・女】
- 真面目な受講生ばかりが残っていて雰囲気が良かった。【教育・女】
- 集中講義、フィールドで体験の学びがあった。【教育・女】
- 一方通行ではない授業【法・男】
- 運動に目覚めた。【法・男】
- 学問の深さ、おもしろさの一端を教えてくれる良い講義だった。今年受けた中で最高でした。
- 文系ですが、他の＊＊教授の講義も受けたい。【経済・男】
- 教授に魅力を感じた。【理・男】
- 先生の人間性にひかれた。【理・男】
- 自主性に任せ、適度にアドバイスをくれる実験ができた。自分で考えるということがわかった。【理・男】
- ポケゼミは素晴らしい科目と思う。【理・男】
- 先生の人間性が良かった。【理・男】
- 内容はとても難解でしたが、頑張って理解しようという意欲を持ち続けられる講義をして下さいました。【理・女】
- 分かりやすかった。【理・男】
- 導入やノートが丁寧で「わかるように」教えてくれた。【理・男】
- 周りの学生と親密になれた。【理・男】
- 最先端の研究についても紹介して下さったので興味深かったです。【理・女】
- よくわからなかった。【理・男】
- 内容がいい。先生もすごい。【理・男】
- 余談もためになった。【医・男】
- 人生について学べた。【医・女】
- 医療の最前線（現場）について行ってもらい、生の声に触れることができたこと。【医・女】
- ＊＊先生、＊＊先生の人柄が素敵だった。【医・女】
- 高校化学の知識を目で見て確認できた。【医・男】

- ためになった。【工・男】
- レポートで逐一理解度をはかってくれた。【工・男】
- 授業がわかりやすい【工・男】
- 難しい分、必死になって勉強した。【工・男】
- 先生がおもしろかった【工・男】
- 「数学」の意義を知ることができた。【工・男】
- 先生が神でありすばらしかった。【工・男】
- 非常に理解しやすかった。【工・男】
- レポートの書き方を学べた。【工・男】
- ポイントがわかりやすく示されていた。【工・男】
- 教員の話が面白かった。【工・男】
- 教科書がすごく良いものでした。【工・男】
- 専門科目の予備知識となった。【工・女】
- レポートは大変だったが、実験は楽しかった。【工・女】
- 環境問題に対する理解が深まった。【工・男】
- 演習の時間があったから【工・男】
- 英語で授業が聞けた。【工・男】
- 本で学んだ知識を実際に自分の目で確認できて良かった。【工・男】
- 教科書で非常に良いものを指定してくれたから。【工・男】
- わかりやすかった。【工・男】
- 教科書も先生ご自身が書かれたものだったのでわかりやすかった。【工・男】
- 授業外に自分で時間をかけて勉強できた。【工・男】
- 教科書が非常に良くできていて勉強しやすい。【農・男】
- 貴重な体験をたくさんさせていただき、とてもうれしかったです。【農・男】
- みんな意欲があり、刺激を受け、切磋琢磨できた。【農・女】
- 内容がおもしろかった。【農・女】
- レポートをきっちりチェックしてくれた【農・女】
- 専門の内容に応用できそうだったので。【農・女】
- 実用的なことが学べた【農・女】

■ C群科目

- ◎教員の人柄がおもしろかった。【総人・男】
- ◎楽だった。【理・男】
- ◎まるで先任軍曹のようなD r. **がおもしろかったから。【工・男】
- 教員がおもしろく授業を進めてくれ、楽しかった。【総人・女】

- 良い先生でした。【総人・女】
- 教官がいい人だった。【文・男】
- ＊＊先生がとてもいい人でとてもおもしろかった。【文・男】
- 頭が良くなつた気がした。【理・男】
- マンネリ化されてなく、飽きなかつた。【理・男】
- 英語力 up のために様々な角度からのアドバイスがよかつた。【理・男】
- 勉強したかいがあつた。【医・男】
- 楽だつた。【工・男】
- スピーチの練習になつた。【工・男】
- 教員が、ドイツに精通しており、その話を聞いていると、ドイツに興味がわき、その結果ドイツ語にも興味がわいた。【工・男】
- スピーチ能力が身につけられた【工・男】
- 教員の人柄【工・女】
- 暗記のごろ合わせを教えてくれたりと、授業の進め方が学生を飽きさせなかつた。【工・男】
- 非常にためになる授業だった【工・男】
- 楽しく授業を毎回受けられました。【工・男】
- 先生がやさしかつた。【工・男】
- 教員の人柄【工・女】
- 中国旅行（春休み）のきっかけを与えてくれた。【工・男】
- 授業内容がしっかりしていて休講も少なかつた。【農・女】

■ D 群科目

- ◎ソフトボールが楽しいから【総人・男】
- ◎良い運動になつた。【文・男】
- ◎先生がおもしろい。【工・女】
- ◎トーナメントで勝つて賞品をもらつた【工・男】
- ◎体を動かすことも必要でしょう。【工・男】
- 先生の話がおもしろかった。【工・男】
- 楽しかつた。【工・男】
- 神様、仏様、＊＊様【工・男】
- 適度な運動になつた。【工・男】
- 楽しかつたから。【工・男】
- ユニークで楽しめる授業だった。【農・女】
- サイクリングやウォーキングなど、運動が苦手な私でも楽しめた。【農・女】

4. 2 「不満だった科目」とその理由

- B. あなたがとくに不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。次頁の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。また、それぞれの科目に不満だった理由について、あてはまるすべての箇所に○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時限	曜限	曜限	曜限
科目名			
不満だった 理由	1 授業の内容に興味をもてなかつた	1 授業の内容に興味をもてなかつた	1 授業の内容に興味をもてなかつた
	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた
	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた
	4 担当教員が不熱心だつた	4 担当教員が不熱心だつた	4 担当教員が不熱心だつた
	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた
	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた
	7 その他	7 その他	7 その他

4. 2. 1 科目群別集計

「不満だった科目」として回答のあった科目の総数は延べ748科目であり、「満足した科目」の総数延べ1447科目に比べると約半数である。この設問についても、まず「不満だった科目」として回答のあった科目を、科目群別（および回答者の文系・理系別）に集計した。その結果が図4-2-1である。全体ではB群科目が5割弱と最多で、ついでA群科目が4割となっており、この二つの科目群で9割弱を占めている。文系学生ではA群科目が6割強と最多であり、B群科目は約3割にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が6割弱を占め、A群科目は3割強となっている。先述の「満足した科目」のちょうど裏返しに、「不満だった科目」に関しても、文系学生はA群科目に対して、理系学生はB群科目に対して、それぞれ、より多く不満を抱く傾向があることがわかる。

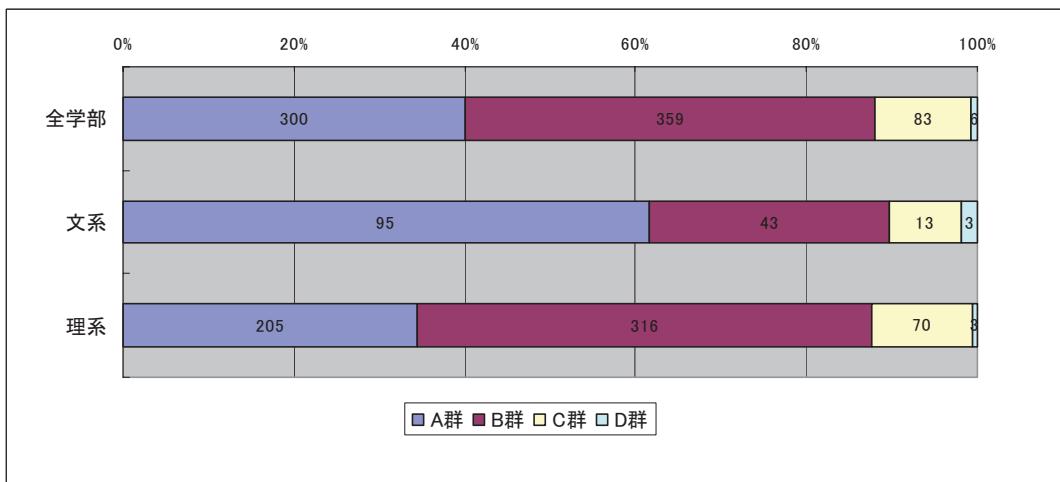


図 4-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数（構成比）

4. 2. 2 「不満だった理由」の分析

次に、「不満だった理由」の各項目別の集計結果を図4-2-2に示した。

最重要項目（1つだけ選択）としては「成績評価の方法や結果に納得できなかった」が最多（延べ83科目）であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた」（延べ71科目）が挙がっている。任意選択項目（複数選択）を加えた総数としては、「授業の進め方に工夫がみられなかつた」（延べ329科目）、「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた」（延べ292科目）の順となっている。

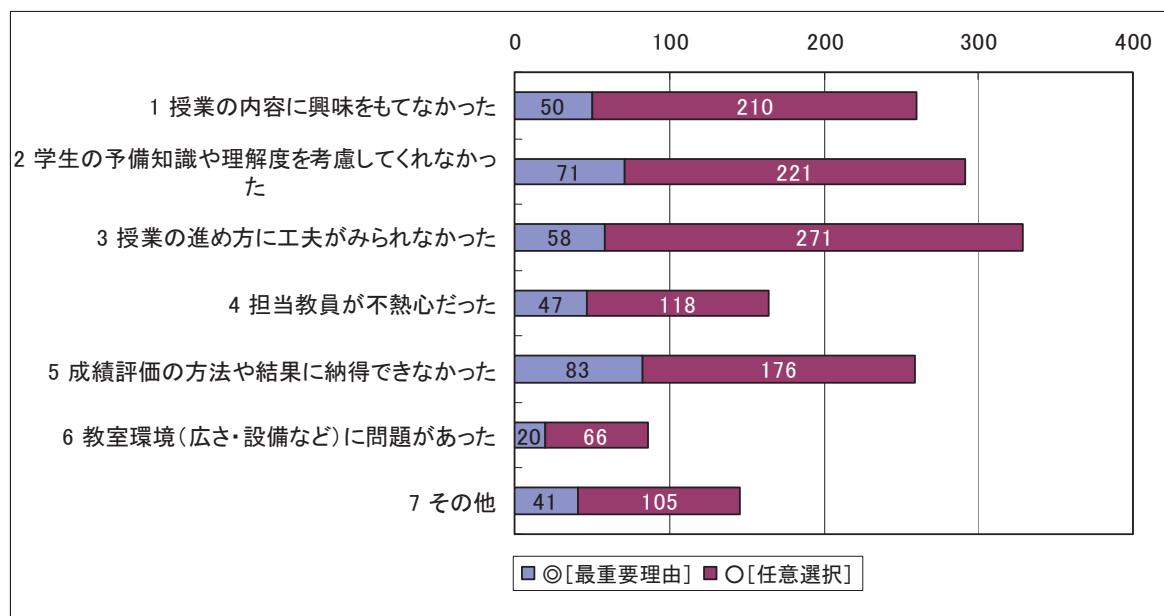


図 4-2-2 「不満だった理由」項目別集計（全体）

この結果を先述の「満足した」理由と比較対照してみると、「満足」感に関しては授業の内容に対する興味・関心が圧倒的に大きな要因となっているのに対し、「不満」感に関しては成績評価の方法・基準、学生の予備知識や理解度への考慮、授業の進め方といった広義の技術的要因が比較的多くを占めていることがわかる。

ついで、回答学生の文系・理系別に集計した結果を図4-2-3に示す。全体的な傾向はそれほど変わらないが、理系学生は文系学生に比べて「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた」を多く挙げている（最重要項目としても任意選択項目としても理系では第2位）ことが注目される。

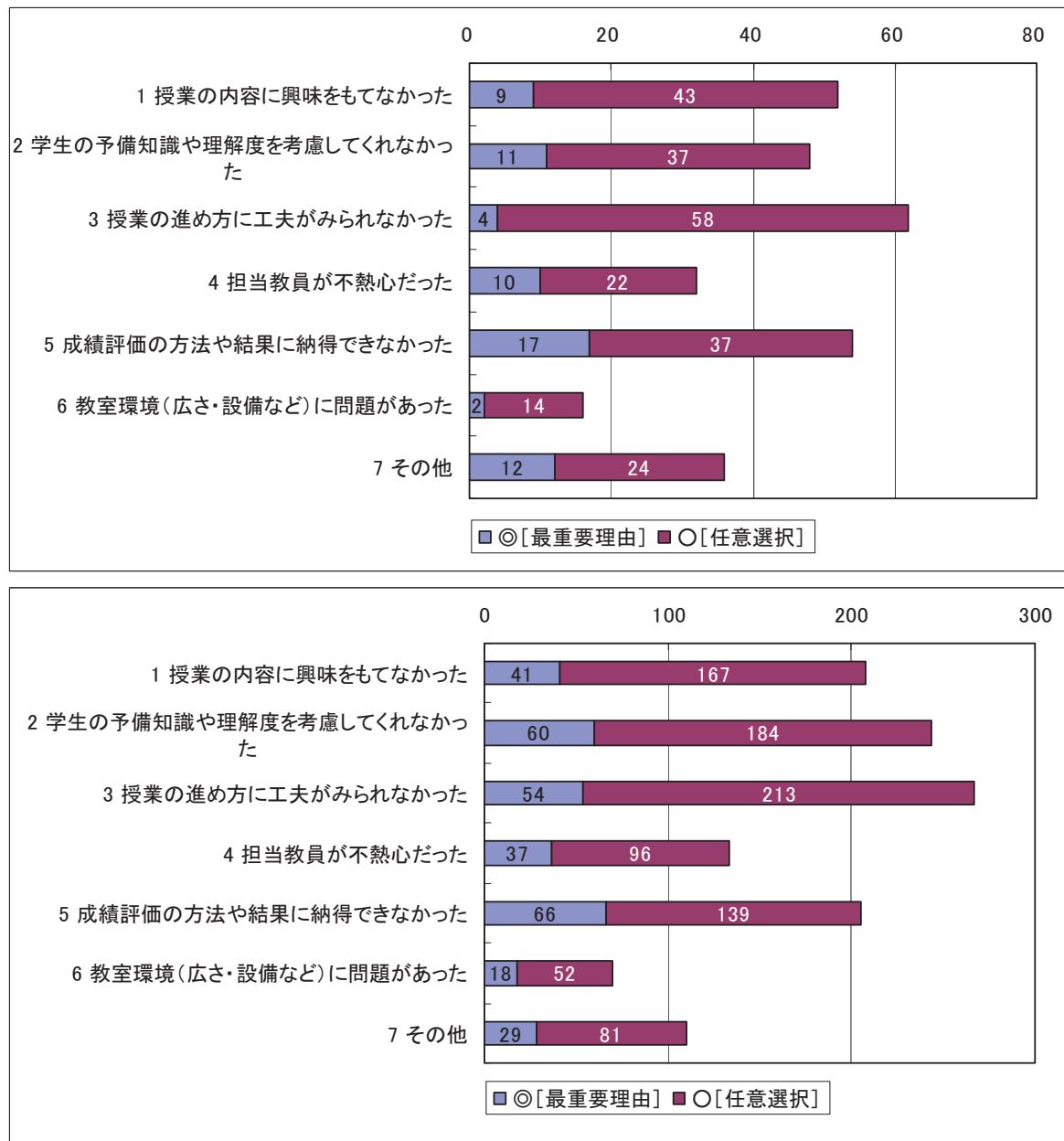


図 4-2-3 「不満だった理由」項目別集計（上：文科、下：理科）

4. 2. 3 「不満だった理由：その他」の記述内容

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容もやはり多様であるが、授業の進め方や成績評価の基準・方法についての不満など、実質的に項目1～6に含まれると解釈できるものもかなりみられた。以下、A、B、Cの各群科目別に、記述内容を掲載する（D群科目は「その他」の記述なし）。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【】内に学部名・性別を記載した。

■ A群科目

- ◎シラバスを見て感じた授業内容と実際の授業が違っていた。【総人・男】
- ◎ゼミ形式の授業であったが、学生同士が交流できる工夫がなかった。【文・男】
- ◎開講期に3、4週休講が続き、しかもそのための補講が1日ですませたこと。【文・女】
- ◎毎回遅刻し、予告なしに欠席する。【文・男】
- ◎当分野に関心のある私が用紙いっぱいになるまで授業内容と自習の結果を書き付けて60点、授業に来ず他人のノートを丸写した友人が70点とはふざけた評価方法だ。【経済・男】
- ◎学生を常に小馬鹿にしている態度で、授業を受けるのが苦痛だった。【経済・男】
- ◎日本語で講義して欲しかった。英語がすごく分かりにくかった。【理・男】
- ◎テストの形式が一般教養には難し過ぎる。【理・男】
- ◎声が小さくて、全く聞き取れない。板書が小さすぎる。【理・男】
- ◎レポートを17枚書いて落とされるとやる気をなくす。【工・男】
- ◎想像と違った。どこが＊＊学だったのだろうか。【工・男】
- ◎学生が私語をしておりうるさかった。途中で行く気が失せた。【工・男】
- ◎テキストリーディング、指定された教科書も不要だった。【農・女】
- ◎教員の発言が差別的なものを含んでいた。【農・男】
- ◎学生がほとんど出席せず、教員もそれを認めていた。【農・男】
- 声がもぞもぞしていて眠い。本紹介（教授の感想）に墮している。【総人・男】
- 声が非常に聞きとりづらかったので、マイクの持ち方を考えてほしいです。可能ならば滑舌を良くしてほしいと思いました。【総人・男】
- 期待していた内容ではなかった。【総人・男】
- 授業内容が一貫性を欠いているように思えた。【文・女】
- 毎週毎週雑談している人がいてうるさかった。先生に注意してほしかった。【文・女】
- 内容、テストともに大変面白かったが、教員が少々短気で質問しづらかった。【教育・女】
- 講読文献自体はおもしろかったが、授業がおもしろくなかった。【教育・女】
- 声が聞こえない。字が薄すぎて見えない。【教育・女】
- 進度が遅すぎる。【教育・男】

- 科目名と内容が違いすぎる。板書の字が汚い。あまり重要でないことが板書してある。【法・男】
- 机上の空論に終始した。【法・男】
- 教員の不勉強【法・男】
- ・教官が事前の告知もなく休講した。／・日本語能力に問題あり。【経済・男】
- 授業がひたすら眠かった。つまらなかった。【経済・男】
- 公告なしの休講が多すぎる。【経済・男】
- すべての授業に参加し、テストは持ち込みOKで、ばっちり書いたのに、なぜか不可でした。
納得できん。【経済・男】
- 勝手に休講にする。しかも話も謎。【理・男】
- 休講が6回もあった。【理・男】
- 意見が偏屈していた。【理・男】
- 講師の日本語が理解できなかった。【理・男】
- 毎回先生が15~30程度遅刻していた。【理・男】
- 声が小さくてマイクを使っていても聞こえない。【理・男】
- 結局何を学んだのかわからない【理・男】
- 休みすぎ【工・男】
- 試験の方法を当日に全く違う方法に変えられたこと。【工・男】
- シラバスと比べて内容が期待はずれで偏っていた。【工・男】
- 教官が無断休講を繰り返した。【工・男】
- ＊＊学という名前がついているにも関わらず授業で＊＊学を扱わなかつた。【工・男】
- 登録の手続きがまだるっこしい。【工・男】
- 最初の授業に行き、教室に入ろうとしたら人がすしづめで中に入れなかつた。【工・男】
- ちゃんとテストできたのに。【工・女】
- 簡単なことをやたら難しい言葉で講述していたのでわかりづらかつた。【工・男】
- 「えー」が多すぎて聞きにくい。【工・男】
- テストの採点が不満！【工・男】
- 持ち込み不可の試験で、生徒の多くが資料を持ち込んで試験を受けていたのに、教員は注意をしなかつた。これでは真面目に試験を受けている者が浮かばれない。【工・男】
- 教科書が高い【工・男】
- 2人の教官が進める講義であるが、一人の方の教官は高価で使いもしない教科書を買わすなどの行為に疑問を感じた。【工・男】
- 先生がよく分からなかつた。【工・男】
- 配付するレジュメをもっと丁寧に作ってほしい。理解に苦しむ。【農・男】
- 少人数のゼミ形式に関わらず、多くの人が寝たり、途中退室したり、と授業の雰囲気が良く

なかつた。毎回の感想を授業後に出させるなど、授業を聞かせる対策を講じた方が良いと思う。【農・女】

○事前にテストの日を連絡してほしい。【農・男】

■B群科目

◎教科書の内容を単にそのまま言うだけだった【総人・男】

◎内容が浅い【教育・男】

◎担当教員の話方や板書の仕方が一方的で学生への配慮が全くなかったから。【法・男】

◎授業に全く体系がなく、その場その場の思いつきで講義が行われた。理論的な説明が欠け、出席者のほとんどは講義によって学力が伸びているというようなことはなかったと思う。黒板の字は小さく薄く、「教科書」として購入したテキストもほとんど使われることもなかった。

【経済・男】

◎文系学生に理学部向けの授業を行うばかりか、簡単と称してろくに説明もせず誰にも判別できない板書をし、何も話さないばかりか、後期になり出席者が多くても2人になったのに、少しも個別に対応改善しようとなかった。今年も非常勤でいるようだが、受けている人がかわいそうだ。【経済・男】

◎わからせようとしていない。【理・男】

◎高校の内容とかなり重複していた。シラバスに書いてあることが、一部全く異なっていた。

【医・男】

◎無駄話が多い。【工・男】

◎勉強の仕方などを細かく注意され、窮屈に感じた。【工・男】

◎とにかく教え方が下手すぎる。ただ立ってオロオロするだけ。【工・男】

◎医学部の人をすごく嫌っていて、理由もなく医学部を非難しまくっていた。【工・女】

◎授業がかなりわからなかつた。【工・男】

◎教官の言葉が聞きとりにくい。【工・男】

◎教室の広さに対して板書が小さすぎた。【工・男】

◎週2コマに対し、2単位である点【工・男】

◎教官の言葉が聞きとりにくい。【工・男】

○リレー講義だったので流れをつかみづらかつた。【文・男】

○実習の際に教員と話をしていて、夢をばかにされた。【文・男】

○字が汚く、声が小さい【教育・男】

○板書が読めない【経済・女】

○板書が見えづらく、話している言葉も聞き取りづらかつた。【経済・男】

○テストに出さないと言った範囲を出していた。【理・男】

○T Aの数が足りない。【理・男】

- 休講が多い上に1月は猛スピードで授業が進んだ。【理・男】
- 単位が楽すぎ。基準がおかしい。【理・男】
- 授業内容がわかりにくかった。【医・女】
- テストが難しすぎる。【医・女】
- 担当教員の声が聞き取りにくく、板書もしにくかった。【工・女】
- 質問に行っても相手にされなかつた。【工・男】
- わかりにくい。【工・男】
- 時間の割に単位が少ない。【工・男】
- スライドを印刷くらいしてくれ。【工・男】
- 講師の滑舌が悪すぎて何を話しているのかさっぱり分からぬ【工・男】
- 板書が雑で読みにくい【工・男】
- 声が小さいし、なにもみえなかつた。【工・女】
- 説明がわかりにくい。一人よがりの授業だつた。【工・男】
- 声が小さい／文字が小さい／わかりにくい【工・男】
- 声が小さかつた【工・男】
- 声が聞きとりにくかつた。【工・男】
- 単位数に対しての労力がしんどい。【工・男】
- 教える気がない教官は授業をしない方が学生の為になる【工・男】
- レポートが多すぎる【工・男】
- 黒板の字が読めない。ノートが適当。【工・男】
- 大抵遅れてくる。黒板に図を書くとき背中しか見えず、どういう手順だったかわからないことが多々あつた。【工・男】
- 大学でこれから学ぶことを既に理解していることを前提にして授業が進められた。黒板が見づらく声がよく聞こえなかつた。教室が狭く席に座れない人がかなりいた。試験が難しうぎた。【工・男】
- 何を修得すればよいのかわからない。【工・男】
- 負担が大きすぎる。【工・男】
- わかりにくい。【工・男】
- 声が小さく聞き取れない。板書がはやい。【工・男】
- 板書が雑で読みにくい【工・男】
- 声が聞こえにくい。／板書が汚い。【工・男】
- 授業の進み具合にムラがあつた。(早かつたり遅かつたり。)【工・男】
- 先生が怖い。【工・男】
- レポート提出期限翌日はつらい。【工・男】
- もう何が何だか。【工・男】

- 何を言っているのかわからない。聞きとりにくい。発音が悪い。【工・男】
- 早口の教官だったので聞き取りにくかった。【工・男】
- パソコンに不慣れな私にとっては、真面目に聞いても全く理解できなかつた。【工・男】
- 学生に何が必要で、どこが教えるべきところかを教官は考慮すべき【工・男】
- ただ教科書そのままを板書し読むだけだった。【農・女】

■ C群科目

- ◎・休講が多く、またビデオ鑑賞のみで教員が来ないケースがあつた。／・TA が機械音痴で授業の支障になっており教員と授業中にもめていた。【法・男】
- ◎言動が冷酷。【理・男】
- ◎担当教員の性格【理・男】
- ◎担任が怖かった。本当に怖かった。【理・男】
- ◎先生の趣味を学生におしつけすぎだ。【工・男】
- ◎教員の態度が悪かった。【農・男】
- あまりに適当な授業でやる気がしなかつた。【文・男】
- おもしろくなかった。【教育・女】
- 授業の進行をその日の気分で左右する。一貫性がない。【法・男】
- かなりの自学自習を要したが、なかなかできるものではない。教科書も凝縮されたものゆえ、課題を出すなどあるいは双方向的に授業を進めるなどのフォローが必要と感じた。【理・男】
- 英語の授業とは言えなかつた。教官の態度に不満。【理・男】
- 出席もとらず、強引な授業だった。試験・評価が厳しすぎた。【理・男】
- テストの内容が実習のものではないと、明らかに思う。【理・男】
- 前期 100 点だったのに“良”だった。【医・男】
- 授業が進まないため、毎回の小テストが不定期になりがちで、様々な問題が生じた。講師の無計画さ加減により生徒にしわ寄せがくるのは許容できない。【工・男】
- 担当教員の性格がひどかった【工・男】
- 教官が意味不明なことを言い出し、カソニングしたと言い、勝手にキレだし、非常に不愉快だった。人間性を疑う。【工・男】
- 進度が追いつかず最後の方になって急に進みが早くなつた。【工・男】
- 英語の授業なのに英語を使う場面がほとんどなかつた。全く意味がない授業だった。【工・男】
- くだらないことを教官がしゃべる。【工・男】

5 全学共通科目への期待

5. 1 全学共通科目に期待する内容

問6 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれどの程度期待していましたか。

	期待していた	どちらかといえば		期待していなかった
		どちらかといえば期待していた	どちらかといえば期待していなかった	
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

まず、この設問への回答の集計結果を図5-1-1に示そう。最も「期待していた」という回答が多かったのは「専門以外の幅広い知識・教養」、ついで「専門での勉強の基礎」「自分の研究内容へのヒントや刺激」「自分の研究分野の決定の手がかり」である。「どちらかといえば期待していた」を加えると、前二者は8割を、後二者も7割を超えている。

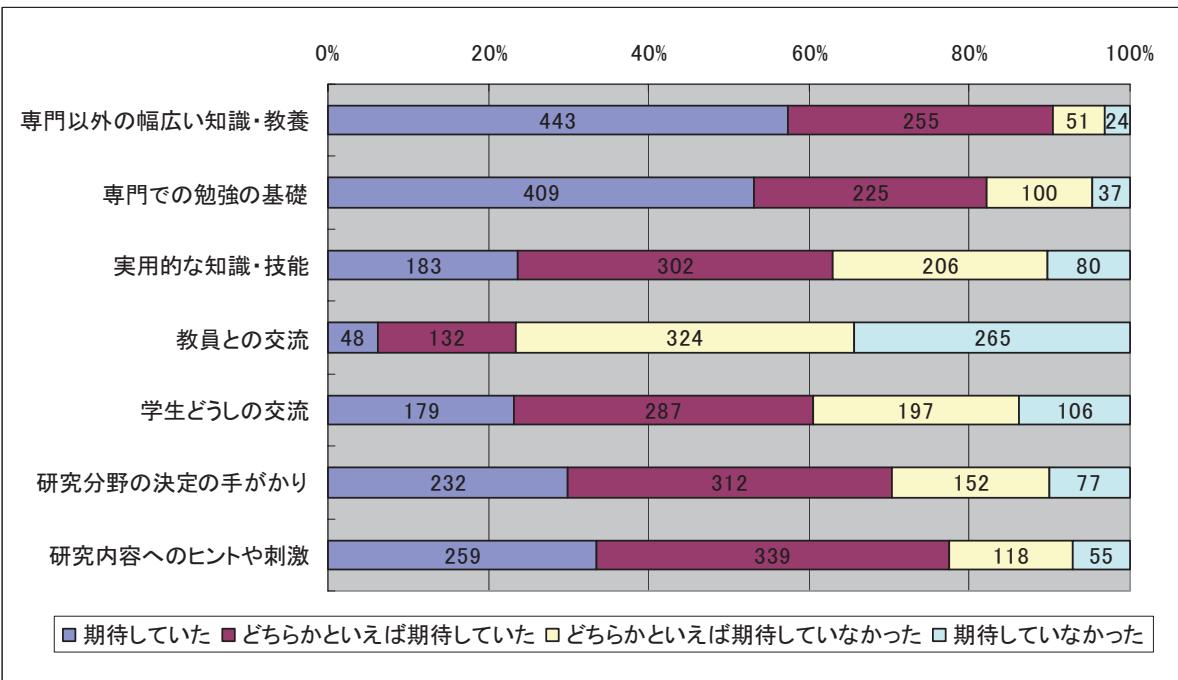


図5-1-1 全学共通科目に期待する内容（全体）

次に文系・理系別の集計結果を図5－1－2に示そう。「専門以外の幅広い知識・教養」への期待は理系より文系のほうが、「専門での勉強の基礎」への期待は文系より理系のほうが、それぞれ高く、文系と理系の全学共通教育への期待内容の違いが明確に表れている。

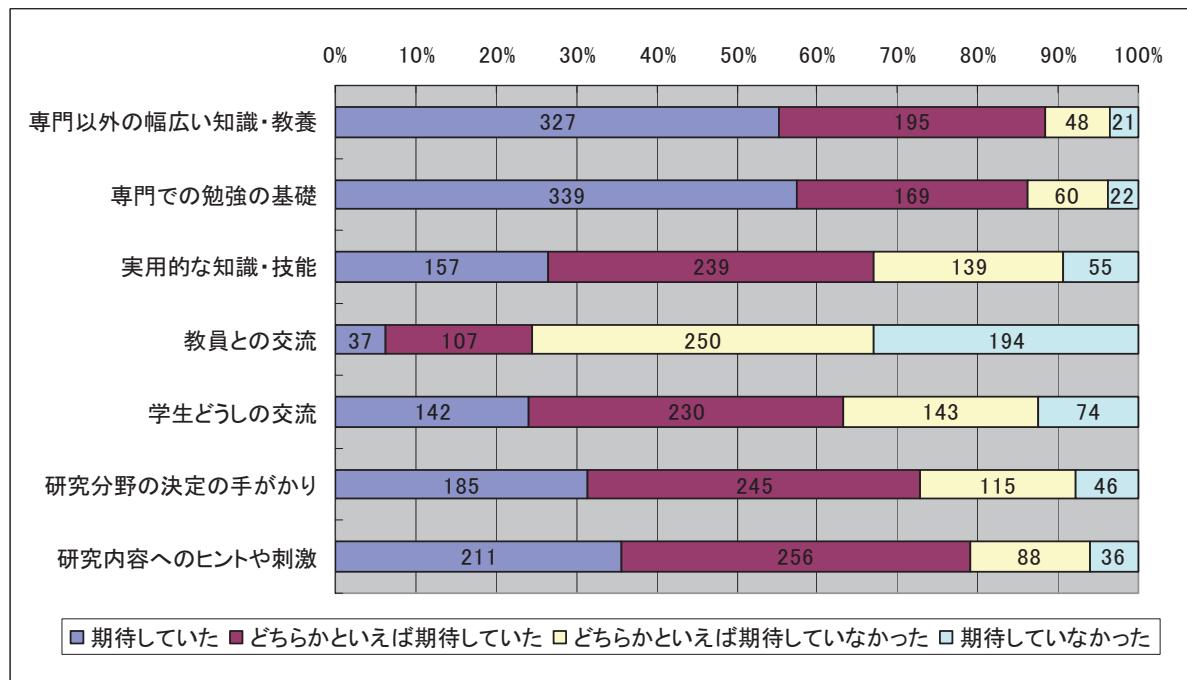
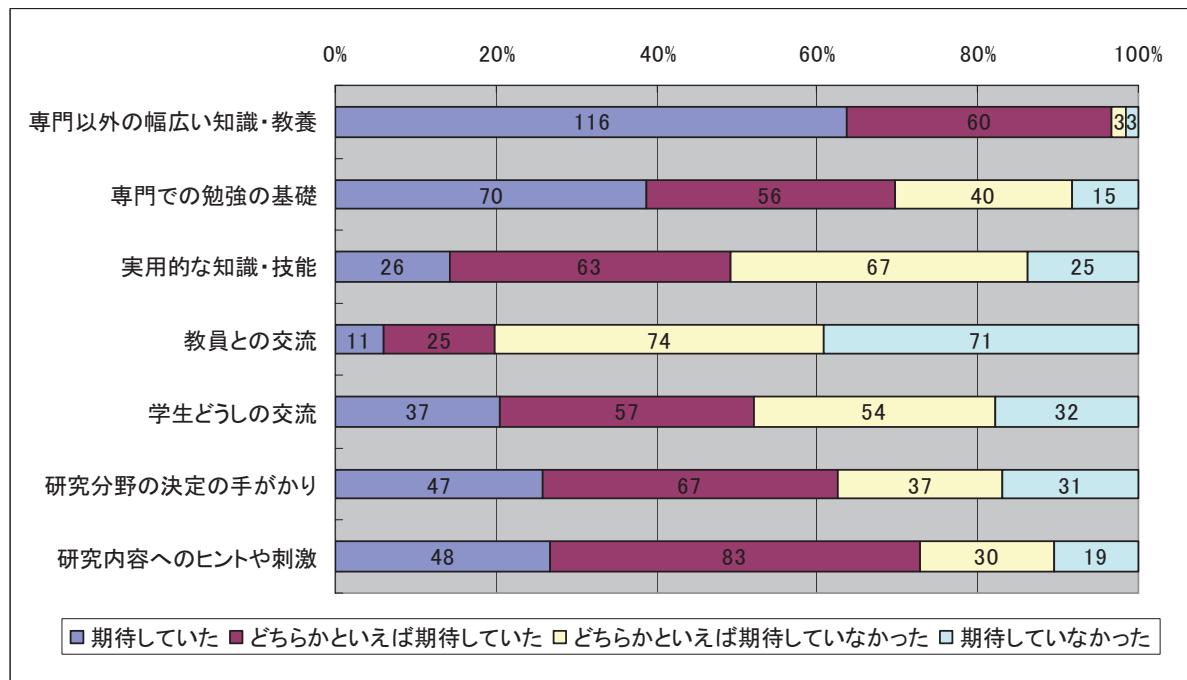


図5－1－2 全学共通科目に期待する内容（上：文系、下：理系）

5. 2 期待は実現されたか

- 問7 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。
- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

この設問への回答の集計結果を、図5-2-1に示した。全体として、全学共通教育への期待が「実現された」「どちらかといえば実現された」という学生があわせて6割弱にとどまり、「実現されなかった」「どちらかといえば実現されなかった」という学生があわせて4割強存在するという数字は、全学共通教育の現状認識として、かなり厳しく受け止める必要があろう。

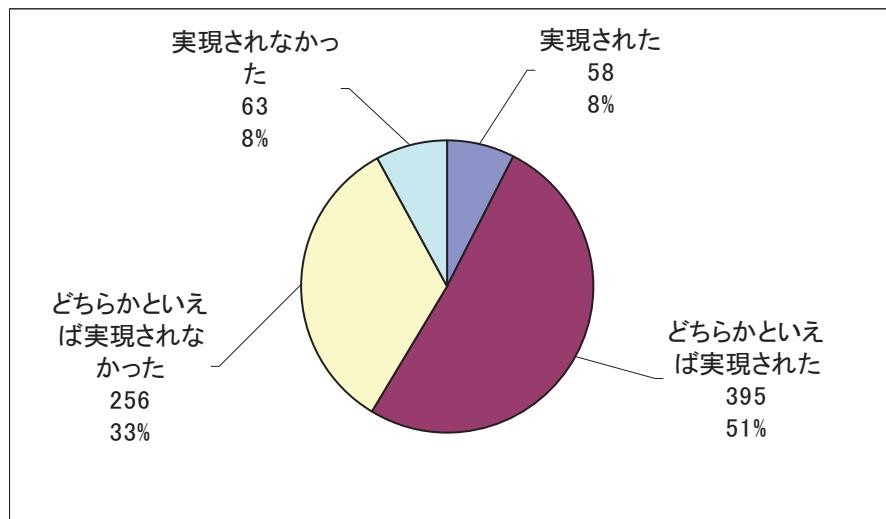


図5-2-1 全学共通教育への期待は実現されたか（全体）

ついで、回答学生の文系・理系別の集計結果を図5-2-2に示す。あまり顕著な差ではないが、「実現された」「どちらかといえば実現された」とした学生は、文系のほうが理系よりも若干多い。すなわち、どちらかといえば理系学部の学生よりも文系学部の学生のほうが、京都大学の全学共通教育を、若干ではあるが肯定的に評価しているといえよう。

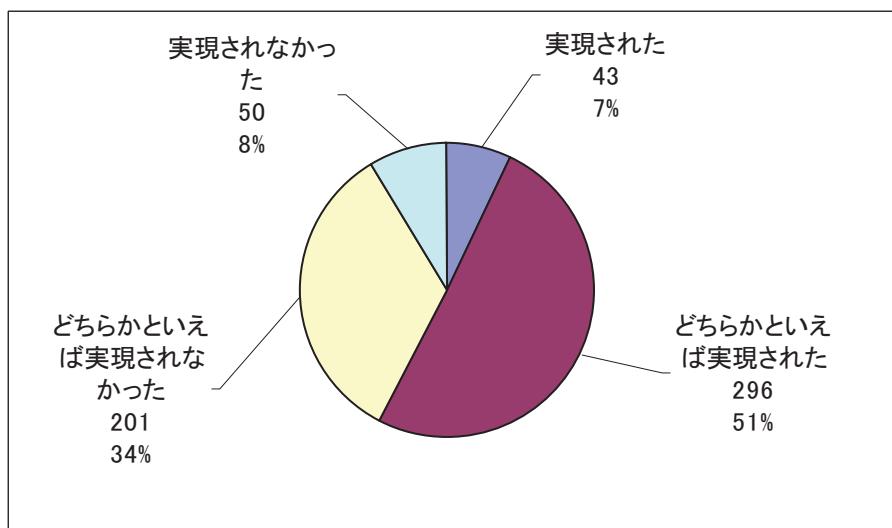
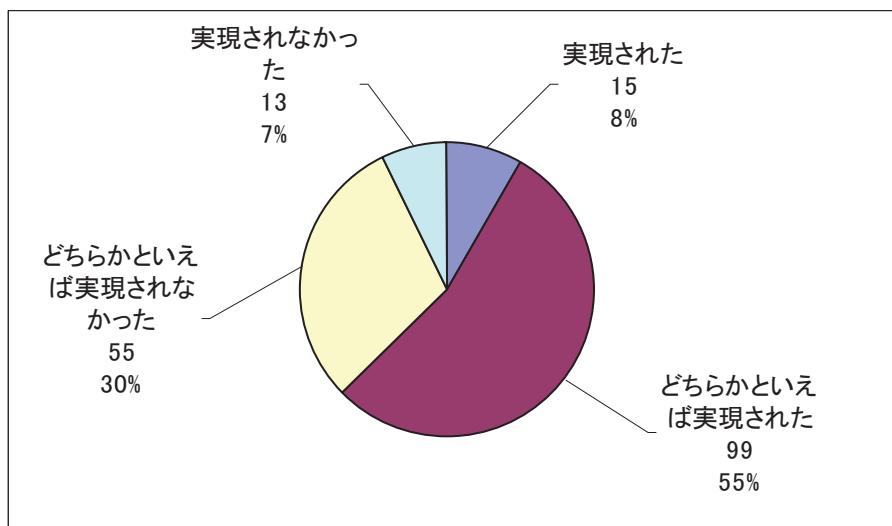


図 5－2－2 全学共通教育への期待は実現されたか（上：文系、下：理系）

6 今後の全学共通教育への要望

- 問8 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべての番号に○をつけてください。最も強い要望一つには◎を付けてください。
- 1 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
 - 2 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
 - 3 授業の進め方をもっと工夫してほしい
 - 4 授業にもっと熱意をもってほしい
 - 5 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
 - 6 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
 - 7 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
 - 8 その他 ()

6. 1 項目別集計

この設問への回答の集計結果を、図6－1－1に示す。全体としては、◎(最も強い要望一つ)、○(任意選択)のいずれにおいても、最も多かった要望は「学生の関心により対応した内容」であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」「授業の進め方の工夫」「成績評価の基準・方法を明確に」の順となっている（ただし「成績評価の基準・方法を明確に」は、◎だけでみれば第3位）。

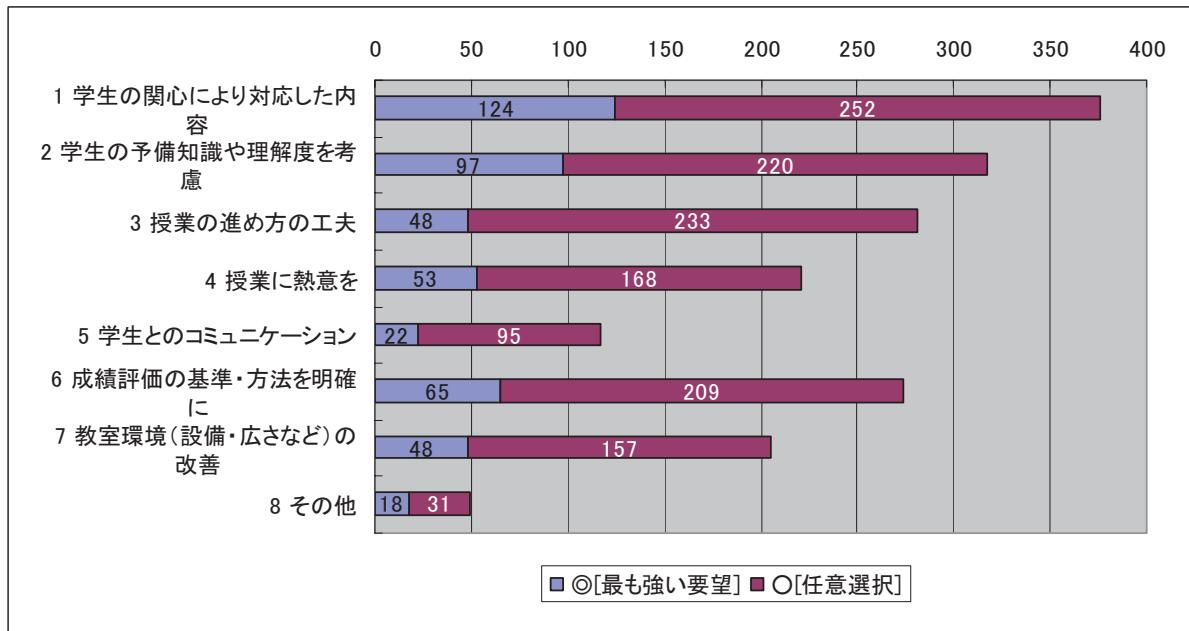


図6－1－1 今後の全学共通教育に対する改善の要望

ついで文系・理系別に集計した結果が図6-1-2である。両者を比較してみると、「学生の予備知識や理解度を考慮してほしい」という要望が、文系学生よりも理系学生においてより強いことがわかる。

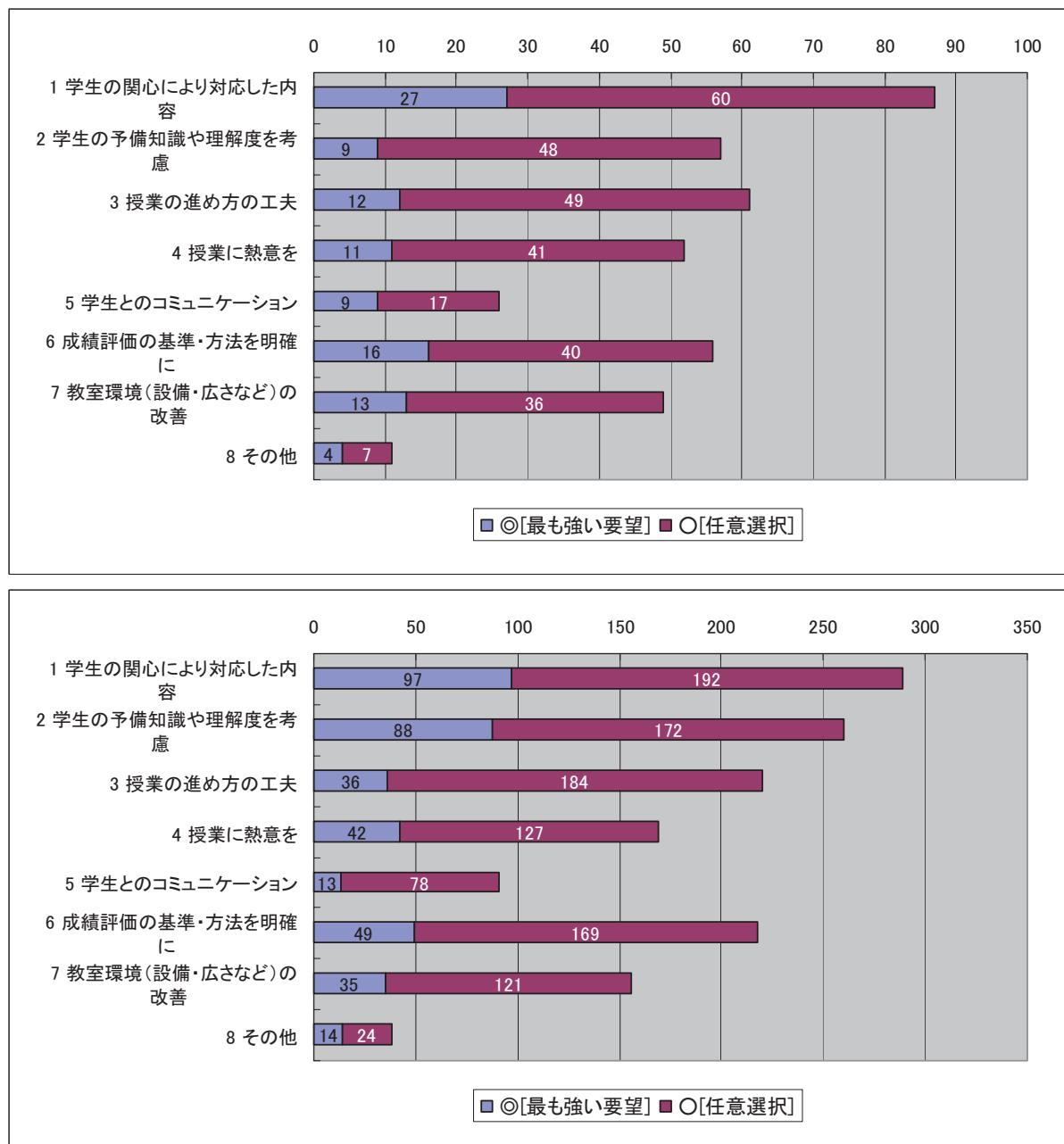


図6-1-2 今後の全学共通教育に対する改善の要望（上：文系、下：理系）

6. 2 「改善の要望：その他」の記述内容

「8 その他」は、上の図表に示したとおり量的には多くはないが、記述内容は下記のように、全学共通教育のシステム（カリキュラム・時間割・クラス指定制度など）、成績評価の基準と方法、授業方法や教員のスキル、そして教室環境や設備等に関する要望など、多岐にわたっている。なお、◎は最重要項目〔1つだけ選択〕を、○は任意選択項目〔複数選択〕を、それぞれ意味する。末尾の【】内に学部名・性別を記載した。

◎曜日・時限が重なって受けられない科目が多くだったので、もっとばらけさせて欲しい。【総人・男】

◎教科書の内容を述べるだけというのはやめて欲しい【総人・男】

◎もっと教員にはやる気を持ってほしいし、全体的にもっと充実した内容を提供してほしいと思う。【文・男】

◎最初の2回はガイダンスのようなものをして、授業を進める前に内容を周知させてほしい。つまり、始め2週間は自分の興味のある授業を探すためだけの期間にしてほしい。いきなり授業を始めたり出席を取られたりすると、興味がいまいちわからなくても履修する方法に流れてしまうので、後々後悔することがあった。【経済・男】

◎もっと教授の好きなように講義してほしい。最先端の研究の一端をのぞき見ることができるのが教養の醍醐味。【経済・男】

◎理系にはA群の科目が非常に不満【理・男】

◎6〔成績評価〕の基準・方法そのものを改善してほしい。【理・男】

◎「教養」の身につく授業をしていただきたい。【理・男】

◎教科書なり参考書なりをそのまま読むのはイヤ。【理・男】

◎学生に授業の評価及び注文をつけさせると同時に勉学意欲のない学生を排除することも考慮して欲しい【医・女】

◎教官とのコミュニケーションの更なる充実【薬・男】

◎専門科目の時間割掲示（前期・後期とも）を早めて予備登録の参考にできるようにしてほしい【工・男】

◎声が聞こえづらい先生はマイクを使うなどして聞こえるようにしてほしい。【工・男】

◎成績評価を点数で！優良可だと自分に甘くなる。【工・男】

◎興味のない授業はいらない。（A群）B群とC群だけでいい。【工・男】

◎もっと自由に学習させてくれる環境を作ってほしい。【工・男】

◎専門との関係をもっと考えた時間割にしてほしい。【農・男】

○現行のままでよい【総人・男】

○クラス指定のため取りたい授業がとれないので何とかしてほしい。【総人・女】

- 人気の授業はコマ数をもっと増やしてみんな受けられるようにして下さい。【文・男】
 - 文系向けの物理や数学などは続けて欲しいです。【教育・女】
 - 教員にもっと自由を与えて欲しい【教育・男】
 - 専門科目と語学が重なった場合の配慮【法・男】
 - 出席を評価するのであれば、教員と学生との双方向の授業形式をもっと取り入れてほしい。
- 【法・男】
- 自分の知らない分野で関連した科目をまとめてほしい。【経済・男】
 - 曜日、時限をもう少し分散させてほしい。【理・男】
 - 地理分野の科目を増やしてほしい。【理・男】
 - 生徒に考えさせる授業をしてほしい。【理・男】
 - 受講者数の制限をやめてほしい。【理・男】
 - 空調がききすぎていることが多かったのでもうちょっと抑えめにしといてほしい。【理・男】
 - コマ割りを改善してほしい。(自分は、神経関連のコマがことごとく理系科目と重なっていた。)【理・男】
 - 教員の遅刻を減らしてほしい。【医・男】
 - 学問の分野を広げて、実用的なものを取り入れてほしい。【医・男】
 - 単位をもっと簡単にとらせてほしい。【医・男】
 - 試験を難しくしてほしい【医・男】
 - PP の字が小さいので、もっと見えやすいようにしてほしい。【医・男】
 - 本質的に授業で何を伝えたいのか示して欲しい。【工・男】
 - 冬寒いです。【工・女】
 - 専門科目、各学部とのつながりを強化してほしい。手続きが二度手間です。【工・男】
 - JAZZ 理論入門って言う講義があれば喜んで参加します。【工・男】
 - A 群科目を体系立てたものにしてほしい。【工・男】
 - パワーポイントなど映像を使った授業は板書が大変。レジュメを配る、黒板を使った授業にするなど、してほしい。【農・女】
 - 学業評価の基準・方法をもっとあいまいにしてほしい。【農・男】
 - 全学共通科目的単位取得を義務づけるのはおかしいと思う。やりたいやつだけやればいい。

【農・男】

- 授業の情報や注意事項を学生に分かりやすく伝える工夫をしてほしい。例えば履修制限が必要なもの、ある学部生にとって専門となるものなど。【農・女】

7　自由記述

問9　あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

これは2回生進級時アンケートの最後のページに設けられた設問であり、大きめの空欄に全学共通科目に対する感想などを自由に記述できるようになっている。この問い合わせには、全回答者776名の過半数480名が回答している。以下、かなりの量になるが、学部別に学生の記述内容を掲載していく。内容的には、科目の豊富さ・多様性や授業選択の自由さなど、京都大学の全学共通教育の特色を高く評価する記述もある一方で、（先述の問8でもみられたように）、全学共通教育のシステム（カリキュラム・時間割・履修人数制限・クラス指定制度など）、成績評価の基準と方法、授業方法や教員のスキル、あるいは教室環境や設備等に関して、かなり多くの批判的意見もみられた。なお、●は男子学生、○は女子学生の回答である。

7.1 総合人間学部

- 受講したいと思った講義に抽選の結果で受けられないというのは少し納得が行かない。かと思えば、大教室がガラガラだったりと教室割に問題があるのではないかと思う。授業の特性（演習形式その他）上、人数を制限しなければならないのは仕方がないとは思うが、人数を制限しなくともよいようにできる限りの方策を尽くしてほしいと思う。
- あまりに広い分野に圧倒されてしまった。少しづつでも手を出すようにしたい。
- 自分で勉強するから、適当に単位下さい、というのが本音です。わけのわからない話を90分座って聞くのは苦痛。だから授業にでなかつたりもする。でも、中には素晴らしい話をしてくれる先生もいて、単位もらえない（対象回生がちがうため）とわかっていても、話を聞きに行った。そんなふうに思える先生や、授業は人それぞれ違っていて、私がつまらないと思う授業に、嬉々として足を運ぶ人もいる。文句が通るなんて全く思ってないし、取捨選択していったらなんとかなっちゃうから、不満はあってないようなもの・・・。京大で学べることには心から感謝している。ここから離れたくない！！でもそれはとても危険（笑）
- 非常勤講師の講義は期待できない。
- リレー講義を1つ受講したが、専門以外の分野でどのような課題があり、どのように研究がすすめられ、どんな問題をかかえているか、ということを知ることができて大変面白かった。もちろん、一分野について深めていくことも大切なので、そればかりというわけではないが、リレー講義という形式はとてもよい面を持っていると思うので、もう少し数をふやしてもいいと思う。

- 専門的な内容や独特の考え方に出合う機会が多く、授業自体は非常に興味深かったように感じます。ただ、自身のやる気が少ないために多少の授業時間数に関する問題を残す結果となつたように感じます。／総合人間学部の特権でかなり自由に時間割が組める（A、B、D群に関して卒業の際区別がない）ために興味のある科目のみ受講する態度を持ってしまい、C群科目に対してのやる気が欠落していく自分をつけました。2回生時にこれをなんとかしようと思います。なお、だからといって総合人間学部のシステムが悪いとは思っておりません。あのシステムのおかげで、京大入学時から研究したかった分野に関する基礎知識や周辺知識を効率よく身につけることができたのも事実です。自律できなければ総合人間学部にいても無意味であるな、とただそのように感じました。
- 英語Iは、高校のレベルよりも低くて簡単だったので、もう少し難易度が高くても良かったと思います。
- 各授業での成績評価の方法がバラバラすぎる。シラバスだけでは授業を選択しづらい。
- 教官にも熱心な方と不熱心な方がいらっしゃるが、熱心ならば良いというわけでもないよう思う。ルーズな方のほうが性に合うという生徒もいるだろう。あまり改善など考えず、教官の好きなようにやってくださればそれで満足である。
- 自分の興味の幅を広げることができました
- 情報科学演習でパソコンの基本的なソフト（ワード、エクセル）などをマスターできたのが、他講座でレポートを書くときに非常に役立った。
- 将来進みたい専攻への予備知識をつけるために参考書・本などを授業中にもっと紹介してほしい。
- 医学部で開講しているような講義も取り扱ってほしい。障害者に関する勉強がしたい。
- 政治や経済など、全く知識のない状態なので本当に基礎の基礎からやってもらえる授業があるといいな。
- もっと出席すればよかった・・・。
- 自分は理系だから、と思ってクラス指定科目のうちのB群をほとんど取ったら大変なことになつた。もっと興味に応じて授業を選択すべきだったと反省した。
- 全学共通科目に限らず、テストをやつたら、その答えと問題を配付してほしいです。じゃないと、自分は何ができなかつたのかわからない。全員に返却すると、過去問の問題とかいろいろありそうなので、希望者のみにするとか、希望者に解説する時間枠を作るとかしてくださいとするうれしいのですが。先生の所へ行けって話ですかね。
- 文系であつても楽しめる理系の授業が多く、満足している。
- 高校まででは全く学べない、社会的な事を学べたことは、良かったです。全学共通科目であつても、専門の基礎のような科目がたくさんあり、それらで週の多数のコマをうめつくされるため、自分が本当にとりたいと思った科目をあきらめなければならない時があつたので、それはとても残念でした。

- いろいろな分野に触れることができ、よく工夫されたものもあったが、教員により温度差があるのは否めない。各教員が自分の専門の狭い話をすることも見受けられ、もっとこれから専門に分かれていく前の基礎となるような一般的な話をA群科目についてもしてほしい。
- さまざまな授業を受けることで、学問にもさまざまなものがあるのだということを感じた。
自分の興味のある分野についてより深い知識を得ることができたのは、とてもよかったですと思っている。また、それによって自分の将来やりたいことの手がかりを発見することもでき、全体的には満足している。／しかし、その一方で、つまらないと感じる授業があったことも事実である。それは内容的なものもあるが、何より教員の、教える際の熱心さの欠如や工夫のなさによるものが大きい。ただ自分の研究分野を話されただけでは、幅広い知識を獲得することもできない。そうした授業はどんどん受講者が減っていったようだ。授業を受ける側の理解力や興味を考慮して授業を行ってほしいと思った。
- 取りたいと思う専門ではない科目が、専門や語学と重なってしまうことが多かったです。
- もっと他学部の教員も全学共通科目に関わるべきだと思う。／せっかくキャンパスも近いのだし、多様な授業がなければ、自由な学習は効果をなさない。
- 先生はあった人を選んだ方がいい。
- 授業毎に良い悪いがはっきりしており、中には「悪い」といわれても仕方のない講義もあったが、おおむねどの講義も期待どおりの内容であった。／「一般教養」という言葉にイメージされる邪険な扱いをされるような内容ではなく、大変意義深いものであったと思う。英語講義の単位を全て認めてもらえるとより英語が身近になったのですが。
- 京都大学の全学共通科目の選択は幅広く、そして自由度も高いので学生の興味・関心に沿いややすく、またこれらをより深めていくのに十分な効果が期待できると思う。／総合人間学部に所属している立場からすれば、一回生といえども人数制限のために専門となる科目が履修できなかつたりして不便を感じた。
- 学問の奥深さを感じると共に、現代の学問は様々なものが相互に関連しあっているのだということを実感した。／私は前期にやる気がなくなり家に引きこもっていたが、後期にやる気を奮い立たせて講義を受けてみると、その興味深さに気付き、さらにやる気が増した。／ただ、内容そのものは興味深いのだが、教員は概して講義が下手である。
- 基本的には、自分の興味に従って科目を履修したのだが、やはり「楽勝科目」をとって単位を稼いでしまったのも事実である。これは本当は良くないことなのだろうが、卒業ということを考えたら、致し方ないことなのだろうか？自分の意欲が足りないということなのだろうか？
- 興味が何に対してもわからない。／数学難しすぎ。
- 全学共通科目でいろいろな先生方の話を聴き、幾度か話が難しいと感じたこと也有ったが、知識が増え、また様々な思考の仕方を身につけられたような気がしている。また、そうするにつれ、よりいっそ興味深く話を聞くことができるようになった。

- もう少し専門的でもいいんじゃないかという授業がいくつかあった。

7. 2 文学部

- 自分の専門外の授業で難しい授業はついていけなかった。
- 入学前に想像していたよりは授業に対する熱意が続きませんでしたが、興味を持つ内容もあり、自分なりにこれから目標を立てるきっかけになりました。
- 大学の授業では本当に自主的に学習しなければいけないんだな、と痛感しました。
- できれば教室をもっと改善してほしい。立って授業を受けたり、床に座って授業を受けても身にならない。
- 京大は「自由」がいいです。熱心に勉強するのも、授業以外のこと精を出すのも本人の自由にされてると思ったので、授業にしばられることなく、1回生は過ごすことができました。
- 基本的に単位がとりやすい。A群がとくに。単調としかいいようのない授業が多く、出る気がしない。専門科目との差がある。ポケゼミや一部の語学は楽しくやりがいがあった。ラクショ一科目と言われる授業をなさっている先生方は一体どういう考え方かが知りたい。
- 思ったより退屈な授業が多く、ほとんど出ずしに単位目的になってしまふものが多かった。そういう点で出席をあまり取らない方式をとるのは良い。しかし、一般教養という割にあまりに専門的な事項に特化しているものもあり、そういったものは退屈というより何が何だかわからなかつた。
- 熱意ある先生の講義は、それは楽しいものです。楽勝とはいえ面白ければ皆出席するし、楽勝とは程遠くても面白ければ生徒はついていくのだと思います。厳しい先生であればあるほど評価されると嬉しく、モチベーションも上がりました。
- ポケットゼミがとにかくよかった。当たり外れもあるかもしれないけれど本当に面白かった。高校とは違う大学の勉強の面白さを教えてもらった。／でも授業中に雑談する人だけは許せなかつた。居眠りや内職は他の人に迷惑がかからないけれど、雑談は本当に迷惑。注意してくださいの先生もいたけど放っておく先生もいた。もう大学生だし、そんなことを注意するのはアホらしいと思うけど、雑談だけは何とかしてほしい。
- ほとんど聞いていても意味のないような講義が数多くあり、そのくらいなら授業に一番近い内容の本をはっきり紹介してもらえれば時間を有意義に使えたと思う。
- 全学共通科目は様々な科目があり、どれも非常に興味深かったです。高校では習えないような専門的な話や、普段知ることのできない世界の話が聞けたことが特に良かったです。日々の予習は大変でしたが、その分充実した学生生活を送ることができました。
- 授業が空くのでもったいないと思って何気なく入れた授業が意外におもしろかったということが何回かあった。今まであまり積極的に関心を示さなかつた部分にも触れられるのが全学共通科目の良いところだと思います。
- 大学の講義の内容が掴めた。

- 全体的に満足しています。とても楽しい一年間でした。
- 大学という新しい環境に慣れるという点では、全学共通科目の大抵の講義は良いものだと思う。／また、自分の学部では恐らくもう行くことはないだろう教室（理学部など）にいけて楽しかった。
- 講義で一方的に話を聞いているより、グループワーク等、参加型の方が楽しめるので、ゼミ形式、演習がもっと増えたらいいと思う。グループでディスカッション→最後プレゼンテーションという形が一番面白かった。KUINEP の授業をいくつか受けたが、教官の英語に問題があるのでは？というのも少なからずあった。
- 自分の出ていた授業は大教室での授業多かったので、最初は席に座って授業を受けられないこともしばしばあった。年間を通じてどの授業でも結構私語が多かったので、僕自身もあまり集中できなかった。／講義のラインナップが多い割には自分の興味のあるものが少なかった。これは自分の興味がせまいからなのかもしれないが。やはり自分自身がやる気を出して学習するためには、ゼミなどの自分が発言、発表しなければならない授業をとるしかないなと思った。なので、ゼミ形式の授業がもっとあってもいいと思った。
- やはり時間が経つにつれて勉強意欲が減じてきたので、入学当初の気持ちに戻ってもっと勉強に力を入れたいと思った。ありきたりな意見だけれど、なかなか実現するのは難しいと思うので。
- 僕は文学部なのですが、1回生の英語が火曜4限でその間に全学共通科目の「西洋前近代史」や「ヨーロッパ文化論」という文学部の学習の基礎になるような科目がかぶっていました。こんなふうにクラス指定語学と基礎科目をかぶせられたら、思うように学習がすすめられません。なんとかならないでしょうか。／しかも、今年は、同じ時間に上記2つの科目に加え、「古代ローマ社会の国家・家族・財産」という科目がかぶっています。このように明らかに同じ興味分野、専門分野にあたる科目をいくつもかぶせるのでは明らかに不親切ですし、学習しにくいです。そういうことも考えながら割り振ってもらえると学生としてはとても助かります。ぜひご検討下さい。
- この一年で、勉強の取捨選択を学んだ気がします。おもしろく、学び甲斐のあるものは熱心に、単位が必要なものはそれなりにこなしました。
- いろんな分野の先生がおられること。
- いろいろな分野に手を伸ばせるのは非常に有意義と思った。
- 大学の講義を聴いただけで全て分かるわけではなく、それはあくまで自分で勉強するきっかけであり、自分の興味のあることは自分で調べる等、勉強に対して積極的な態度で臨むことが大切だと実感した。今年はそれを意識していきたい。
- 高校までの学習内容がいかに限られたものであるかを思い知らされた。歴史系の授業はどれもとてもおもしろかった。
- 教職員の先生方は多様な専門分野にわたる方々で構成されていて、そのお一人お一人がそれ

ぞれの研究に自身と熱意を持っているのは分かるのですが、やはり、それを教授する方法には改善の必要な方が多いように思いました。しかし、大学生ならば、先生方の教え方云々よりも、それに興味があるかないかでその分野についての理解の度合に差が出るものだと考えますので、それならば、今のまま色々な事を少しづつ開講するというパンキヨーは理想だと思います。

- ・大学での授業がどんなものかよくわかった。／・成績評価が、ただ点数が返ってくるだけなので、どこが良くてどこが悪かったのかをもう少し詳しく知りたいような気もした。
- 学生の予備知識を考慮してくれる授業もあったが、一部シラバスでは高校までの履修は不要と記されているものでも、結構専門的な知識がなければ内容が難しく、レポートを書くのにかなり苦労を要するものがあった。
- 授業内容がとても興味深く、毎回の授業が楽しみなものもいくつかあった。いずれの科目でも、自分から積極的に学ぼうとする姿勢がなければ何も得られない感じた。
- 語学を自分で選べないのが不満でした。1回生の間で英語力がすごく落ちたように感じます。2回生でとりもどしたいと考えています。KULASIS は便利なので専門科目でも使えるようにしてほしいです。
- 京都大学の全学共通科目は甚だ適当で、且つ、手抜きであると感じた。
- 教授のやる気を感じない。成績がどのようにつけられているのか謎。というか面白くないものが多すぎる。教養の割に専門的、せますぎる知識が多い気がする。
- 楽しかったです。
- 授業に出れば、だいたい「優」がもらえるのがわかった。それなりに真面目にすれば、単位を取るのは難しくないと思った。全体的に「つまらない」ものが多いとは思うが、中にはとても興味深く、先生の熱心さが伝わるものもありよかったところもあった。
- 結局は自分で学ばなければ意味がない。本当に身につく勉強をするなら週15コマ以上なんてとてもムリ。10コマ分だって、まとまに勉強するのは大変では?それと、第二外国語の学習意義が未だ見つけられない。知見を広める学問の一つなら、他の般教科目と差別化する必要はないはず。

7. 3 教育学部

- 授業は「きっかけ」であり、そこから自分で進んでいかないとどうにもならないことに気付いた。先生は一人一人個性的だったが、全体的に見て、他大学所属の先生、他大学での講義も並行して行っている先生は板書や授業がすっきりしていたように思う。逆に京大中心の先生は一つのテーマに深く深くこだわっていたという印象があった。学問を深めて行く上では後者が適していると思うが、高校を出たばかりの人間にとては前者のような概論的なすつきりした授業もありがたかった。
- 成績評価の基準があいまいにすぎる。もっと相互性のある講義があっても良いように思える。

- 入学当初は専門以外にも幅広い知識を身につけようという意欲に満ちていたが、実際勉強を始めてみると、やはり自分の関心のある分野に近いものの方がやる気がでた。自分の専門以外の分野の科目は、よほど面白い授業方法などをとっていないかぎり、徐々に興味を失い、勉強する意欲も萎えていった。ただ色々な「きっかけ」や発見も全学共通科目の中で得られた。自分がもっと意欲を保ち、自分に厳しく勉強に励んでいれば得るものはさらにあったのではと、少し悔やんでもいる。
- 授業にきちんと出ている人と出でていない人が同じように単位が取れてしまつていいのかなあと思いました。出席するだけで良いとは思いませんが、せっかくの授業が生かされていない気がしてもらつたいくなと思いました。
- ・KULASIS を使い切れていない教授がいて不満だった。レポート、教室変更、休講などしっかりアップロードしてほしい。／・1回生の間からもう少し専門をとれるようにしてほしい。全学共通科目を中心に履修させることで幅広い知識を学生が得られるようにしたいというのはわかるが、実際やる気のない教授もいたように思われるし、学生も「単位さえ取れば」と思っている人が多く、出席せずに単位が取れるような「楽勝科目」ばかり履修している人もいるので、はっきり言って1回生の内は全学共通科目を中心に履修させるという方針に意味はないように思える。／・僕の場合は2回生から専門・教職科目を多く履修しなければならなくなり、去年より格段に忙しくなったので去年の一年間がとても空虚な一年だったようだに感じられている。全学共通科目の実態をしっかりと把握したり、1回生から履修できる専門科目の量を見直したりなどの取り組みをしてほしい。
- いい先生はやはりいい授業、おもしろい授業をすると思う。／正直言って自己満足で講義している教授にはやって欲しくない。研究に没頭していくください。
- 総合大学の良さが表れていると思った。／自分は文系だが、他学部（特に理系の）の学生と交流を持つきっかけができた。
- 教員が自分の主義により自由に講義をできていないことがあり、教員自身も無用と思っていることをしていることがあり、学習の妨げとなっていた。
- 適当すぎる
- 単位欲しさにとった授業は、結局挫折してしまうということが分かった。／でも、沢山のことが学べてよかったです。／もう少し緊張感がある授業が増えたら良いなあとは思います。でも人数制限で取りたい授業が取れなくなるのも嫌です。
- 自分の学ぶ姿勢次第でどんな授業も充実したものからとても陳腐なものとなりうるし、その逆もまたしかりだということを痛感した。／しかし、教科書に異常に高いもの（他の学術書と比べ）があり、納得いかなかった。いくら知識の宝庫とはいえ、ムダなハードカバーか他の加工を減らせばもっと安くできそうなものもあった。その値段に見合う授業か疑問の残る授業もあった。
- 私は文系で2・3回以降は教育の専門がメインになるので、1回ではB群の授業を楽しみま

した。ただ数学科目が文系の取れるものが無かったのが残念でした。（一つあったが物理とコマがかぶっていた。だからそれを今年とろうとしたら科目自体が無くなっていて非常に残念です。）／あまり専門的にならず幅広い知識と教養をもった人間になりたいと思う。Specialized よくない!! ということで全学共通科目は、そんなストライクゾーンの広い人間を育てる一つの場であるんだと思っていたし、そうであって欲しいと思います。／知らないことを学ぶのは楽しい。「！（知る感動）」はいつでも人生に必要だと思います。パンキヨーなんてつまらないという人をよく聞きますが、私はそんなこと無いと思います。知らないことは知っていることよりもはるかに多いのだから。何才になっても。

○私は「おもしろくてたまらない」授業ばかりに恵まれ、周囲の人々が「パンキヨーやし」とおもしろいもの探しに初めからシャットダウンしているのがもったいないな・・・と感じていました。／大学の授業はTVの番組ではないので、どんな授業であれ、受ける側の捉え方にあると思います。「学生の声」を反映させる試みは頗もしいですが、大学の講義が「消費される商品」になってしまうのは残念です。

●途中から単位を取れればそれでもいいかという雰囲気になった。

○非常に幅広い分野の授業を自由に選択できるので勉強に飽きない。

●・開講されている時限に偏りがありすぎ、受けたい講義がいくつも重なり、結局その内いくつかをあきらめなければならなかった。非常に残念であった。／・ただ漠然と講義を受け、本を読むだけでは不充分であることに気がついた。得た知識や経験は一度整理しなければならない。そうしなければ自分の血肉とならない。／・授業の進め方に問題があると思える教官も何人かいたが、じっくり聞いていると実は興味深かったと思えることもあった。しかし、内容も進め方もどうにもならないのでは？と感じてしまう講義もいくつかあった。ただ、積極的に探せば、おもしろい講義は多数あると思う。

7. 4 法学部

●やっぱり、教養というものは大切だなと思いました。歴史とか、そういう素養を馬鹿にしてはいけないと考えます。

●教官によって授業に対する熱の入り方に差が大きすぎる。結局、教官の書いた教科書を読んで理解することになるのが多かった。本を読む習慣をつけるきっかけになったのはよかったです。

●教授の授業はつまらないものが多いと感じた。

○自主性の大切さを実感しました。

●教員のやる気の差が激しいと感じた。

●流されていってしまって何か残るものがあったのだろうかという感じです。

●試験が終わると、授業内容をかなり忘れてしまい、役に立ったかどうかは分からなかった。

高校時に生物を履修していなかったので、生物学系の授業は新鮮に感じ、やってよかったと

思う。リレー型の講義は、いろいろな分野から同一のテーマを眺めることができるので興味深かった。

- 何があるか、どうなるかが全く未知。それが京大般教クオリティ。すごく楽しかったです。
／人気講義の教室の狭さだけは改善して、あとはこのまま突っ走っちゃって！
 - 専門以外の授業を受け、広い知識を得られたが、単位取得のために仕方なく授業を受けているという意識は終わりまで抜けることはなかった。
 - 一般教養では不熱心な教官が大変多かったので、やる気を削がれた。／成績評価についても全く納得できない。一生懸命勉強している生徒をきちんと評価すべき。
 - 時間割を決めようとシラバスを片手に考えている時が一番楽しかった。
 - 全学共通教育教務課の人々の生徒に対する対応が雑になっている。冷たい。
 - 履修登録の流れやシステム等についての冊子か何かを作るべき。情報伝達が非常に悪いため。
 - 法学部の専門科目は基礎的な内容ばかりで実際あまり面白くなかったが、全学共通科目で、憲法、刑事訴訟法、労働法などの法律学を学ぶことができた。これらの科目は私にとって非常に興味深く、楽しいものであり、これから法律学に対する意欲が湧いてきた。民事訴訟法や刑法の入門講義はなかったが、あればそれもやりたかった。しかし、法律系の科目は同じ時限に固まっているものが多かったため、履修したくてもできなかつたような印象がある。数学や物理は嫌いなので、入学当初はB群の単位をどうするか悩んだが、情報系の科目がB群にあったのでとても助かった。最も印象に残っているのは、刑事手続法入門である。裁判官として長年経験を積まれた＊＊教授の話が非常に興味深かった。勉強してロースクールに入り、もう一度＊＊教授の授業を受けたい。
 - 教師にもっと熱意を持って授業に臨んでほしい。
 - いろいろな分野に関する授業があったが、どれも基礎の基礎程度の内容で、物足りなかった。
(授業時間などからも難しいのかもしれないけど) 数学など文系向け科目が少なかった。
 - 楽しい授業ほど成績が悪く、つまらない授業の方が好成績なのが不思議だった。
- 専門以外の多岐にわたる分野に触れられてよかったです。しかも結果的に専門の基礎となつたものもあってよかったです。教室が人数に対して小さいのはしんどいです。
- 試験では単答式の問題が全くなく、論述的で書かせるのが目立ち、今までの高校教育では見られなかった特徴だった。非常に新鮮で、学生が授業の内容を本当に理解しているかどうかを計るには良い方式だと思いました。私も試験を通じて、今までとは違う“甘くない”学問の世界に入ったと感じ、からの勉強に励みになりました。
 - 熱意ある教員の授業は受けて刺激になったし、そうでない授業の格差がとても大きかったように思う。
 - 出席点を成績評価の対象としている授業が数多くあり、自主性を重んじる京都大学の学風に憧れていたことから、現実と理想とのギャップに苦しみました。これが理由で授業にでなくとも単位の取れる「楽勝科目」と呼ばれる授業ばかりを後期に履修することになってしまい

ました。／ただ、中には非常に興味深く熱意にあふれた授業もあり、そうした授業は積極的に学習できたと思います。ゼミナールは先生方との交流もあり、非常に面白かったです。

○いろんな専門分野の教員がいることが分かり、「大学」を肌で感じられました。受ける前は興味のない分野も、と思っていましたが、実際はやっぱり、興味のあるところに落ち着いてしまいました。

●前期の「自然と文化ー農と営みを軸にー」を受けて、教授のフィールドワークの体験がとても熱かった。そうかと思えば、授業に全くやる気が感じられない教授もいてがっかりもしました。やっぱり難しい内容であっても先生が真剣で多くのことを学べる授業が良いと思いました。

●ゼミ形式の授業は、教授と学生間の意思疎通が頻繁にできて、それなりにやりがいがあった。ああいうタイプの授業ももっと増やしたらいいと思う。ただ、2回生に進級してからは専門科目とかぶって自由にとれなくなる授業も多く残念だ。

●明確に勉強しようと思わない限り、自分の思ったとおりの知識が得られないことが多かった。

○大学は教育の場ではなく研究の場であるため、学生側は“教授が手取り足取りわかりやすく教えてくれる”ようなことは期待してはならないと思います。

●真面目な教官によるしっかりした講義もあれば、いいかげんな教官によるゆるい講義もあるといった感じだった。学部の専門的学習の基礎となるような講義には熱心に取り組んだし、実際、内容も面白かったが、それ以外の分野では（興味のない分野では特に）苦痛であった。

●特に前期の場合は、どんな授業があり、どのように時間割を作成していくべきか分からぬうちに授業が開始されてしまったので大変だった。理系の学部と違って、必修科目が少ないためにその点での苦労は大きかった。専門以外の幅広い知識や教養を得るために様々な科目を履修しようと当初は思っていたのだが、やはり卒業に必要な分の単位をとらなければいけないということもあって、なかなか自分の興味だけで履修する科目を決めるというわけにもいかなかった。それでも個々の授業はそれぞれに面白いところがあったし、いろいろな分野の一端を知ることが出来て良かったと思う。ただ、そこで学んだことを自らの教養や知識として身につけるとなると、半期の授業だけでは不十分であり、さらに自分で勉強していかなければならないと思う。とはいえ、そのようなきっかけを与えてくれる全学共通科目には全体としては満足している。

●京大の全学共通科目の選択の広さは魅力であり、自分の専門に直接関係がなくても学べることは重要なことであると思うので、今後も講義を減らさず現状を維持してほしい。

○全学共通科目を受講することにより、それぞれの分野の基礎となる部分を知ることができたと思う。短い期間であったため、自分が身につけられたのはその分野のほんの一部分の知識であったと思うが、この1年間で得た知識は、今後役立つものになっていくと思う。

●語学の授業で文学や映画、演劇の作品を講読できるものが少ない。特に英語。芸術系の科目も少ない気がする。EX群なんてものができたが、他の大学まで足を運ぶのは面倒くさい。やっぱり京大に非実学は必要ないと言うことなのかな。

- 高校の頃に考えていたよりも大学生活は忙しかったです。授業を多く取りすぎていたのも一因かもしれません、それぞれの授業の内容が濃く、習得しなければならない物事が多かったのも一因かと思います。特に集中講義に関してはとても有意義でした。
- 専門科目に入る前に、全学共通科目という形で様々な教養を身につけることができたので、知的好奇心が満たされ楽しかったです。また、それだけでなく、専門科目の準備段階として法学の基礎部分をカバーできるような全学共通科目もあり、その点でも有益だったと思います。
- 取りたい授業が専門や語学とかぶっており、取れずに残念だった。学部で役立つ授業と専門は時間をずらすか、2つ以上開講するなどしてほしい。
- 高校の教科書と違った、教授独自の学説を聞けること、また高校までの勉強と全く異なる話を沢山きけたことは非常に有益でした。
- ・採点は全て点数制にしてほしかった。／・受講者が多すぎて教室が変更されたことがあったのが、若干不満だった。／・科目の種類が豊富なのはよかったです。／・教室の設備をもっとよくしてほしかった。特にマイクの音が聞こえにくかったりハウリングしたりすることがあった。
- 法学系の授業は楽しかった。それ以外の自分の興味で受講した講義は難しくて授業についていけないこともしばしばあった。
- 幸いにして選んだ講義はどれも質が高く、非常に満足できました。知的好奇心を満たしてくれるものが多かったためです。実用というよりはむしろ生活に役立たないくらいの講義が面白いと思います。
- 内容が興味の持てるものであったり、教員に熱意があつたりする場合には、大変有意義な時間を過ごせ、授業にもほぼ毎回出席したが、ずっと同じ単元を説明している、授業の始まりがいつも遅れるといった講義も結構あり、入学当初、共通科目に期待を抱いていただけにがっかりした。
- 自分の知識の幅や興味を深めるのに役立ったと思う。
- やはり、授業を受けてみないとその面白さはわからない。また、最初は良さそうと思ったものでも、後になるとだんだん面白くなくなる場合もある。本当に自分が興味を持てる講義に出会えることは少ないと思う。また、開講される講義数の割に、講義の体験期間、要するに登録期間が短いのも原因の一つのような気がする。できる限り幅を持たせて授業を受けていきたいけれど、各講義の内容の幅が少し狭いようにも感じる。特に数学、理科系の科目で強く。
- 興味深い授業が多かった。
- 専門の講義と、語学、スポーツ実習がかぶるのはやめてほしかった。
- 学んだことのない分野を積極的に受講してみて、理解できなかつたことも多くありましたが、理解できた分だけはちゃんと教養として身につけられたのではないかと思います。

- 私は法学部新2回生なのですが、1回生の時に語学と専門が2コマも重なって、二重登録が禁止されているので専門を諦めざるを得ませんでした。共通教育の教務に重複の理由を聞きに行くと、「その専門は必修ではないから」という理由しか告げてもらえませんでした。しかし、その専門は1回生でしか履修できず、また、法学部はキャップ制が適用されるので、4単位を無条件で諦めるというのは、他の法学部の学生に対して不公平を感じました。／以上のことから、共通教育とそれぞれの学部がしっかりと連携を取り、法学部1回生に関して語学と専門が重複しないように改善すべきだと感じます。

7. 5 経済学部

- “授業”は専門だけで十分。
- 同じ科目でも担当教官によって成績評価や授業内容が異なることに違和感があった。
 - 専門と全く関係ない授業が面白かった。特に実用的な講義は楽しい。親切な先生は感じがよかつたが、ひとりよがりの先生にはやる気をなくした。
- ・前期前に夜遅くまで何をとろうが心をおどらせた。／・受けたいと思っていた授業の教授のあまりのやる気の無さと、自ら楽勝科目と称するのを見て腹が立ち、その時間は他の科目に替えたこと。／・5月の連休中に卒業するまでにとろうとする科目について考えた。／・いろいろ見て回って、タレント教授の授業（特に人文社会系）にはろくなものがないとわかり、世間と学問のギャップに気付いたこと。／・まだ人環には＊＊教授、＊＊教授、＊＊教授、＊＊助教授などかつての教養部の伝統を受け継いだ学生に親身に接してくれる先生が残っていることを知ってうれしかった。（＊＊、＊＊先生からトップジャーナルにのっているおもしろい論文をもらったことも。）／・＊＊先生が退官と聞き、初修物理学を受けておけばと後悔した。／・やる気のない教授も持つクラス指定の数学受講をやめるか迷った。（続けましたが試験が授業と全く関係なく腹が立った。）／・どうしても受けたい科目と専門・語学が重なってどっちを捨てるか迷った。／・機構の建物の屋根がどうなっているのか気になり、そのためだけに上へ上がったこと。／・専門とスポーツ実習を重ねないで授業時間を組んで欲しい。／・二重登録のことを聞いてあきれて口がふさがらなかつた。
- イタ車のごとく当たり外れがあったようにも思いますが、そこらへんが愛すべきところかとも思います。個人的にモチベーションが上がらない、またモチベーションが別方向を向いていたような時期があり、学習という点では若干の不満が残りましたが、しかし一年間のおおらかな時間を享受させていただいたことで、私の今後の学習意欲に多大な好影響があることと確信している次第です。
- 教養科目は専門と違って入門ばかりになることが多く、その分野の面白さがわかるところまでは教えてもらえないんだと思います。意識的に関連する科目をとることでより一層教養科目も面白くなるんじゃないでしょうか。
- せっかく総合大学であるのだから、もっと各学部から協力を得ることによって可能となる専

門分野の入門的な基礎を学ぶ（触れる）ことのできる授業があればと思う。

- もっと出会いがほしかった。
- 選択の幅が広く、よかったです。
- ある人が、専門である程度の知識を蓄えてからそれに関係した一般教養を身につけるというのも一理あるのではないかと言っていたけれど、それがかなり真を突いたことだと感じた。我々の学部は卒業に必要な単位数が少ないので尚更そういうシステムに転換しても良いのではないかと感じる。
- 授業に出席したいと思わせる講義も数多くあった一方、一回も出なかったものもあった。前者は自学もすすみ、楽しかったが、後者は単位のための道具になった。もちろん、他の誰かにとっては興味深いのかもしれない。シラバスに書かれる講義内容を詳しくしてもらえば解決されるのかもしれない。
- 高校生までとは違って、自分の興味がある事についての講義を自分で決められる事が新鮮で面白かったです。／ただ、今感じるのは、もっといろいろな分野の講義を受ければ良かったという事です。一見、興味がないように思えた講義でも、勉強してみれば、もっと新しい発見ができたのではないかと少し反省しています。でも、全学共通科目を学んだ事で、今後の専門科目の学習に活かせるのではないかと思っています。
- 全般的に、これから専門的な学習の基礎的な考え方方が得られた点、大抵の先生は工夫をして熱意をもって授業を持たれていた点、努力相応の結果（成績）を出していただいた点などはよかったです。知識よりも、その担当教官の考え方、その分野への熱意がよく分かる授業もあって、今後の学習への励みになった部分があってよかったです。しかし、何の掲示や予告もなしに突然休む教官もいて、モチベーションが下がる時もあった。
- 学習は楽しいが講義は楽しくないものもあった。授業はある程度の取捨選択が必要だと感じた。本から学べることならばちゃんと体系的に学び、講義はその補足や、本では学べないことを期待するようにしようと思うようになりました。時間の希少さを実感し、豊かな生活をしたいとこの1年間で強く思いました。
- もっと生活に役立ちそうな授業を増やして欲しい。

7. 6 理学部

- 考えること自体が楽しい。
- 幅広く学ぶことができたので、考え方にも幅ができたように思います。
- それほど進学校というほどでもない高校から來たので、自分より勉強ができる人達の中で学ぶ環境はとても刺激的で楽しかった。それと同時に自分が必死になって理解したことを隣の友人が一瞬で理解したりするのを見ると、ちょっと自分の能力に対してがっかりしたこと也有った。／他の大学に行った高校時代の友達と話したりすると、必修科目にしばられてあまり取りたい授業が取れないみたいな話も聞くけど、京大は割と何でもかんでも好き勝手にと

させてくれるのでとても良かった。高校までの勉強で自分の興味、適性のある分野がちゃんと分かるかというと、そんな事もないと思うので、選択肢があるのはいいと思う。1年前よりも確実に自分の視野が広がったと思う。今年度の授業も楽しみです。

- 全学共通科目の中でも専門の基礎となる科目は、それなりの動機もあり、充実していたと思うが、一般教養として取っていた科目については全体的に教員の専門分野に傾きすぎていって、もっと実用性、一般常識のようなものを身につける場にしたかったが、それは実現できなかった。成績評価に関しては、特に理系科目は採点基準が明確だと思うので、答案返却などもっと評価を公開してくれれば、成績をもらったときも納得できると思う。今ままでは、必ずいくつかの科目について納得できない評価が出てくると思う。改善してほしい。
- 自分の頑張りに不備があったかもしれないが、1年間勉強したが、ほとんど何も勉強していない気分になった。
- やっぱ熱っぽく語ってくれる先生が好きです。
- 理学部で第二外国語の単位が4もいるのは納得いかない。語学は好きな人がとればいいと思う。かわりにゼミ形式で単位になる専門的な科目を増やしてください。教養でもう少し専門的なものがあつてもいいと思う。
- 履修制限のある科目は友達に聞くまで登録の仕方が分からなかつた。掲示板には書いてあるが、少し不安だつた。
- 世界は広く、／また、厳しく、／自分は浅く、／また、甘い。
- 京都大学では幅広い分野から様々な全学共通科目が選択できて素晴らしい。自分のニーズに合つており、京大に来てよかつたと思った。今後も学部の専門科目と関係ないいろいろな授業を学生が受けられる制度を保つてほしい。
- 理学部のクラス指定の数の多さによって選択の自由がなかつた。さらに、B群は指定講義以外に卒業単位として認めてもらえないで、幅広い教養という点では障害になつた。それでも、中には興味をひかれる文系科目を受講できて良かったと思う。／もうひとつ、物理学基礎論は「高校時代、物理を選択しなかつた者は初修物理学をとるべき」だとしているにもかかわらず、その初修物理学の数の少なさ（今年度後期に関しては1つのみ・・・）や、クラス指定科目との重複により受けることができない状況です。それなら、物理学基礎論のあの注釈はつけない方がましです。
- 学部専門科目と全学共通科目の重複登録は本来できないことになっています。しかしながら、理学部における学部専門科目の履修登録が不要であることをいいことに、同一曜時限に複数の授業を選んでまとめて講義に出席せず単位をとり、しかもそれをインターネット上のサイトで威張り散らしているような輩がいます。さらに彼はその方法を同級生や下級生に広めようとしているきらいもあります。／このように重複登録を大学側が黙認していることが公になれば、京都大学の見識を疑われることにもなりかねません。各学部の教務とも相互に協力し、重複登録に対する取締りを厳しくするよう強くおすすめいたします。／もう1点、

全学共通科目の中には履修人数制限を設けている科目的抽選制度について意見があります。私はつい先日、この前期月曜3限開講の＊＊＊＊を申し込みました。申込が行われてから、その結果発表が出るまでにその講義は2回も行われました。2回も講義を受けさせておきながら抽選で落選させられたということがわかった時、私は「その時間帯に他の授業を受けるチャンスもあったはずなのに、抽選結果の発表の遅さが原因でその機会を奪われた」と非常に腹立たしいものを感じました。私と同じ思いをした人は他にも多数いるはずです。多くの学生が集まりそうな講義において抽選を行う際には、語学の予備登録同様講義が始まる前に申込期間を設けるか、少なくとも2回目の講義が行われる前に抽選の結果を出すかのいずれかの方策をとるべきだと思います。いやしくも高い授業料を払っている学生に対して、講義を受ける権利を躊躇することになるこのような抽選制度を適用するのは、大学側の不誠実以外のなものでもないと思われます。しかもこのような不条理な抽選を行っている講義が、人権や法について語る「＊＊＊＊」だということにも私は一層憤りを覚えます。一方でこの講義の担当教官は「抽選が行われる云々及びその結果は私の責任ではない」と自己保身の責任逃れに走っており、見苦しいことこの上なく私は失笑を禁じえませんでした。／概して、我々理系学部の人間は文系学部の人間に比べてクラス指定の教科や専門の科目によって大きな時間的拘束を受けています。したがって、教職の科目や文系科目は専門科目とバッティングしないように合間をぬって選んでいるのです。無作為抽選を行うにせよ、専門科目で時間的拘束をあまり受けていない文系学部と大きな時間的拘束を受けている理系学部とを同列に扱つて抽選しているのは、悪平等としかいいようがないと思います。回生や所属学部によって優先順位を設けるよう強く要求いたします。／私は、今年度の後期に開講される＊＊＊＊の授業についてはクラス指定の科目とバッティングしたため申し込むことができません。おそらく3回生の前期に申し込むことになると思うが、現在のような抽選方法が行われればどのような結果になるやら気が気ではありません。繰り返し、現在の抽選制度を改革するようお願ひいたします。

- 語学（C群）には非常に問題を感じる。人にもよるのかも知れないが、教員もでたらめだし、授業内容もいい加減。そのくせ、制度上語学は一番重要視されている。必要になつたら自分で勉強するから構うなと思うくらいだ。この授業のせいで興味があった仏語を見るだけでも嫌になった。アレルギーのようなものだ。教員、制度の見直しを強く要求したい。それ以外は特に問題を感じることはない。良い学習空間を提供していただき満足している。
- 先輩らから聞いたとおりのものが多かった。悪い点が改善されていないように思う。実験や体験する授業は面白いものが多かった。演習をもう少し多くしたらよいと思う。
- 無理矢理全精力を一つの科目にのみ注がせようとするような過酷な科目が多いように感じる。
- 自分の専門以外の分野についての教養を広げる、という意味ではその可能性を感じることができた。ただ中にはあまりに専門的な話をしそうる教官もいた。その教官にはその教官なり

の「哲学」があるのかもしれないが、全学共通科目という位置づけから考えると、あまりに専門的すぎるのもどうかと思った。

- クラス指定科目（B群）が多く、興味を持った科目があっても、重なって受講できなかつた場合が多かったのは残念であったが、受講した科目に関しては内容に興味持てるものも多かったように思う。また、専門基礎科目については高校までとの違いが大きく、新鮮でもあり、大変でもあった。
- ・勝手に期待して、勝手に失望した一年だった。／・結局、授業が楽しいかどうかは教官次第。興味があっても、理解できない話は当然おもしろくないし、そこまで興味のないものでも、理解できて、新しいことを知ることができれば楽しい。／・もっとも、理解力のない学生（しかも、質問にもいかない）に問題があるのでしょうが。本職が教師でない人にわかりやすい授業をしろ、というのは酷というものでしようから。
- 自分に興味のある分野のものだけをとっておけばよかった。
- 1年間楽しくやっていけたと思う。
- クラシスの便利さに、いつも驚かされていました。欲を言えば、学部科目の情報（休講とか）を掲載したり、リンクを貼ったりしてほしかったです。最近はリンクは存在するようですが。／共北の2、3階のギャラリー（？）には、大変お世話になりました。生協がいっぱいのときは、友達を大概「穴場に行く？」と誘って弁当を食べたり勉強について話し合ったり。あの様な場が増えることを期待しています。ただ、冬場は、かなり寒いのと、自動販売機が無かったのが残念でした。／4共の玄関入口に、なぜ灰皿があるのでしょうか。位置を考え直してほしいものです。
- 人付き合いに対するあきらめがついた。徹底的な自己否定で生きようと思った。「感情」を表現する語彙が決定的に欠如していることに気がついた。数学に対しては、「考えられるものはすべて考え尽くしてやる！」をモットーにやっていきます。それにつけても1年前の認識の甘さ・・・
- 微積分学や線形代数学などの上回生での講義（数学）で必須となるような知識を教える講義がどれなのか入学当初はわからず、非常に不安だった。／語学がクラス指定になっていたが、授業があまりにも下手な先生にあたってしまい、自分で勉強することもうまくできず、結局単位を落としてしまった。クラス指定科目の講師ぐらいは授業に長けた先生を送ってほしい。／試験を論述で書かせる講義や難解、抽象的な数学の授業は、覚悟はしていたがやはり大変厳しく感じられた。しかし、自分で時間をかけてじっくり考え、理解することにより、何か得るところがあったと思っている。／特に、A群の科目は自分の考え方に対する響いてくるような講義をとることができて満足している。
- 数学の授業は教授が何言ってるのか意味不明。具体例がほしい。
- B群科目はともかくA群の文系科目については本を読んで自分で勉強した方が手っ取り早いと感じた瞬間が多々あった。ある哲学、思想を学ぶにあたっては、講義を聴くだけでなく自

分で歴史的著作に体当たりしないと意味がない。この1年間で講義に対する考えが入学前と比べて少し変わった。内容によっては、講義はあくまでお手伝いに過ぎない。

- 教官の良し悪しで全てが決まる。熱心で、授業以外でも話をしてくれる人ばかりならいいのだが・・・

○1回生時はとにかく授業を多く取りすぎ、一つ一つの授業への勉強が不足していたと思う。なので、2回生では授業コマ数をしぼって、各授業にかける時間を増やしたい。／授業科目数が多すぎて、どれを受講してよいのか分からなかった。

- ＊＊先生の講義を受講して、感じ、考えたことは僕の人生においてとても重要な事柄です。先生の講義は環境問題や、生き方についての先生の自著をもとに英語で進められました。講義の全てを通して先生が伝えてこられたメッセージは「自分の人生にもっと自覚的になり、自分の力で正しい情報を集め、事態を良くするために行動する力を身につけ、しかもそれが自分のためだけで終わらないようにしなさい。」というものだと思います。先生が僕たちに示して下さった愛を動機付けとして人の役に立つような存在になるべく勉学を始め、もちろん活動に励んでいきたいと思います。

- 解答を明確に示してくれないので、自分で勉強しても答えが分からないのでやる気が出ない。特に数学、物理。定期試験（レポート問題）の模範解答を配るか、ネット上に公開してほしい。模範解答を示すのが普通だと思う。示さない意味が分からない。ほんとに。大学の試験はだから嫌だ。

- A群科目の学習が新鮮味を感じることが多く楽しめた。

- B群科目は授業だけでは習得度が低いので、レポート課題等、自習できる環境がもっとよくなると良いと思う。

- なんだかんだ言って優しい先生の方が多かったので良かったです。よく課題を課す講義はきつかったですけど、試験の時にそれが役立ったので感謝しています。

- 自分の進路を決定する年にしたい、と一年前に書いたが、直接的に自分に影響を与えたのは、授業外であったという印象である。／しかし、そこに至るまでのプロセスで全学共通科目は重要な役割を果たしていたと思う。／授業がつまらないから、何でこんな事をやっていけるのだろうと考える。／→授業以外での活動を通じて（あるいは一部はゼミを通じて）研究職というすばらしさを知り、研究者がいかに勉強熱心かを知る。／→授業へのモチベーションに。／来年もしこのアンケートがまたあれば、授業から得られるものが多かったと書けるだろう。

- まあこんなものか。

- 成績評価に関して努力が報われるような評価をしてほしい。シラバスにおいて成績評価の方法を具体的に（例えば出席点やレポート、小試験、期末試験での配点あるいは減点法か加点法を採用するのか）示してほしい。また、外国語の初級についても2回生向け科目と同様にもっと具体的なことを示してほしい。

- 単位を揃えるためだけで、授業を受けても何も身に付いていない授業が多かったと思われる。周囲の学生を見てもいかに楽して単位を取るかだけを考え授業に熱意を持っているものは極めて少ないように思われた。
 - 全く同じ科目名のものでも教員によって試験も評価も異なるのはおかしいと思う。この大学の評価のバラつきは本当に深刻であり、生徒の間には甚だしい不公平が存在している。早急に対応し、より健全な教育システムを再構築して頂きたい。／また、シラバスの情報、とりわけ評価基準に関するものがあまりにも少なく、また不明確である。米国の大学のシラバスなどをもっと見習い、早期の改善を実行することを希求する。／大学当局の人間には猛省を促したい。
 - 稀にシラバスと全く違う内容が行われることがあるので改善して欲しいです。
 - 全学共通科目はかなり幅広い分野のことを自由に学べ、自分の求めるることはほぼ満たされていたように思う。ただ、教官には単位取得の難易度の格差はもう少しなんとかしてほしい。
 - 授業の始めはやる気があっても、少しずつ単位を取るためだけの勉強になってしまい、自分のための勉強にはならなかつたような気がしました。2回生ではもっと真面目に勉強しようと思っています。
 - 1回目の授業に出ないと登録できないような科目があるのは、おかしいと思う。
 - いろいろなテーマがあったので、楽しんで勉強できた。でも、単位を取らなければならないという圧迫感もあって、身体をかたくしながら授業を受けた時もあった。もう少し、のびのびとしたムードがほしかった。
 - A群の一般教養は、卒業に必要な単位を取るためだけに受講した。自分の知識にしようとは思わなかった。
 - 京大の「自由」は自分に合わないと思う。
- 第1回の講義から授業が進んだり、第1回に出席することが予備登録となるため実際講義に出てみてからどれを受講するか決めにくく、受講してから後悔することがたびたびあった。
- ・先生によって、教え方に大きな差がある。熱意の差なのか、熱意はあっても教える技術が稚拙なのか・・・／いずれにせよ、授業を受ける前は過度な期待はせず、面白い講義にあつたらラッキーくらいに思っておくのがよい／・結局は自分で本読んで考えて問題を解かないと学力は身につかない。／・教養はそれなりに面白いけれど、本当に面白いのは専門に入つてからかな
 - 大学の授業でいらないと思ったら即やめるとか、自分で勉強することの大切さ。
 - 京大はすばらしい。京大に来てよかったです。京大を本当に誇りにします。
- 問8の7に関連して／共北26など、後方まで高さが変わらないのにあれだけの広さがあると、後ろに座った場合黒板の下段など全く見えないので、改善の必要がある。先生が上段に黒板動かしてから板書を読めたとしても、リアルタイムで授業についていけないため、結果的に授業に取り残されてしまう。また、マイクの音量について、明らかに教室後方まで声が

届いていない授業や、そもそもマイクを使っていない授業があるので素早く教室移動をして前の席をとらなくてはならなかった。どこに座っても聞き取れるような音量で授業をしてほしい。黒板の文字の大きさについても明らかに見えない、読めないものは改善してほしい。情報機器の操作法がよく分からず先生が毎度苦労されているような授業もあったので、授業中に使いたい機器があって、使い方が分からぬような先生には、できれば事前に機器の管理者等に使い方を教わっておいてほしかった。／勉強について／力不足の点が多くあり、また後期後半には「勉強したいのに寮に戻ると体が動かない」というような状態になるなど、心残りな部分は多いにある。しかし、それでも私は2回生になったのだから無理矢理にでも気持ちを切りかえてこれから1年に臨み、1回生の時の分を取り戻すような思いで勉学に取り組みたいと思う。

- 1回生の配当になっている地球科学の分野が簡単すぎた。履修登録の期間が短い。始まって2週間やそこらではどれを登録しようか迷っている科目全部の講義を受けて回れない。
- 最初は必要だからとっていたが、興味深い講義が多かったので良かった。
- 理学部で必要な科目とかぶって、ほとんどおもしろそうなA群の科目が取れなかつた。（よく言われることですが）／自分の興味のある環境に関する様々な意見を、公開講座という形で聞け、大いに刺激となつた。／総合大学の強みは専門の違う教授や学生が同じ空間で生活するということだ。可能ならば、今後各学部とも連携しより包括的な学生のサポートをお願いしたい。／実習・演習系の授業の単位が一般的の授業より少ない、というのは現実にあっていない。より意味のある単位数にして欲しい。
- 考えていた専門以外にも興味を持って、逆に決めるのが難しくなつたが、自分の知的好奇心を満たしてくれたと思う。ただ、普段は勉強しないですんでしまう雰囲気が出ているので、学生が不真面目になっていくのが当然に感じられた。学生のモチベーションに頼らず、学習させたり、するべき雰囲気を作つてほしい。
- 新築された棟（例：吉田南総合館）の教室に備わっている電動カーテンの意義が全くわかりません。朝、教室に入り、外は晴れて天気がいいにもかかわらず、カーテンは閉め切つて、室内の電気は全て点いている。これは電気のムダ使いに思えてなりません。何より教室の雰囲気も暗くなります。電動でなければ、すぐにカーテンを開けて爽快な環境を取り戻すことができるのですが、現状では、リモコン操作が全てのため、手軽くカーテンを開けることができません。ある教官は「何、この税金のムダ使い（笑）」と仰られておりました。僕も含め、多くの方は、あの電動カーテンは蛇足だと思っています。手動でも開けられるようにして欲しいです。／あと、新歓シーズンは特にそうですが、サークル・部による黒板への宣伝の書き込みは規制する気がないのでしょうか？京大教官ともなれば、あの程度の“雑菌”は笑つて見過ごせるのですか？授業妨害以外の何ものでもないと思うのですが・・。
- いろいろな授業を受ける中で自分の研究したいことや、自分の興味が持てるものの発見があった。

7. 7 医学部

- ちゃんと出席して勉強している人より、カンニングしている人の方が成績がいいのは納得いかない。もっと試験の管理をちゃんとしてほしい。
- 興味のある授業には出席するが、興味のない授業には出席しない。5限終了が18時は遅い。
- ・出席を義務にするのはやめてほしい／・講義に出席することと、講義の内容を理解することとは関係がないと思うので、成績は学期末のテストまたはレポートのみで評価してほしい。
- かなり多くのことを感じ、考えましたが、簡潔に言えば「大学は高校ではない」ということにつきると思います。
- 出席していないくとも単位が取れる授業が数多くあり、これは自分が反省すべき事かもしれないが、ほとんどそういう科目を履修してしまい、結果として興味を持って取り組める授業がなかった。もっと興味を持って出席が苦にならない授業が少しはあっても良かったと思うし、若干後悔している。楽な方へ流れてしまった自分に少し腹が立つ。
- 興味ある講義は受けていて楽しかったが、逆に興味のない授業は全くおもしろくなかった。
／1回生で受講するには専門的すぎて難しい講義もたくさんあった。／全学共通科目を受講しなければならない意味が最後までわからなかつた。
- 大学生活は自分の気持ち次第で楽しくもつまらなくなる。
- 自分の興味のある講座を受講していくと、興味ある分野が限定されていることに気付いた。せっかくいろいろな分野の講座があるのだから、もう少し視野を広げていきたいと思った。しかしながら、全学共通科目のおかげで自分の専門とは違う分野の学習もできて楽しめたし、他領域の学問の楽しさ、重要性に気付くことができたと思う。
- 休講が突然来るのはやめてほしい。／人間の体についての講義をたくさん受けたが自分の知らなかつたことにもたくさん触れられてよかったです。／もう少し教授の先生方が自己満足でなく生徒がわかるように授業してほしい。
- 難しすぎる内容の授業（専門的すぎるもの）は聞いていても、理解しにくく、途中で投げ出してしまうものもありました。なので、高校での履修の有無に関わらずに受講できるものももっと増やしてほしいです。また、専門の授業と重なっているために受講できないものも多かつたので、開講時間数を増やしてほしいと思いました。
- 入学当初に全学共通できちんと単位がとれるだろうかとか授業についていけるだろうかなど、色々な不安がありました。けれど、授業のおもしろい先生や内容がおもしろかったりして楽しめたし、無事に単位も取れたので良かったです。／全然分からぬ授業も多くありましたが、色々な分野の知識を得られて良かったと思います。
- 本当に様々な科目があってすごいなと思います。他の学部の専門基礎科目が履修できるし、自分の専門基礎科目を受講している人の中に他学部の学生がいて、違った視点の意見を聞けることが新鮮でした。

- 自分で積極的に動かないとあまり身にならないと感じました。／幅広い範囲のことが学べるのはよかったです。まだないジャンルのものもどんどん開講してほしい。／国際連合概論がなくなつたのは残念です。／色彩系のパンキョーを開講してほしいです。／90分授業を60分にしてもっとたくさんの種類のパンキョーが取れるようになればよいのにと思います。
- 授業に熱意を持っていない先生が多い。もっと学生の理解度を考慮して、興味の持てる授業にしてほしい。
- シラバスを見ておもしろそうだと思った講義が実際に受けてみると案外おもしろくなくてがっかりした。内容自体には興味があるでも、先生の話し方があまり良くなかった。
- 適当でも受かつたり、自分の熱意と他人の熱意に明らかに差があるのに、成績に差がない。
- いくつかは興味深い講義もあったが、退屈なものや内容が奥深かつたり、複雑すぎて理解できないものが多かった。また、講義の数の多さには驚いたけど、文系科目の多くは思想系、哲学系が多く、理系の学生には少しつらいものがあると思う。授業の進め方について最も強く感じたのは、多くの教員が液晶プロジェクターの起動法がわからなかつたり、手間取っていたことだ。このために授業の開始が遅れたことが何度かあったので、この点は早急に改善してほしい。
- 先生の熱意がある科目は、学生もそれに応じて楽しく受講することができた。／大きい教室で授業するのに、マイクを使わない先生がいて、聞こえにくかった。／レポートや自分で表現する形式のテストでは採点基準が発表されないので、今後の参考にすることもできず、また自分の評価にも納得できないので、発表してほしい。
- 看護専攻の目茶苦茶なカリキュラムに追い回されて、ちっとも学びたい授業をゆっくり自由に受講することができず、つまらなかった。
- 教授にやる気がないので、こちらもやる気ができません。
- まだ明確にしたいことがみつかっていないため、様々なことに触れ自分の興味の向くものをみつけたいと思ってたので、様々な講義を選びましたが、結局あまり期待通りにはいきませんでした。／一方、いくつかの授業では今までまったく考えもしなかつた内容を聞き、自分で考えることで、頭が柔軟になったと思います。／一般教養については様々な意見を聞きますが、私は、必要だと思うし、あってよかったです。
- 全学の共通科目にしては、専門的なものが多く、教員の興味に沿ったマニアックで、初心者には理解しづらいものが多くすぎると思います。～基礎論、～概論になっていても、中身は始めから難しいものが多く、興味を持っていても付いていけなくなってしまいます。履修したからには単位を取るために勉強しますが、内容が難しすぎて理解できなかつたり、基礎がないために応用のところを暗記してとりあえずテストに備えたりなので、教養としてまったく身につかないものばかりです。語学と一部の実用的・基礎知識的な科目以外は、本当に無駄としか思っていません。その割に必要単位数は少なくはなく、苦労させられます。だから、学生はとにかく単位数を稼ぐために興味もない楽勝科目ばかり選んでやる気のないまま授業

に出て退屈しなければなりません。／もっと学生が意欲的に学べるような科目を増やし、興味を持った初心者が入りこみやすい授業をすべきだと思います。

○授業内容が非常におもしろいものもあれば、ただ教授が本をよみあげるだけで全くおもしろくないものもあり、差が大きいように感じた。

○全学共通科目を自分の興味があるかどうかの基準ではなく、単位を取得できそうかどうかの基準で選ばざるを得ないと思いました。後者の中で興味あるものを選ぼうとして色々悩みました。（特に後期）

●高校とはまた違った学習、講義スタイルの中で、さまざまな興味のあることが勉強できて良かった。／ただ、一部の教授の中には、講義室内の設備を使いこなせておられない方がいらっしゃいました。それに対する解決策を考えて欲しいです。お願いします。

○授業内容がつまらない。

●基本的には満足しています。／ただ、第二外国語は全く必要性が感じられず、興味が持てなかつたので無意味だったと思います。D群のように取らなくても良い科目にしてほしかったです。

●4共30は自分の思い描いていた”大学生活”のイメージにピッタリの部屋でした。クラブに所属し、日々の生活に満足しています。単位も知らないうちにいっぱいとれたので良かったです。いい1年でした。

●科目によって難しさが違うのに、成績表には秀・優・良・可・不可しか判断されていない。／難しい授業を必死で受けて可だった人と、簡単な授業を適当に受けて秀だった人と比べたとき不公平であることは明らかである。これが不満だった。

●正直、単位をとるためだけに出席するような授業は不要だと思う。はやく専門科目をやりたくて仕方なかった。1年間の全学共通科目の中には、とても良い授業や興味深い授業もたくさんあったが、あまり今後に生かせるようなものも無かったのが残念だった。

●シラバスを見て興味が出なかった講義は、（たとえ単位が欲しくても）選択しない。後々の苦痛のもと。／周囲の、根拠のない楽観的雰囲気に流されない。／学生の質の向上のために、学生に課題を課すべきである。一般人は（大多数の京大生も含めて）、圧力がある方がずっと生産的になる。

○非常に興味深い講義に参加することができて、とてもよかったです。

○1年間ですべての全学共通科目を取得しなければならぬので、ほぼ全コマ登録しました。／そのため、すべて試験という訳にはいかず、レポート試験の講座も意識して履修しましたので、全力で勉強しました。就職を意識しないですむため、可でもよいという気持ちもありましたが、モチベーションを保ちながら優をめざしました。教授の言葉で「医学部生はダメである。」という決めつけには、正直反発しました。

●興味深い内容の授業はもちろんあり、教授の熱意が伝わってくる授業もあった。しかし、一部にはやる気のないようなものもあった。「自分が興味のあるもの」という基準で必修以外

は埋めたので、やる気のない授業というものは少なかったが、やはりシラバスだけで決めるとどうしても実際の差が出ると感じた。

- 学生の理解度を考慮せず、淡々と授業をすすめるケースが多くかった。また、狭く深く学習する科目が多く、広く学習できる科目が少なかった。狭く深く学習することを求められるのは専門科目だと思うので、もう少し幅広く学習できる科目を増やしてほしい。レジュメ等、配布物は出席者全員に行き渡るようにしてほしい。できれば授業中は座って講義を受けたいので、人数の多い授業などは考慮してほしい。語学も半期にし、一回生も選択にしてほしい。
- 全学共通科目を受講して、成績評価が厳しい科目が以前より増えたように思える。京大の伝統であった「降ってくる」単位が阪大のような「掘り起こす」単位に変わってきているのではないか。この是非は難しいが、私は「降ってくる」伝統はすばらしいものだと思う。理由は以下の通りである。／1. 単位取得のためと思わず、自分の教養のためと思い授業を能動的に受けられる。／2. 空いた時間を授業にない勉強に費やす。／ただ、最近は2の代わりにクラブや遊びに費やす京大生が多くなり、それを咎めるために出席を義務づけたりし始めているのだろう。学生の本分は勉学することにある。しかし、高校のような押しつけ型の体制にならないようにしてほしい。自由から生まれる独創的な学生の芽を摘んでしまっては、もはや日本一の大学でなくなってしまう。京大がより発展せんことを願う。
- 京都大学の全学共通科目は期待していた以上に素晴らしいものでした。／特に（一部の教員を除けば）教員の方の質が、非常に高かったように思われます。教員の方は皆さん、異口同音に「学生を啓発したい」とおっしゃり、私は充分に啓発され、深い教養に基づいたものの見方や真の勉学・研究の基礎作りをすることができました。／また、入学時には期待していなかった「教員の方との交流」ができたことも私にとって大きいことでした。特にゼミ形式の授業において、授業時間外であっても快く質問に答えてくださり、私の「やる気」を引き出してくださいましたことに感謝しています。／さらに、特にA群科目に多種の授業があることで、自分の興味に合い、かつ教養を深められる授業を選択できたことも、私には良いことでした。今後「専門」という、ある意味狭いところに入っていくわけですが、その前に「学術的に広い世界」に触れられたことは、これから的人生に非常に役立つだろうと思います。

7. 8 薬学部

- さまざまな分野の学間に触れることができ、大変貴重な経験になったと思います。
- 小～高校のように音楽の、歌ったり合奏したりする授業を受けたい。
- 授業が非常につまらない！
- 京大の自由な雰囲気、というのが失われつつあるのではないかと思います。例えば、授業毎に出席をとられる教官がたくさんいらっしゃいましたが、恐らくは学生が少しでも単位を取りやすいように、という配慮なのでしょうが、学生の多くは出席だけとったら帰る、とか授業に来ておいて別の科目の勉強をしたりしていました。別にそうした学生が悪いとは言いま

せんが、授業を真面目に楽しもうと思って教室にいる学生からすれば、そうした人々ははつきり言って邪魔です。出席さえとらなければ、そうした学生はもっと別の場所で有意義に時間を使っていたのではないかと思います。こうした、出席の例はあくまで一例ですが、所々に「学問とは自分で勝手にするもの」という京大の学生が昔から持っていたであろう心情に反するようなシステムが見受けられ、少し残念に思いました。もう少し、学生を野放しにしてもいいのではないかと思う。束縛しても、放任しても勉強する人はしますし、しない人はしないでしょうから。

●撲滅すべしカンニング。／まっとうにやって可、カンニングして優はひどい。

○席がいっぱいでは場所を取るのが大変でした。授業は基礎知識が必要なものもあり、少しずつ新しい授業もあり、そのような授業は次第に出席回数が減っていってしまいました。

○必要単位を揃えるためだけに授業を選ぶのは間違っているが、実際のところそれを考慮せずにはいられない。／1回目の授業に出席しなければ単位なしや学籍番号の偶奇による規制はひどい。／冷暖房によって部屋を快適にしてほしい。特に4共30の夏の空気のこもり具合に耐えられない。換気してほしい。／やる気のない先生は授業を開講しない方が良い。

○・成績について／成績評価がよくわからない教科がいくつかあった。(例　自分ではとてもよくがんばったはずなのに成績があまりよくない等) といつても、教務の方に間違いはないか確認するほどでもない。／自分の点数はどうしてこうなったのかもう少し具体的なことも教えてほしい。(例　あなたの成績は、出席点10点+レポート20点+試験50点=80点です、のように)

●前でボソボソ話をするだけの教員もいるものの、実際に真剣に講義に取り組んでくれる教員もいて、その点は非常にありがたいと思いました。主にたった一年という期間でしか行われない、それでいて大切な全学共通科目なので、そういうやる気のある教員がもっと増えてほしいと思います。

○曜限によって選択肢の幅があるところと無いところがあった。／できるだけ5限などにも科目を増やして欲しい。

7. 9 工学部

●教員の頑張りに差がありすぎる。

○全学共通科目の文系科目では、高校では教えてくれなかつたような、世界の実状や、人間の心理、社会人になるために必要な知識などを学ぶことができたと思います。

●講師によって同じ京大の講義でもこれ程差があるものかと感じた。バラエティが豊かなことは良いが、講師ごとのやる気や技量に差がありすぎるのは問題だと思う。

●講義の内容よりも、教授がどれだけ熱心にわかりやすく、おもしろく授業をしてくれるかがとても重要だと思いました。ぼそぼそと何を言っているのか分からない授業はとてもたいくつでした。

- (A群) 自分の興味のある事柄について、さらに詳しい内容、別の見方からの考え方などに触れられてよかったです。また、今まで知る機会のなかった学問について触れられる機会もでき興味深かったです。／ (B群) 大学に入ってから教わる内容が多く、非常に苦労した。教員によつてはフォローなどもあったが、そのない場合はとても大変だった。専門科目との関係で出された課題ができる時間がとれなかつたのも残念だった。
 - 講義ごとに、「何を学ぶべきか、何ができるようになるべきか」を明示してほしい。
 - 授業の出席を義務づける授業もあったが、大学の教育のあり方としては不適切だと思う。授業に出なくても自分でその分野について学習できるなら、そういった方法も認めるべきで、基本的には出欠は生徒の一人一人の判断に任せるべきだと思う。
 - 全体に、内容が専門的すぎて学生の興味とうまくシンクロしていない授業が多いように感じる。また、授業の内容も KULASIS などから得られる情報だけでは少し分かりにくいので、授業内容の説明についても少し改善してほしいです。しかし、中には非常に興味深いものもあって、とても勉強になりました。
 - ただ黒板に向かって一人で勝手に授業を進める先生がいたので、もっと学生の方を見て、愛情を持って授業をしてほしい。
- 専門との関係をもって考えてほしいと思いました。B群においてとくに。／ A群の授業の分野の広さは、とてもおどろいたし、興味を持てるものが多く、わくわくさせられました。ただ、先生によっては、本当に適当な授業もあり、それは残念でした。
- 身につけた、本当に自分の幅が広がったと思ったことはなかった。授業よりも、高校までに押さえつけられて、することの不可能だったいろいろなことをしたりして、自分が成長していった実感ばかりが残る。高校とは違い、自分で時間を作れるので、その分自分で、いろいろを考えたり、本を読んだりしたことの方が記憶に残っている。取得しなければならない単位数が多く、単位だけを目的に取った授業もあり、無駄な授業もあった。大学当初、期待していた雰囲気とは異なり、けだるく、おもしろくなかった。
 - 科目によって単位取得難易度が違いすぎると思う。
 - 自分の努力不足を痛感しました。もっと要領の悪い僕でも留年しないように単位を取りやすくして下さい。
- ・教室環境が非常に悪い所があったのがとても残念でした。特に、4共30のスライド（「ランプをとりかえてください。」という文字が画面上にいつも出ていてスライドが見づらかった。）や4共11のステレオの調子が悪かったです。／ ・クラシスがとても使い勝手がよかったです。Web 履修登録は今までと違つて登録しやすく非常に良かったです。ただ、専門科目でも登録できないのが残念です。
- 文化人類学最高！！
- B群科目は難しいものが多く、授業についていくことがなかなかできずに、テスト前に一気に勉強するという感じになつてしまい残念です。／ クラス指定が多かつたので、クラスの人

と仲よくなれたのがよかったです。

●もっと楽しい授業をやってほしい。

●全体としては、全学共通科目ということで手を抜いてしまう傾向にありました。入学当初は、単位として認められない授業もとろうと、はりきっていましたが、実際は、試験の結果が取れるか否かのみの勝負のようになってしまった。2回生となった今は、昨年の今頃よりも、格段にやる気があります。授業数が減り、専門色が強くなり、勉強の方向性を絞りやすくなつたからだと思います。しかし、ふり返って考えると、話を聞くだけでもいいから、授業を色々と聞いてまわってもよかつたかなと思います。

●自然科学系科目（B群）では、特に数学や化学の講義で丁寧な説明がなされたため、高校時よりも数段、学問への関心や理解が深まったように感じています。しかし、物理については、（その講義ごとにも違うでしょうが）あらかじめ理解があるものとして講義が進んでいくため、何を説明しているのかという本質が分からず、教官に質問をしても説明をほとんど理解できませんでした。京大に入って、そんなことも分からないのかと言われればそれまでですが、1回生の授業（特に前期）から予備知識もないのに、発展的な内容をしそぎるのはその理解を中途半端なものにしてしまうのではないかと思う。数学や化学では、その説明が行われたために、満足しています。語学（C群）では、会話内容などを入れた授業であったので実践的な力がついたのではないかと思います。

●講義がおもしろくない。

●一般教養科目のA群は分野が豊富で面白い講義も結構あるのでよかったです。B群の一般教養で特に計算方法などを教える数学、物理科目は担当教官があまりにも学生の理解度を考慮しておらず、出席してもしなくても変わらないほど理解できなかつた。よって、数学や物理などの基礎計算は自学することにした。専門での基礎計算の方がしっかりと指導してくれているので一般教養科目における基礎計算力の指導方法が明らかに劣ることがわかる。あまりにも適当に感じられる。

●私は工学部で、カリキュラム上自分で選択できたのはA群科目だけだったが、単位を取れればいいという感覚で履修してしまったため、単位はそろつたが知識はあまり得られなかつたように思う。全学共通科目は自分から学ぼうとする姿勢でないと意味がなくなつてしまうと感じた。

●どの授業も出席が必要な、そして出席点のある授業にしてほしい。

●学生生活で、だらけて学校にあまり来なくなると思っていたのに意外とだらけなかつた。

●前期は幅広い知識を得ようといろいろな分野の授業を履修していたが、次第に興味の有無の差が激しくなつた気がする。／学問の幅には満足しているが、それぞれの難易の幅があまりない気がする。結局は高校でやつたことの発展（個人的には地理のこと）はとつてて楽しかつたが、そうでないもの（歴史、生物 etc.）についてはシラバスを読んでもとろうという気は起つこりにくく。初心者でもOKと銘打つた授業は人が多すぎるということが多々あった気

がする。

- 1年間単位は取れたが、あまり知識は身に付かなかったので、今度はもう少し日頃から学習に意欲を持って取り組みたいと思う。
- ・5時間目の授業への参加は正直言って辛い。／・化学実験室（2号館）が少々汚い。／・夏季のスポーツ実習に水泳を取り入れてほしい。京都の夏は地獄だ。
- 努力しなければ結果はついてこない。
- B群科目は熱心に授業をやってくれたり、レポート添削などもしっかりしている科目と、理解するスピードをはるかに超えたスピードで進み、授業中はわけがわからず、家に帰ってようやくわかったり（わからなかったり）する科目におおむね二分されたように感じた。後者は授業に出すに自習するのが得策と思われるが、自習を支援してくれるような情報（大まかな授業内容（シラバスよりは詳しいもの）や参考書等の情報）の提供をもっとしてもらえるとありがたかった。／A群はいろいろだが、リレー講義などではもっと講師間の打合せや意思疎通をはかり、より全体の内容が充実し、コンセプトがはっきりするように頑張ってほしいと思う科目もあった。／あと、おもしろそうな科目がクラス指定科目のためにとれなかつたりして、クラス指定が実にうつとおしかった。もう少し柔軟なシステムにならないだろうか。KULASISはどんどん便利になっていい感じですね。
- 大学の勉強は入学前に想像していたより難しかったが、大学で新たに得た友人たちと共に学習することで互いに学力を高め合うことができた。
- 教授が教壇に立っても、まったく静まらず授業が進まないことが何度かあったが、それに対して教授は何もせず、話を進めていた。
- 物理学実験についてですが、あれだけ大変なレポート提出が必要でありながら、2単位は少なすぎると思います。学生の平均的実学習時間に基づいた単位設計を行ってほしいものです。
- 大学に入学したときは嬉しくて、その安心感からか勉強に対する熱意が少し薄れていたよう思った。しかし、全体的に興味深い内容であった全学共通科目はその意欲を取り戻すのに大いに貢献してくれたと思う。これからも頑張って行きたいと思う。
- 教員は（特にA群で）自分の好きなように授業しているように感じられる。「自由」とはいうものの、学生の期待に応えるという最低限度の目標は持ってもらいたい。また、成績評価が甘く、ほとんどの学生が合格してしまっているという教科がある。それでは学生のためにならない。もう少し厳しくてもいいところもある。
- 理系科目はきちんと出席したが、あまり身についていない気がした。
- 好きな科目を選べたこと、そしてその選択の幅がとても広かつたことがとてもうれしかった。他大学ではこれほど選択の幅がなかったり、自由に選ぶ機会がないようです。京都大学に来てよかったですと思いました。もう一年がんばります。
- 単位に対するありがたみがまったくない。A群とか楽にとれるのが意味不明。テクニックで単位を持っていくやつは大学にいらんでしょう。まじめに勉強したやつが馬鹿を見ている気が

する。

- 全学共通科目は自分の好きな分野の知識を増やすことができてとても興味が持てる科目でした。僕の場合、具体的には環境問題的な講義をとっていたときは、毎回興味深く聞いていて、大学の講義の中で唯一といつてもいい楽しい講義でした。そういう科目だけでA群を全部埋められればよかったですけど、実際そんなに多くなくて、それほど興味ないものも取っていました。稼ぐといった感覚で。そういうふうに興味のない講義では、試験とか嫌でしたけど、環境系の講義はレポート課題が出ても楽しかったと思います。僕が楽しみにしていた環境系の講義は大人気だったので、こういう系の講義をもっと増やしてほしいと思います。人によって興味は様々だと思いますが、今ニーズは環境かと！

- A群は眠い。

- 全学共通科目というものが本当に意義があるのか、非常に疑問に思った。
- 一つの感想は学生はおおすぎて、やっぱり学生をもっと参加させる講義がいいと思います。
- 色々な講義に出ると、様々な分野で共通の話題が出てきて、学問のつながりを感じられておもしろかった。

○できる人はできるし、そうでない人はそうでないままなんかと思いました。

- とりあえずクラス指定が多すぎるから興味ある科目がとれなかつたのが残念。というか、教官によって難易度違いすぎです。クラス指定廃止しましょう。

- ・A群超つまんねー。専門、B群にもっと時間をさきたい。マジで時間のムダだったと思う。
／・C群、通年はやめて欲しい。嫌な教授にあたると1年間が苦痛で仕方がなかった。英語でスラングだらけの絶対に英語力のアップにつながらないであろうテキストを使用し、意味の分からぬところでキレ、授業中に下ネタ言うわ、テスト時間は短縮するわ、いつも授業には遅れてくるわの教官にあたり、ホントに苦痛だった。クラス指定って嫌な制度ですね。
／・もう1回書くけど、ホントにA群は理系のオレには必要なかつた。もっと興味のある数学、理科の授業もA群がなければもっととれたと思う。残念で仕方がない。／追記：東大の友人の時間割見たらA群とかほんの少ししかなくて、理系科目をたくさんとれていたので非常にうらやましく思った。

- 教授は講義をどう思っているのだろうか。そんなにやる気がないなら講義なんかやめればいいのにと感じる人がいた。逆にすごい熱心な人もいて、よく分からなくなつた。大学の単位というもの自体に疑問を感じるほどだ。難しくても仕方がないと思うが、学生から興味、やる気を奪ってしまう講義の存在は考えなければならないと思う。

- もっと学生側からの意見を取り入れて、学生が興味のあることに関する講義を開講してほしかった。例えば僕は入学当初、世間でフジテレビ、ニッポン放送とライブドアとの問題が大きな話題になっていたので、株式や企業経営、M&Aなどについての講義が受けたかった。そこで、経済学や経営学など関係のありそうな講義は一通り見て回ったが、どれもイマイチ求めているような内容ではなかつた。結局、自分で調べたりして勉強することになった。ど

ちらにしても自学自習というのは大前提で大切なことだと思うが、やはりそういう講義が開講されていれば嬉しかった。「教養科目」である限りは、こちらの興味をもっと反映した内容の講義があるとよいと思う。

- 同一科目でも先生によってレベルが違いすぎる。
- 当初はマジメに受講する気であったが、次第に楽勝科目のみを追い求めるようになった。だが、それでいいと思っている。反省はしていない。
- 専門外のことを勉強できて楽しかったです。
- 講義内容のおもしろさよりも、やはり教授自身がおもしろい講義の方が受けていて楽しかった。だから、学生とのコミュニケーションをもっと大事にしてほしい。
- 学部によって単位のとりやすさが違う。
- 学校はすいている方がよい。無理に出席させるよりも、いない方が、授業がよく聞こえるし、スムーズに進んでいく。4共30で監視カメラらしきものが設置されたが、プライバシーの侵害にあたるのでやめて欲しい。
- この1年で最も感じたことは、授業をただ受けるだけではなく、自分自身で学ぼうとしなければ何も身に付かないということ。このような環境の中にいるからこそ、自主的な学習の大切さをあらためて実感できたと思う。
- 学生の理解度を無視している。授業中の居眠りは学生の問題もあるが、わからない内容を聞き続けるのは無理です。
- 普通に勉強をしていても全くふれないような分野を知ることができたという点に関しては、とてもよかったです。自分の知識が少しは幅広くなったように思う。
- おもしろい授業はおもしろいのだが、つまらない授業は本当につまらなかった。
- 基本的には、つまらないものが多い。たまに、実用的なのは面白い。
- 自分は特に後期に学業をおろそかにしてしまい、講義に全く出席しなくなりました。期末試験前も全くといっていいほど勉強せずに、何とかなるだろうと思いテストに臨みました。しかし、単位がほとんどそれなかったです。しかし、自分と同じようにろくに講義も出ていない友人たちは自分が落とした授業の単位をとっていて、なぜ自分だけ落ちたのかと理不尽に思いやりどころのない怒りを覚えました。実際に担当教員のところまで文句を言いに行こうとしましたが、よくよく考えてみると自分の勉強不足に気づき、また、そのことに早い時期に気づけてよかったです。そして、四月からは履修している講義に全て出席するようになりました。つまり、この1年間で講義以上に大切なことが全学共通科目を通して学ぶことができました。
- B群の認定科目を増やしてほしい。
- 授業に出席することは大事。
- A群は単位のためにとっているような感じで、あまり興味深いものはなかった。
- 同じ科目でも教官によって差がありすぎると思う。

- はじめから難しいことばかりやるのではなく、基礎的な事が確実に身につくような授業が良い。
- 全学共通科目は自分にとってただ単位をとるだけのものと見なしてしまい、その学問の楽しさにはあまり触れることができなかつた。一般教養を学ぶことについてありかたを見直し、意識を向上していくべきである。
- A群科目に、特に自分の興味があるような授業がなかつたので、修得するのに苦労した。
- 様々な分野のほんのわずかな部分を見て、世界観が広がつたような気がした。でも眠たい授業が比較的多いような気もした。教授たちには、もっと自分の専門分野を、これでもかっというくらいに学生たちにアピールしてくれることを望みます。
- おもしろい授業とそうでない授業に二分された。おもしろい授業は興味深く聞き、課題もキチンとこなしたが、そうでない授業はただ淡々と聞くだけで、復習する気も起きなかつた。
- ・最初はA群科目を受けると、人間的に成長できるのでは、と思っていたが、全然そんなことはなかつた。／・ポケゼミ受けたかったのに抽選で落ちて受けられなかつた。抽選で落ちても違う科目が受けられるようにしてほしい。
- 大学の授業は分かる所は分かるし、分からぬ所は分からぬ。他大学の友人に聞いても同じです。大学の授業というのは、その科目的入門を紹介するものだとこの1年で感じました。実際、半年や1年である科目を完全にマスターすることは不可能です。だから、講義を通して概観をつかむんだと考えています。だから、いくら教員ががんばつても、全てを教えることはできないと思っています。講義を聞いて気になる所は無駄な話が多い教員、同じ事を延々と繰り返す教員がいることです。講義内容をもっと練つて下さい。／要望としては自由の学風を守りましょう。学生の理解度を考慮して、小テスト、レポートをやら出さないように。課題は必要ですが、多すぎる課題は自分の時間を減らします。学生のやりたい科目に時間を使えるように課題はそこそこにしといて下さい。まあ、学生の理解度を上げるために課題を増やすことが一番の近道だと思いますが、課題なんか自分で見つけてくれという感じで教務課は大きな態度をとつとけばいいと思います。
- ・最初は授業が分かりにくくて困つたが、教科書を読んで自習すれば理解できた。／・高校の頃はとりあえず暗記していた公式について、それを導く方法や原理について深く知ることができてよかったです。／・高校では習わないような奥深い講義が受けられて楽しかつた。
- まともに授業を受けて全教科優をとれるぐらいになるために勉強する時間がない。採点基準がはっきりしないので、何がどう不適切だったのかわからず、勉強の意味が薄れる。
- 入学当初はほとんどの授業がわかりにくく、不安だらけだったが、最近になってようやく自分で学習することの大切さと楽しさに気付いた。この春休みに、2年後期に履修予定の科目を自分で勉強したが、自分のペースで理解できるまで考えることができるので、楽しいと感じた。これから専門科目が増えてくるが、授業に頼り切るのではなく、自分で勉強するということを続けていこうと思う。

- 環境問題について考えさせられた。
 - A群科目に関しては、当初は自分が興味ある授業を取ろうと思っていたのだが、結局は単位を簡単に取れる科目を選んでしまった。しかし、B群科目は自分の専攻ということもあって、どれも為になったと思う。
 - 先生により、授業はおもしろくもあり、つまらなくもある。いくら興味の持てる分野でも先生のひとりよがりな授業ではまったくおもしろくなかった。逆にあまり興味を持っていない分野でも、うまく教えてくれれば、とても面白く感じる事ができた。
- パワーポイントによる授業は聞きにくいです。
- ポケゼミの授業では、高校の時とは全く違う方法で授業が進められて楽しかった。
 - 工学部に所属しているので、A群を軽視しがちだったと思う。それでも数多くある科目の中からどれを選ぶか考える中でいろいろ関心が持てるようになったのはよかったです。
 - 自分の将来に関わって来るであろうB群科目はある程度力を入れて受講することができましたが、A群科目については途中から熱意をなくしてしまうことが多かったです。必要とされること以外を学ぶのも大切なに、それをできなかつたのでいけなかつたです。
 - 様々な内容に触れることができて興味深いものが多かつたが、単位を取ることと興味ある授業をとることが時間割で不可能になっている場合があったのが残念だった。
 - 2回時もよろしくお願ひします。
- 冷房はきいていますが、冬になると暖房はきいていなくてとても寒かったです。（4共での授業。）
- 真剣に聞くと結構おもしろいものもあった。ただ、教科書そのままの人もいておもしろくなかった。
- 楽しい授業ならなんでもいい。例えば歴史系の場合、「昔話」として聞けたら楽しい。
 - 小学生の頃の友人と再会しました。
 - 簡単に単位が取れる授業があるということに惑わされ、いつの間にか単位がとれればよいと考えるようになってしまっていた。／また、自分の目標がはっきりしているためにかえって、その専門科目（建築）とのつながりがはっきりしない科目に対する意識が希薄になっていた。しかし、それは大きな間違いで本来自分にとって建築は、人間、世界を知るための手段であって目的ではない。すべてが建築のためにあるように考えたのが大きな間違いだったことに、この一年間の犠牲をもってはじめて強く認識したように思う。／これからは“勤勉”を再びキーワードにして日々を送りたい。
 - 特に全学共通は単位がとれればいい、というような気持ちになってしまい、眞の学習ができたか疑問だった。
 - 全学共通科目の特にA群科目は、専門の授業内容とあまり関係ないように見えますが、実際はこの一般教養というものが奥深い所でつながっていて、それを学ばなければ立派な人間として社会に貢献していくことはできないのではないかと感じました。

- 教授の自己満足による授業が多く、学生の目線に立って授業をしてほしい。般教は名前だけの授業が多い印象を受けた。
- 興味のある科目でも、学科で単位を認定してくれない科目があつて取れないのが不満だ。
- とてみたい授業があったが、専門の授業とかぶってしまいその授業をとることができなくて残念だった。また、人数制限があることを知らなかつたため取れなかつた授業もあつた。
- なかなか興味を持てる講義がなかつた。
- 「レポートのみで成績評価される全学共通科目はいわゆる楽勝科目である。」／A群科目は単位をとるだけなら特に勉強の必要はない感じた。
- やはり教員の熱意を感じる授業は受けている側にしてもおもしろかっただし、その分野に興味を持てた。
- ・必修のB群が難しい。勉強が大変だと思った。／・A群の一部の講義で、教員にやる気があるのかがわからなかつた。
- もともと興味のあった分野の授業は中身の濃い授業でより知識が深まってよかつた。けれどもともと興味のなかつた分野の授業を聞いて、新たに世界が開けるということはなかつた。こちら側の意欲に問題があるのかもしれないが、もう少し興味を触発するような授業をしてほしい。
- だめな講座は本当にだめでがんばってもさっぱりわからない。
- 同じ科目でも教官によって単位のとりやすさ、授業の進め方などが統一されていないのが結構驚いた。あと科目数が莫大な数あってどれを選択するか結構迷つた。あとは全体的に単位がとりやすすぎる気もする。
- 理系の科目が好きなので、B群の科目は高校よりさらに深いことを学べて純粹に楽しかつたがどうしてもあまり興味のないA群はテスト前の勉強などもしんどかつた。
- 思つていたよりも数学の知識をよく使うことに驚いた。
- B群などは、日々勉強する時間が無くて、テスト前に詰め込んでいたので、少しキツかつた。もう少し授業中に学ぶ姿勢が必要だつた。
- 教室に明らかに入りきらない人数が履修しているはずなのに、教室が変更されないのが、意味不明です。
- 教官と学生の間に温度差があつたりして、両方とも改善しなければならないと思う。
- 科学論の**先生の授業はとてもおもしろかったです。
- 興味の持てるものや考えさせられるものもあり、学生生活を充実させるために非常に役立つと思います。
- 全学共通科目は意外なところーとても予想だにできないようなーところで「つながつてゐる」と非常に強く実感した。／A群の**先生の「現代認識論入門」の中で、論理の種類の一つに帰納的論理があると教わり、その時**先生はニュートンの天体運動の話しを引き合いに出された。何日もの天体観測から出たデータを元にニュートンは一つの仮説を立てた。ある

日までの天体の運動が正しかったからといって、その次の日のそれまで正しいとは言い切れないのだが、それでもニュートンの行ったこの仮説は論理的に妥当と言える、そういう観点が僕にとっては目からウロコであった。科学のスタンスを改めて認識した。／かたや、B群の※※先生の「微分積分学」の中で、※※先生もニュートンの天体運動の話をされた。ケプラー方程式 $\theta - h \sin \theta = 2 \pi t / T$ を解くためにニュートンの出したアイデアは、この式を満たす θ_0 を勝手に取ってきて、それを元に $\theta_1 = h \sin \theta_0 + a \rightarrow \theta_2 = h \sin \theta_1 + a \rightarrow \dots$ とすれば数列 { θ_n } が得られるということだ。／もし僕が※※先生の講義しか受けていなかったとしたら、「 θ_0 という数を勝手に取ってやる方法なんて認められるのか？」と疑問に思つただろう。しかし、＊＊先生の講義で、これは同じニュートンが好んで使った帰納的論理の一環であるとして納得できた。／また、逆に＊＊先生の講義しか受けていなかったら、ニュートンの天体運動の話も「ふーん」で終わっていて、帰納的論理も解釈の薄いままで終わつただろう。／一つの学問的事柄には人文科学的側面と自然科学的側面がある・・・というセリフは月並みでウソくさく、疑つてかかっていた僕だったが、両先生の話を聞いた後は、誠に言い得て妙なりな言葉と感じずにはいられなくなった。きっとこれが大学当局が口をすっぱくして言う全学教育（リベラルアーツ）の重要性なんだろうと今僕は考えている。

○授業にもっと熱意を持って欲しい。／学生同士と交流したいです。

○それぞれの分野の専門家である教授陣の話を聞いて視野が広くなりました。しかし、自分の興味のみで専門用語をたくさん使い、流れの分からぬまま話を延々とされるとウンザリする時もありました。

●＊＊先生の日本語上級は本当に良かったと思います。

●工学部の B 群の選択範囲が狭すぎます。理系科目で、自分の専門外のものも履修できたら、もっと深く自分の専門のことも分かると思います。

●要は本人の熱意次第だと実感した1年でした。

●数学系の科目は、理学部向けのクラスと、工学部向けのクラスに分かれています、テストの出題の仕方が違うことにより、評価基準が異なるように設定されているようですが、普段の講義は工学部向けのクラスでも定理の論証を中心として構成されているように感じました。もう少し演習を増やしてもらえたなら、と思います。

●本当に講義内容を理解しているかわからないような輩が単位をとっている。改善すべきだ！

●あまりにも種類が多くすぎて、一つ一つの授業に集中できなかつた。1週間に同じ授業は数回あってほしい。授業を受ける、受けないに関わらず、自分で勉強しないと身に付かない。そうすると、授業が多すぎると、出れない授業や、手を抜いてしまうことになる。

●A 群にあまりおもしろさを感じなかつた。／先生にしては当たり前かもしれないが、こちらにとっては、よくわからない事も多い。ただの教授の自己満足なのか？という感じだった。それとも授業なんてしたくないのか？という風だった。／B 群も、C 群も、物工コース分けでは重要なもののなのに、成績評価、試験難易度がバラバラで不公平さを感じた。こっちにと

っては、コース分けは、将来の道筋が決まってしまうぐらい、大事な事なのに、その辺をもっときちんと考えてほしい。

- A群科目で自分に合う科目を見つけるのが難しかった。
- 授業環境に不満を感じる事が多かった。具体的には、教室に人がいっぱい座れない時があったり、座れても後ろの席と前の席との高低差がなく、後ろからでは黒板が見えにくかったり、教員が広い教室にもかかわらず、マイクを使わなかったりと。／欲を言えば休講情報は自分で調べて把握するよりも、自動的に分かることが出来れば（例えば、メールが届いたり等）便利だと思う。
- 全学共通科目は基礎教養を得るためのものだというが、この一年間費やした時間に対して得られたものが少ないように感じる。基礎教養を軽視しているわけではないが、1回生のうちから専門科目のコマ数を増やして欲しい。
- とても疲れました。
- 現在、全学共通科目を受けるとき、単位の取りやすいと言われる科目に人気が集中しすぎていると思う。そういうたった科目が人気になるのではなく、生徒自身が本当に面白い、自分のためになる科目があればいいと思う。せっかく、いい大学に入学できているのだから、もっと有意義に過ごさなければならない。
- 京都大学の全学共通科目は、教える内容や成績評価の方法が（おそらく）他の大学以上に教員に任せられているのではないかと思う。そのため、先生によっては、ご自分の専門分野のことを、いきなりお話になるので、ほとんど理解できない、という講義もいくつかはあった。そういうたった意味では、改善できる部分もあるのかもしれないが、何より大事なのは、学生側の、自ら勉強し、理解しようとする姿勢だと思う。／何がいいたいのか、よくわからなくてすいません。
- 実験の授業が2コマ連続なのに単位数が2というのはおかしい。（家でレポートにかなりの時間を費やしているのに・・・）／教官によって、同じ授業でも内容に大きく差があることがあるようだ。（他のクラスの友人と話しているとそう感じるときがある）／物理工学科の成績表には、点数が表示されないが、表示してほしい。
- 1年間終わった後にふりかえってみると、ある程度課題を出す教官の方が自分の理解は深まったと思う。
- 同じ名前の科目でも、教官によって価値が全く異なる。
- 自分の所属する学部では単位が認められない講義に興味がもてる科目が多かったです。なので単位をしっかりととて余裕がないと、そのような科目に手が出せなかつたので、残念でした。
- つまらない授業が多すぎです。
 - すごくおもしろかったです。／ずっとパンキューがいいです。
 - テスト範囲が広いので、対策に困った。／指定の問題集があればうれしい。

- 授業に関心を持て、積極的に勉強できる授業に共通して言えるものは、教官が学生の理解度を考え、より分かりやすい説明を心がけようとする熱意を持っていたというものだ。逆に授業に不満を持ったものは、教官が自分の言いたいことだけを言い、学生の理解度を考えずに進める一人よがりの授業だったということだ。確かに勉強する我々学生側にも、わからないことを自分で補うだとか、という努力をする責任はある。しかし、教える側も、学生に理解させるという責任をある程度負っているということを自覚してほしい。
- 解説プリントや練習問題がほしい。／1回授業を休んでしまうと次回からまったく意味がわからなくなって、ずっと欠席するというパターンが多かった。テスト前の猛勉強でのり切った。
- 高校までと違い、自分で考えていく、暗記頼みでは苦しい科目が多かった。／A群科目は地理がもともと好きな自分にとって、知的好奇心をくすぐる科目があった。／B群科目は専門科目の理解のための準備段階と思って頑張れたと思う。／一年間、専門での自分の進路、将来のコースなどを悩んでいたが、だんだんと将来の方向性を導き出せていると思う。
- 地理のゼミが非常に興味深く、いい経験ができた。自分の興味のある講義が、クラス指定科目との重複によって選択できなかつたことは残念だった。
- 思っていた授業内容と実際の授業内容で違いが大きかつたことがあった。
- A群は、とにかく授業を聞いていれば、試験前の勉強は少なくて大丈夫。B群は先生によつて異なり、教え方のうまく、適宜演習を取り入れてくれるような授業はあまり苦労はないが、授業を一方的に行い、成績を期間内試験のみで付ける先生は授業外の復習でしっかり理解を深めないと期末が厳しい。／一番言っておきたいことは、C群についてです。1回生の語学は通年なので単位を落とすと2回生でとても苦労するので、できるだけ日頃の努力が報われる成績評価にしてもらいたいです。
- 大学での勉強に慣れるいいきっかけになったと思います。全学共通科目で学んだことを基礎にしてこれからも勉強にはげみたいと思います。
- 興味のある授業が少なかつた。
- A群とB群の単位のとりにくさのギャップ。A群は楽すぎる科目が多い気がする。
 - 全学共通科目では、専門と違つて幅広い知識を学ぶことができて良かったです。
- 楽勝科目といわれる科目においてはやる気が出ず、あまり知識は身につかなかつた。
- 「当たり」の授業と「外れ」の授業の差が大きすぎる。／理解できない授業はさっぱりついで行けず、努力しようという意欲が無くなるほどだった。
- 部活動との両立でとても苦労しました。／特にスキー部に所属しているため、シーズンには長期に合宿に入るため、授業にはなかなか参加できなくなり、合宿先で補うよう学習はしているものの、授業担当の教員からは、なかなか理解してもらえず、出席点やレポート課題でとても苦心しました。
- 授業によって、先生によって全然内容が異なるのが嫌だった。

- 素晴らしい教官と、そうでない方との差が大きすぎる。／不公平である。
- 個人的に期待していた哲学系の授業が割と少なく、また、難しすぎるものばかりでしたが、興味のある環境にスポットを当てた講義が多く、教員の方の個性もよく出ていて、とてもおもしろかったです。
- 理系教官のほとんどが、生徒の理解をまったく考慮していなかった。
- 高校までの授業と違い、レポート試験が多いことに苦労しました。しかし、その分だけ力を付けることができたと思います。
- あまりまじめに受講したとは、とてもいえませんが、とくに A 群科目などは、教養として、知識としてというにはとっつきにくく感じられます。それはこちらの意欲や、行動が解決するものとも思いますが、どうしても単位をとれればよいということになってしまいます。／私が理系だからかもしれません、単純に B 群科目についてはしっかり勉強すれば、充実感が大きく得られました。
- 教授にもいろんな人がいて、学生に気を使ってくれる方もいれば、ただ仕事としてこなす方もいるんだなと感じました。／数値の評価方法、世論に対する批判など面白いと思ったのも多々あった。
- 興味がありとてみたいと思う科目がたまたま専門科目の時間と重なっていてとれなかったり、どうしても不都合な時間でとれなかつたりしたことがあったので、できれば同じ授業の開講数をもっと増やして欲しい。同じ内容の授業でなくても、同じ先生の授業を、別の曜日や時間帯にももっととれるようにして欲しい。
- 単位が中途半端にとりにくい（やすい）。
- D 群：スポーツ実習の中で決められた曜日の内今より多くの種類の競技ができるようになれば良いと思う。／例えばスポーツ実習 I A ・ I B ともに火 2 限ではバスケットボールができなかった。
- 単位が降ってくると言われる京大であるが、いくつか落としたとは言えやはりそのようなイメージを証明するような結果になったと思います。しかし、全学共通科目は必修である科目を除き、単位認定は甘くしてしかるべきだと思う。もちろん自分の責任で選択した教科は自分できちんと勉強すべきではあるだろう。けど、他の専門教科の負担になってはいけないと思う。出席、授業内での小テストを重視した成績評価にしていくのが良いと思いますね。
- 教官の指導内容と学生の理解度に大きな差があると感じる講義がいくつもあった。
- 一般教養科目として、幅広い知識がつくような授業があると期待していたが、実際は専門的なことばかりで授業内容がかなり難しかったと思う。特に A 群は興味をもって選択したものが、授業を受けてみると難しくて正直つまらないものが多かった。B 群は数学的なものなどである程度内容が難しいのはしょうがないと思うが、教官の熱意があまり感じられないものがあった。／でも C 群は、英語はなかなかレベルが高く、今後役に立ちそうなものだったし、第 2 外国語（イタリア語）もわかりやすい授業で興味が深まったので、満足できたと思う。

／KUINEPの授業は、外国人とふれあう機会を持てたので、本当にとってよかったと思う。

●1限に出席するのが相当きつかったです。家から2時間かけて通学しているから。物理学実験はレポートを書くのが本当に難しかったです。このせいで私の勉強に関する学生生活が破綻してしまったのではないかと思うくらいでした。本当に本腰入れて勉強しないといけないことを実感した一年でした。

○個人の問題だが、あまりに授業中うるさい人が多すぎる。

●B群の科目はこれから学ぶ専門科目になくてはならないものであると思った。

●基本的には授業の内容は興味が持てるものだったと思います。あえて言うとすれば、校舎によって教室環境が悪くなるのはどうかと思います。

●通年科目は不要だと感じた。(前期、後期に分けてはいけないのだろうか) 1回生向けの面白そうな講義をいくつか見つけたが、それらは全て増加単位となる科目で、それだけならまだしもクラス指定の科目に重なってしまう為に受講すらできなかつた。もう少し科目の選択を自由にしたかった。

●ほとんど勉強していなかつたにも関わらず、単位がたくさんとれてしまった。本当にその授業で扱った内容を理解していないと単位が認定されないような成績評価の方法でないと今の学生は勉強しないと思う。

●単位を落としてしまつたのもありましたが、結果的には様々な授業がとれたのでよかつたと思っています。

●勉強についていくのが大変だった。むしろ、ほとんどついていけなかつたと思う。抽象的な理論ばかりでついていけなかつた。今後、理屈を理解するために、具体的な数値の計算で慣れようと思う。

●難しすぎるのと楽すぎるのの間にある差が激しい。

●広範囲の学問をカバーする全学共通科目は必要だと思う。

●全学共通科目の実用性があまりないように思えた。

●理系に所属する自分にとってA群がしんどかった。B群については、演習問題をWEBに乗せてくれたりすると有難い。

●特にA群科目で、内容に工夫がなく退屈だった。スペイン語では学生とコミュニケーションを取りながら授業を進めていこうという熱意が感じられた。

●僕は理系ですが、A群の科目を受けていて面白いと感じることもありました。幅広く学ぶのもいいことだと思いました。／一方、B群では理解度を考慮せず進んでしまうことも多かつたと思います。レポート課題を提出しても○×しかつけないで返却される場合もありました。レポートを提出させたら、それに対して「△△ができていない人が多かつた」程度のことでも言ってくれると学生側は勉強しやすいし、教える側も考え方の改善策を考えるきっかけになると思います。／全学共通科目の情報はKULASISで見られて非常に便利ですが、各学部・

学科の情報（掲示、専門科目の休講、補講、試験）も KULASIS 等で見られるようになるとさらに便利だと思います。／全学共通科目のことではありませんが、専門科目についてもこのようなアンケートを実施して学生の意見を取り入れていったら良いと思います。

○最初の頃はかなりやる気もあったのだが、19 コマ／週というのが予想以上に大変だったり、勉強についていけなくなったり、授業のつまらなさ（特に A 群）にがっかりしたりして途中からやる気をなくしてしまったことが悔やまれる。

●工学部については、指定科目の枠をもっと柔軟にしてほしいと感じた。「○単位までは指定科目から、△単位以上をそれ以外から」といったようにしてもらいたい。／また、出席をとるならば「出席点」なるものをより明快かつ確実に扱ってもらいたい。現状では、一体どれほど点数に加味されているのかが不明瞭である。

●自分が受講したい科目を選ぶということが大学に入学して初めてのことだったので、新鮮でした。自分の興味をもった科目がほとんどだったので新鮮でした。自分の興味をもった科目がほとんどだったので、大体の授業は楽しかった。

●私は理系学部の学生ですが、A 群科目や外国語科目を受講して自分の視野が広がったように思います。特に初修外国語は非常に有益だと思いました。

●将来先行き不安。

●広すぎる教室は辛い。

●3 つのクラスがクラス指定になっている科目は、常にいっぱいです。改善してほしいです。／「合成及び測定実験」をなくすという予告がほしかったです。

●授業が為になるかならないかはすべて教官次第だ。良い教官も多数いたが、教える気のない教官、自己満足の教官が多い。大学の授業はこういうものだ、といった昔自分が受けている授業のイメージばかりで、わかりやすく、興味深く教えるといった意識が全くない人もいた。簡単なことを無理してやる必要など無いと思うが、難しくてもわかりやすく教えることは、授業をする者として当然ではないか。1 年を通じてこのような不満を持つことが多かった。／また、成績評価も教官によってバラバラで、同じ名前の授業でも教官次第で成績が決まるといつても過言ではない。その成績が専門でのコース分けや将来にまで残るというのに、クラスによって基準が違い、またクラス指定などのシステムにより自由に教官を選べないなど問題点が多い。海外留学などでは日頃の成績が重要だが、教官にそういった意識があるのかは疑問である。／1 年間で特に感じた不満は上記の 2 つである。学生が授業・勉強に対して意欲を持ってやるのは当然だが、上記のような 2 点は意欲を下げることもあると思う。是非何らかの改善を希望する。

●受講する教室環境に対して大いに不満があります。大多数収容可能な大教室において室温が大幅に上昇し、集中力が欠けたことが多い。

●冷暖房の温度設定がおかしい。／「冷房 28°C、暖房 20°C」と書いておくのはいいが、コントローラーの上 1ヶ所だけではあまり効果がないのではないか。せめて 3ヶ所。夏暑くとも、

また冬寒くてもいいじゃん。こっちはそのつもりで服を選んでるんだから。／外国語予備登録制度の存在理由を教えてほしい。／授業の雰囲気などは実際参加しなければわからない。それなしに紹介文だけで選ぶのは少ししんどい。予備登録をしなければならない理由が分かれば納得できるのだが。

- 自分の動機付けがしっかりしていないと、何かを学び、吸収することはうまくいかないので、自分をうまくコントロールすることが重要だと感じた。
- B群、C群の内容はよいと思うのだが、A群の授業内容が、自分が受講した範囲ではあるが、中途半端であったような気がする。専門分野に入っているようで入っていないというか、一般教養なのだから広く浅い知識を身につける講義があつてもいいと思う。例えば高校で日本史、世界史を学んでいない人のため（理系向）に高校レベルの知識を習得できる歴史の授業などをしてほしい。
- そもそも全学共通とは一般教養をつけるために設置されているものであるのに、B群は指定されたものしかとれないのはおかしいと思います。単位を取れた人が必ずしも理解度が高いとは感じない。授業に出席しない人（特にA群）に単位認定を行うのは間違っていると思う。出席をごまかす人、授業の秩序を乱す人が多い。
- 結構面白かった。
- 本当に時々だが、学生に教える気があるのかというくらい授業が雑な教授がいる。おもしろそうな授業をとっても本当におもしろいと思える授業は一つもなかった。
- 少人数のゼミみたいなのを増やしてほしい。そして2回生以上でもとれるようにしてほしい。
- 熱意を持って授業をやってくださる先生の授業のほうがやはり意欲がわきます。逆にいい加減にやってると感じる先生の授業では、やりたくないなら何冊か本を指定して、何ページから何ページまで良く読んでおくようにと指示してくれれば自分で勉強するから、そうしてくれと思ってしまいます。
- A群の授業の中に、テストの内容が授業のほんの一部からしか出題されていないものがあつて、毎回授業に出ている人にとっては不公平だと思った。／B群の授業は全般的にわかりにくく、自学した方が効率のいいものもあった。／語学の授業はよかったです。
- 歴史が好きなのでA群は歴史の講義を中心に受講しましたが、割りにおもしろく、興味深いものが多くて楽しかったです。B群は教員による差が大きいと思います。（特に授業の難易度。）理系のクラス指定の場合にはできれば所属学部に沿った講義内容であると嬉しいです。（工学部の授業で理論色が強くてもしんどい。）／色々ありましたが、無事に単位を取得できたので良かったです。自主的に勉強するようにもある程度はなりましたし。
- 語学だけセメスター制が採用されず、また単位も半分しかない理由がわかりません。語学が苦手な私にとってははっきり言って最悪のシステムです。妥当な理由があれば別ですが、現在のように説明がない状況はかなり不満です。また、全学共通科目と専門科目が完全に分離され、履修登録を2回しないといけないのは不備としか言えないのではないかでしょうか。別

のところが管理しているのはわかりますが、まとめて履修登録ができるようにすることぐらいはできないのでしょうか。それと、KULASIS は確かに便利なのですが、アップが遅いことを改善してほしいです。

- ・クラス指定の入れ方をもっと工夫してほしかったです。同じ日に1限と4限に入っていたりしたので、その間にに入るしかなくなり、週のコマ数が大変なことになっていました。／・今期の予備登録なのですが、クラス指定を web にのせるとか、専門科目との連携をしてください。登録期間、外国に行っていたのですが、web 登録できると安心していたのですが、(勿論 web 登録できなかつたらもっと困っていたはずなのでありがたいですが) クラス指定や専門の時間が分からなくて適当に登録するしかありませんでした。案の定、両方とも専門とクラス指定に重なっていました。これは是非改善していただきたい所です。
- 情けないことですが、授業中にしゃべるばかりで、周囲に迷惑をかける人が意外にも多いので驚きました。当人にも自覚をもってほしいですが、とりあえず迷惑なので先生方も注意していただきたいです。

7. 10 農学部

- 様々な内容の授業があり、(特にA群) 関心がもとからある分野はおもしろかったが、最初から関心がなかったものは結局関心をもてなかつた。授業内容の持つ魅力を宣教師たる講師はきちんと伝える工夫や努力がもっと必要だと思う。
- やる気のない学生をなんとかしようよ。フィールドワークとかもしたいよ。伝統を伝統として扱わなかつたらそれはすでに「遺物」であつて伝統とは呼べません。“自由”はいいけど“放任”はまずいのではないの？
- パワーポイント使用の授業ばかりでノートがかなり取りにくい。
 - 全学共通科目は受講しても自分の将来がみえてこず、また興味ももてず常に悩んでいました。
 - 専門外のこと学べ、楽しかったです。また、将来の研究分野探しの糸口も見つかりました。受講してよかったです。
 - 全学共通科目では、専門以外の幅広い分野の勉強ができる機会に恵まれたが、自分がどれだけ学ぼうとするかどうかが、結局のところ重要だったのだということを痛感させられた。／また、レポートを書く機会も多かつたが、自分の意見の希薄さが情けなかつた。
 - 勉強できない子になった。まず机に長時間向かえない。なのに京大受かったから実はできる子やと思おうとしている。自分に甘い。／解決策として、TOEIC の勉強をはじめた。点数で今の能力が表れて現実がわかりそう。
- 奥深くまでは勉強できなかつたが、幅広く知識を得られてよかったです。
- 入学した当初のアンケートを見てもわかるが、そのころの初々しい大きな期待は今ではしぶみかけているように思います。幅広い教養を身につけるという点では少しは期待どおりかもしれないが、教員との交流がなく、教員の一方的な講義ばかりだった。質問しても答えてく

れない教員もいたし、学生の理解度をまるっきり考慮せず、勝手に話すだけの教員もいた。そのようなこともあるからか、学生は授業に出席せずに単位だけをもらい、あまり学生にとって勉強になっていないようにも感じた。しかし、そんな中でも興味深い授業もあったし、やはり教員と学生の双方の意識の向上が求められるのではないかと思います。

- 前半は授業、サークルでてんやわんやで自分の処理能力が追いつかない感じでした。しかし、後期は逆にその分自由な時間を増やし、一部授業をけずっていた気がします。
- ・同じ科目でも、先生によって講義内容や授業の進め方、成績評価の仕方が全く違うことに驚きました。／・教職を取るために、苦手な物理系の科目をたくさん受講したため苦しかった。また、A群を多く受講したかったが、教職に必要な科目の受講に忙しくできなかった。
／・理解できていないのに、評価が「優」の授業がありとまどった。
- 上記にも書いた通り、もっと変な授業があつてもいいと思う。3回しか授業しない先生、「優」しかつけない先生、サイコロで成績をつける先生、など・・・。私は、そこにあこがれて京都大学に来たのだから・・・。／今のままでは、間違いなく京大は、つぶれる。だって、何もいいとこないじゃない。これなら東大行くって・・・。
- 大学においてそれぞれ専門の科目を研究している先生がたくさんおられ、その先生方からその専門のほんのさわりだけを学習するということも貴重なことであり、さらにそれを理解するのは難しいことだと感じました。
- 期待していなかった割には面白い授業多かった。
- 教職を取るうえで必要な科目をもっと多く開講してほしい。開講が週に1回だと専門科目やC群科目と重なることが多くなって受講できないことが多かったから。
- 学生のレベルを理解しないで授業をすすめる先生が多い。(理系)
- 英語Iの授業を自由に選べるようにしてほしい。「やらされてる感」を感じてしまい、全くおもしろくなかった。／取りたい授業がかぶることが多かった。2, 3限だけにこだわらず、4, 5, 6限にも魅力的な授業がもっと多くあるとよかったです。
- 本当にたくさんの科目が開講されていて、いろいろ選べて楽しかったです。自分の興味にあったことを深く知ることができ、ますます興味が深まりました。ただ、専門科目との兼ね合いもあり、本当に学びたいと思う科目が学べず残念です。学びたいと思えるA群がなかなかとれず、卒業のために単位の数をそろえようととった科目は、やっぱり身を入れて聴けませんでした。(成績も悪かったです。) せっかくだから、専門科目の合間にぬって全学共通科目もとりたいです。
- 専門・必修科目と受けたい般教が、しばしばかぶってしまい思い通りの時間割が組めなかつた。解決策として熱意ある授業が2, 3限に集中していた気がしたので、1限を推奨してはどうでしょうか。
- できれば専門科目の時間割やお知らせ等にもKULASISのようなシステムを導入して下さるとありがたいです。

- 授業を受けるだけでは身につかない。自らその分野の勉強を進んでやらないといけないと思った。
- いつも途中であまり行かなくなるので今期はがんばりたい。／この時期は人が多すぎて行く気が失せる。なんとかしてほしい。
- 教員の授業の進め方、説明の仕方がへた。板書をひたすら写すだけの授業ならレジュメを配ればすむ。事実をひたすら列挙するだけの授業はおもしろみがない。／教科書を丸暗記しなければ解けない英語のテストは英語力は関係ない。／熱意のない授業をするのならば出席率を成績に加算するべきではない。／大学は自分で勉強する所であり、講義は参考程度のものだと思うが、もっと楽しい授業を期待したい。
- 全学共通科目では、理系の私でも政治や歴史の勉強ができたり、やる気次第でどんな科目でも（自分の専門外でも）勉強できるところが良いと思う。／専門だけをやっていると、視野が狭くなると思うし、一見関係なさそうな知識でも、間接的には役立つこともあるだろう。将来必要になったとき、少しでもやっていると身につき方が違うだろうし、また、特にゼミなどでは、学部のゼミとは違って、様々な学部の人がいるのでいろんな視点での意見が聞けるのも良いことだと思う。／大学での勉強は、自分で選択し、学ばなければならないのが難しい。
- 時間はたくさんあるのに勉強に使う時間が少なすぎたかなあと反省しています。学生の間にいろんなことを吸収したいと思います。
- パワーポイントを使った授業は、あまり見えず分かりにくいものが多かった。／理系科目の先生に、「一方通行の講義」が目立つ人がいた。
- とりあえず、1年目は必要単位を集めることしか考えていませんでした。2回生からは好きな授業を取るつもりです。
- 1年間、全学共通科目を受講して幅広い知識や教養を身につけることができ、さまざまな学問の分野に興味を持ち、充実した学習をすることができました。
- ・リレー講義のほうが、たくさんの先生方の話が聞けるので楽しかった。／・「やむをえない病気のための追試の許可」が、インフルエンザなどの身体的な病気だけでなく、うつ状態などの気分障害の場合も適用されるのかどうか明確にして欲しい。自分は後期試験期間中に、急性の精神病を発病してしまったが、担当の教官方に直接追試の許可を申請することができず、単位をかなり落としてしまった。／・教官と生徒の間を埋める一つの手段として、すべての教官に正しく精神病理についての理解をして戴きたい。／・一年間経ってようやく少し程は京大の掲げる「自由」の意味を理解した気がします。もう一度1回生からやり直したい気分です。寧ろ総合人間学部に転学部して留年したいくらいです。三回生になったら専門の講義ばかりになってしまふのが寂しいです。二回生の間に全学共通と専門の講義内容を上手にリレーできるように、できる限り全力で勉学にサークルにも取り組んでいこうと思います。
- 僕は勉強がしたくて大学に入りました。しかし、簡潔に言ってしまえば、大学に抱いていた

理想が大きすぎたという感じです。もちろん「授業に期待せず自ら勉強せよ」と公言なさる先生方も多くいて、確かにそうなのかも知れないと思い、自分の努力不足とも考えます。ただ、楽勝科目ばかりを探したり、試験の時だけ人数が倍増したり、このような風潮は大学の在り方として少し寂しいような気もします。

○今まで知らなかつたことをたくさん知ることができ、学問に対する視野が広がったと思う。

●授業という形で勉強することが、強制されなければこんなにも難しいということを実感した。自分は勉強するためにわざわざ京大まで来ているのに一体何をしているんだ、という自問ばかりが頭をかけめぐり、その答えを実行に移すことをしない。無駄であるはずであるんだが、一方で何かを得たような気もする。とても不思議な一年間だった。

○全学共通科目は、その内容が非常に多岐にわたっていて、それは京都大学の魅力にもつながっていると思うので、これからも今の充実度を保ってほしいと思います。／他大学の友人の話を聞いていると、ここまで学生に講義を選ぶ自由が与えられている学校はなかなかないと思いました。／要望なのですが、昨年度も今年度もクラス指定科目と学部専門科目がかぶっているコマがありました。（昨年度は月2回の基礎情報処理と農学概論、今年度は火曜の微分積分学と森林科学実習）どちらを選ぶかは学生の責任と言われればそれまでですが、農学部森林科学科では、専門科目が一回生時は週3コマ、2回生時は火曜5コマだけです。もし移動できるようなら、調整していただきたいと思いました。

●授業の板書やプリントだけを覚えればいい授業が多く、自学自習を促す授業が少ないので残念に思う。また、出席を取る科目が多く、これも京大の伝統、いやそもそも大学の基本である自学自習を損ねていると思う。／その他、語学のクラス指定等でとりたかった授業がとれなかつたことがよくあったので、1回生の語学等も自分で選べるようにした方がいいと思う。

●試験で60～69は可で、とかは分かるけど、自分ではけっこうできたと思ったやつでも可たりして、（まあ本当に点は低かったんだろうけど）どこがまちがっていたのか答案が返してもらえたなら、点が良くなかったりした授業でも単位にはならなくともその授業をより自分の学業の糧にできるのに、とは思いました。がんばったはずなのに語学で不可をもらった人とか、やっぱり納得できる説明がほしくもなりましょうし。

○全体的に言うと楽しかったです。

●様々な分野が学べてよかったです。音楽の楽典を学ぶ授業があればよいと思った。

○〔2回生の外国語予備登録について〕／これは私の周りでも多くの人が言っています。予備登録の日程について。自分の専門科目と重なっていたり、他に取りたい科目が同時にあります。シラバスの配付、学部ガイダンスは大体、予備登録の後にあるからです。必修の専門と重なっていたことを訴えても「語学優先」と言われてとりつく島もない人も見ました。（修正期間後ですが、修正期間も4／5、6と早い。）今のシステムは不具合が多すぎます。予備登録の日程は早すぎるということを意見させていただきます。改善を

ぜひお願ひします。

- 京都大学の設備の良さは一種の落とし穴である。自分に厳しくできない者はどんどん落ちぶれてしまう。自分もその一人である。自分にもっと厳しくありたい。
- 一般教養レベルのものから専門の基礎以上のレベルのものまで様々な講義が揃っており、調整期間の重要性を痛感した。
- もう2回生になった私。1年間全学共通科目を受講した。楽しかった1年でした。自分が好きな科目を選んで自由に勉強した。2回生になって、授業が少なかった。専門が4コマしかない。1回生の時の充実した生活を思い出し、楽しい1年間だったと思う。
- 全学共通科目はおもしろかった。／ポケゼミの申込で第3希望まで全て外れてしまったので、1回生しか受けられないポケゼミをとることができず、非常に残念だった。周りにもそういう人が何人もいたので、もっと科目を増やしたり、希望を第5希望まで取るなど工夫してほしい。学部の科目と全学共通科目の必須科目と同じ時間にできるだけ入れないでほしい。
- 高校時代と比べてはるかに多くの分野を学ぶことができ、非常に有意義でした。また、昔は嫌いだった古典も友達に誘われて一緒にとった講義のおかげでとても好きになりました。／来年度も様々な科目をとって、自分の見識を広めたいと思います。
- A群は抽象的な内容が多いので教員によるところが大きい。具体例やユーモアを取り入れて工夫しなければなかなか学生の興味を引き出せない。
- B群の教授は自己満足の授業が多すぎる。

8.まとめ

8.1 統計的結果について

平成18年度2回生進級時アンケートの結果は以上である。まず、統計的結果（自由記述以外の部分）についていえば、「はじめに」でも述べたように、前回の平成17年度2回生進級時アンケートの結果と顕著な差はみられなかった。したがってこれらの結果は、統計的には、現在の京都大学の学部学生が1回生時に受けた教育に対して抱く意見をほぼ代表しているとみて差し支えないであろう。

これらの結果の中でもとりわけ重視されるべきは、5.1でみた「全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか」という設問への回答であり、「実現されなかった」(8%)「どちらかといえば実現されなかった」(33%)があわせて全回答者の4割強存在するという事実は、かなり重く受け止めざるをえない。

一方、6.1でみた「今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか」という設問への回答では、「学生の関心により対応した内容」が最も多く、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」「授業の進め方の工夫」「成績評価の基準・方法を明確に」の順となっていた。これらの項目は、4.1、4.2でみたように、「とくに満足した科目」に「満足した」理由、および「とくに不満だった科目」が「不満だった」理由としても多く挙げられており、現在の学生が全学共通教育に対して抱いている期待と不満の内容を反映しているともいえよう。

なお、とくに成績評価に関しては、3.1、3.2でみたように、「全体として、自分の成績評価に納得していますか」という設問に対し、全回答者の15%が「納得できない」または「どちらかといえば納得できない」と答えており、その理由としては「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかった」が最も多くあがっている（全回答者の9%）。このように、成績評価に関する強い不満を抱く学生が一定数存在するという事実も無視できない。

以上のように、1回生時の全学共通教育に対して失望や不満を抱いた学生が少なからず存在する一方で、2.1でみたように、2回生進級時点での学習意欲が1年前の入学時とほぼ同じレベルにまで再び高まっているという結果は一つの「救い」でもある。彼ら・彼女らの学習意欲に応えていくためにも、本調査の結果を、今後の全学共通教育の改善に生かしていく道を探る必要があろう。

8.2 自由記述について

自由記述の内容は、7で紹介したように非常に多岐にわたる。しかしその中でもとりわけ注目されるのは、下記のように、きわめて対照的な意見が存在していることである。すなわち、

○授業内容がとても興味深く、毎回の授業が楽しみなものもいくつかあった。いずれの科目で

も、自分から積極的に学ぼうとする姿勢がなければ何も得られないと感じた。【文】

- 京都大学の全学共通科目は期待していた以上に素晴らしいものでした。……今後「専門」という、ある意味狭いところに入っていくわけですが、その前に『学術的に広い世界』に触れられたことは、これから的人生に非常に役立つだろうと思います。【医】

といった非常に肯定的な記述がある一方で、他方では、

- 語学と一部の実用的・基礎知識的な科目以外は、本当に無駄としか思っていません。その割に必要単位数は少なくはなく、苦労させられます。だから、学生はとにかく単位数を稼ぐために興味もない楽勝科目ばかり選んでやる気のないまま授業に出て退屈しなければなりません。【医】

- 全学共通科目の単位取得を義務づけるのはおかしいと思う。やりたいやつだけやればいい。

【農】

といった、全学共通教育の意義そのものに対して懐疑的な記述も一部にみられる。こうしたきわめて対照的な意見の共存は、単に個々の学生の資質の差異の反映として解釈することも可能ではあろう。しかしそこには、京都大学の全学共通教育が——ひいては現代の大学教育全体が——直面しているジレンマが反映されているようにも感じられた。そのジレンマとは、端的にいえば、京都大学の「自由の学風」の伝統に代表される学問の自律性と、現在の高等教育改革の基本的な方向性をなしている、広い意味での成果主義とのあいだに生じてくるものである。このジレンマの中で京都大学の教育がすでに変化しつつある現実は、たとえば次のような学生の記述の中にもあらわれている。

- 出席点を成績評価の対象としている授業が数多くあり、自主性を重んじる京都大学の学風に憧れていたことから、現実と理想とのギャップに苦しみました。【法】

- 京大の自由な雰囲気、というのが失われつつあるのではないかと思います。……所々に「学問とは自分で勝手にするもの」という京大の学生が昔から持っていたであろう心情に反するようなシステムが見受けられ、少し残念に思いました。【薬】

このように学問の自律性や「自由の学風」の伝統を擁護する意見がある一方で、

- 普段は勉強しないでしまう雰囲気が出ているので、学生が不真面目になっていくのが当然に感じられた。学生のモチベーションに頼らず、学習させたり、するべき雰囲気を作つてほしい。【理】

- 学生の質の向上のために、学生に課題を課すべきである。一般人は（大多数の京大生も含め

て)、圧力がある方がずっと生産的になる。【医】

といったように、教育成果の向上のためのシステムのさらなる整備を求める（と解釈できる）意見も存在する。

このようなジレンマの中で、今後の京都大学の教育はどのような方向に改善の道筋を見出すべきか——この問い合わせに対してただちに一義的な解答を与えることは不可能であろう。ただ、次のような学生の意見は、この問い合わせについて考えていくうえで重要な示唆を与えるように思われる。

○大学の授業はTVの番組ではないので、どんな授業であれ、受ける側の捉え方にあると思います。「学生の声」を反映させる試みは頗もしいですが、大学の講義が「消費される商品」になってしまうのは残念です。【教育】

●自分の目標がはっきりしているためにかえって、その専門科目（建築）とのつながりがはっきりしない科目に対する意識が希薄になっていた。しかし、それは大きな間違いで本来自分にとって建築は、人間、世界を知るための手段であって目的ではない。すべてが建築のためにあるように考えたのが大きな間違いだったことに、この一年間の犠牲をもってはじめて強く認識したように思う。【工】

大学教育が、学生（という「顧客」）の側にあらかじめ存在する「ニーズ」にのみ応えるための「商品」ではなく、場合によっては（しばしば専門教育と結びつけられる）「目的」そのものをも相対化し、新たな自己発見や世界観の変革をもたらす可能性のある反省的な営為であるということ。この可能性をより拡大していく方向にこそ、今後の京都大学の教育の真の「成果」は求められていかなければならぬのではないだろうか。

2回生進級時アンケート

平成 18 年 4 月

京都大学高等教育研究開発推進機構

この 1 年間の大学生活の中で、京都大学の教育に対してどのような感想を持たれたでしょうか。このたび、2回生に進級された皆さんを対象としたアンケート調査を実施することにいたしました。今回のアンケート調査用紙とあわせて、1年前の新入生ガイダンスの際、入学にあたっての抱負とガイダンスを受けての期待などを自由記述願ったアンケートを同封しますので、それを参考に、この 1 年間の全学共通科目を中心とした学習に対し、どのように感じあるいは考えたか、率直な意見をお聞かせください。

記入後のアンケート用紙は、同封の返信用封筒に厳封のうえ、**4月21日（金）までに**、共通教育教務掛前のレポートボックス、又は各学部（学科）の教務掛に設置の回収箱に投函、もしくは郵送にて送付願います。郵送の場合の料金は受取人払いとなっていますので、切手を貼らずに投函して下さい。

**今後の全学共通教育の改善にあなたの意見を反映させるための
重要な調査ですので、必ず回答していただくようお願いします。**

なお、アンケートには氏名や学籍番号など、記述者を特定する情報を記入する必要はありません。回答は統計的に処理され、個人を特定するもしくは個人に関わる情報は完全に保護されます。また調査結果は本学の教育改善のための資料とするもので、目的以外に使用されることはありません。

本アンケート調査は、本機構において授業改善の資料として活用するほか、報告書等に取り纏める予定です。

(問い合わせ先)

共通教育推進課 2回生進級時アンケート担当

TEL: 075-753-6513

FAX: 075-753-6691

* * * 記入上の注意 * * *

1. 質問は、問 1 から問 9 まで（計 4 ページ）です。
2. 特に指定のない場合は、最も当てはまる項目 1 つだけを選び、番号に○をつけてください。
3. 1 ページ右上の「整理番号」欄には記入しないでください。

整理番号	
------	--

問1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男 2 女

問2 あなたの所属学部をお答えください（総合人間学部は、人間科学系・国際文明学系・文化環境学系の方は「文系」、認知情報学系・自然科学系の方は「理系」を選んでください）。

- | | | |
|--------------|--------------|--------|
| 1 総合人間学部（文系） | 2 総合人間学部（理系） | 3 文学部 |
| 4 教育学部 | 5 法学部 | 6 経済学部 |
| 8 医学部 | 9 薬学部 | 10 工学部 |
| | | 11 農学部 |

問3 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から現在まで、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右下の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

- | |
|--|
| (学習意欲) 1. 非常に意欲あり 2. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
4. あまり意欲なし 5. まったく意欲なし |
|--|

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数／週	授業外学習時間／日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間
現在		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数／週	授業外学習時間／日
入学当初	1	15 コマ	1.5 時間
前期半ば	2	〃	〃
後期開始	2	4 コマ	3 時間
後期半ば	2	〃	〃
現在	1	12 コマ	〃

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」で記入してください

*現在の「授業出席コマ数」は、4月から出席を予定しているコマ数を記入してください

問4 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 納得している | 2 どちらかといえば納得している |
| 3 どちらかといえば納得できない | 4 納得できない |

B. A. で3または4を選んだ人にお尋ねします（1または2を選んだ人は問5に進んでください）。成績評価に納得できなかった理由は何ですか。あてはまるすべての番号に○を（最も重要なものは1つには◎を）付けてください。

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1 成績評価が厳しすぎる | 2 成績評価が甘すぎる |
| 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった | 4 成績評価の基準・方法が不公正である |
| 5 その他（
） | |

問5 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

- A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。

下記の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。科目群は、A, B, C, Dのうちの1つを○で囲んでください（AB群など複合科目の場合は、たとえばA群として履修登録した場合はAだけを○で囲んでください）。また、それぞれの科目に満足した理由について、あてはまるすべてのものに○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①				科目②				科目③				
開講期	前期・後期・通年				前期・後期・通年				前期・後期・通年				
曜日・時限	曜限				曜限				曜限				
科目名													
科目群	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	
満足した理由	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった		2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた		3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた		
	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた		5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた		6 その他	6 その他	6 その他		

- B. あなたがとくに不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問6に進んでください）。

次頁の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。科目群は、A, B, C, Dのうちの1つを○で囲んでください（AB群など複合科目の場合は、たとえばA群として履修登録した場合はAだけを○で囲んでください）。また、それぞれの科目に不満だった理由について、あてはまるすべての箇所に○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時間	曜限	曜限	曜限
科目名			
科目群	A B C D	A B C D	A B C D
不満だった理由	1 授業の内容に興味をもてなかつた	1 授業の内容に興味をもてなかつた	1 授業の内容に興味をもてなかつた
	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかつた
	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた	3 授業の進め方に工夫がみられなかつた
	4 担当教員が不熱心だつた	4 担当教員が不熱心だつた	4 担当教員が不熱心だつた
	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた	5 成績評価の方法や結果に納得できなかつた
	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があつた
	7 その他 〔〕	7 その他 〔〕	7 その他 〔〕

問6 あなたは入学当初、京都大学の全学共通教育に対して、次の各項目をそれぞれどの程度期待していましたか。

期待していた	どちらかといえば		どちらかといえば	
	期待していた	期待していなかった	期待していなかった	期待していなかつた
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員との交流	1	2	3	4
E. 学生どうしの交流	1	2	3	4
F. 自分の研究分野の決定の手がかり	1	2	3	4
G. 自分の研究内容へのヒントや刺激	1	2	3	4

問7 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかつた | 4 実現されなかつた |

問8 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべての番号に○をつけてください。最も強い要望一つには⑦を付けてください。

- 1 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 2 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 3 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 4 授業にもっと熱意をもってほしい
- 5 学生とのコミュニケーションをもっととてほしい
- 6 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 7 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 8 その他 ()

問9 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

* * * 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。* * *